

作善業としての瓦経

伊勢小町塚・菩提山瓦経の復原から

村木二郎

Gakyo, for the Aim to be Reborn in Paradise: by the Restoration of Gakyo Buried at Ise-Komachizuka and Ise-Bodaisan

はじめに

- ① 瓦経の研究史
- ② 小町塚瓦経と菩提山瓦経
- ③ 瓦経の復原
- ④ 小町塚・菩提山瓦経の内訳
- ⑤ 作善業としての瓦経

【論文要旨】

経塚は弥勒信仰や阿弥陀信仰などの様々な影響のもと造られた。それが時代を経るにしたがって、経塚を造る功德によって極楽往生を願う、という阿弥陀信仰に収斂されていく。ところで、紙に書いた経典を埋める一般的な紙本経塚以外に、粘土板に経典を刻んで焼き上げたものを埋納した瓦経塚がある。紙が腐ってしまうのに対し、瓦経は「不朽」なので、弥勒下生の時まで残すことができるのである。このため瓦経は弥勒信仰による経塚の象徴として位置付けられてきた。

同時に作られ二ヶ所に埋納された、伊勢小町塚瓦経と菩提山瓦経は遺物が混乱している。ところで、国立歴史民俗博物館所蔵拓本集に、確実に小町塚から出土したことが判る瓦経片が収集されている。これを分析することにより、両者の遺物は埋納当初から混ざっていたことが判明した。すなわち作ることに重点がおかれ、埋納、保存には意が注がれなかったのである。このことから最後の紀年銘瓦経である小町塚・菩提

山瓦経には弥勒信仰の影は薄く、当時の紙本経塚同様、作善業としての阿弥陀信仰の所産であったことを論証し、瓦経がこれ以後作られなくなった意味を説く。

はじめに

瓦経は粘土板に経文を刻み付けた遺物である⁽¹⁾。これは経塚遺物の一種であり、製作当初から土中に埋納することを目的としている。屋根に葺くようなことはない。故に粘土板経とも呼んだ方が誤解がなくていいかもしれない。しかし「瓦経」あるいは「経瓦」の用語は古く、江戸時代に出土した播磨極楽寺瓦経に関する記述では「寛政十二年 姫路須賀院村常福寺之山より掘出候経瓦ハ……」……「扱其奉納の瓦経の目録……」などと、寛政十一年（一八〇〇）から享和二年（一八〇二）にかけて書かれた「六臣譚筆 四止」で既に見られる。また、極楽寺瓦経の願文にも「造清淨瓦其上奉彫圖寫金剛界九會法曼荼羅……又同瓦上奉彫書寫寶篋印陀羅尼經……」などとあり、瓦の上に曼荼羅あるいは経文を彫ったと認識している。伊勢小町塚瓦経の金剛頂経上巻奥書にも「白瓷瓦四三部」という文字が見える。

さて、本来瓦とは無縁であるはずの遺物だが、このように理解しているためか、瓦経は古瓦のコレクションに混じっていることが往々見られる。国立歴史民俗博物館（以下歴博）の古瓦を集めた「宇野信四郎コレクション」⁽²⁾（田熊・天野編 一九九四）に瓦経が七点、瓦経拓本集が二冊、同じく「水木コレクション」に瓦経が五点含まれている。特に拓本集には第一集に四三点、第二集に三〇点もの拓本が載っており（重複するものが一点あるので、合計七二点）、その大半は現物資料が行方不明になっているものである。今回それらを復原整理したので、その結果を示すとともに、若干の考察を加えたい。

① 瓦経の研究史

瓦経の研究は江戸時代にまでさかのぼる。これらは好古趣味的な収集であるが、各地でそれまでに出土していた瓦経の拓本が採られ、古瓦の拓本集などに収められている。中でも重要なものは兵庫県神崎郡香寺町常福寺の裏山から発見された極楽寺瓦経で、発見当時の姫路藩主酒井忠道が採らせた拓本が、約五〇〇点分残っている。和田千吉氏はそれに含まれる一一枚の願文から、写経の行われた場所や願主に関する考察を行った⁽³⁾（和田 一九〇二）。一九九五～九六年の調査で姫路城内堀から、拓本を採られた瓦経の現物資料が五一枚分出土している⁽⁴⁾（姫路市教育委員会 一九九九）。

本格的な研究が行われるようになるのは昭和に入ってからである。経塚が造られた動機のひとつに、末法の世を救うため弥勒如来がこの世に下生する五六億七千万年後まで経典を埋納して残そうとした、という考えがある。一般的な経塚に見られる紙本⁽⁵⁾と違い、瓦経は不朽である。極楽寺瓦経の願文にも「慈氏下生五十六億七千萬歳之時為施不懷不朽之利益」「瓦文不朽」と記されており、恒久性が意識されている。平安時代の経塚を弥勒信仰の所産と考えていた石田茂作氏は、中でも保存的意図を最も顕著に表している遺物として瓦経を位置付けた⁽⁶⁾（石田 一九二七）。その後、経塚造営は阿弥陀信仰ほか様々な意図を含んでいたと見る諸氏も、瓦経塚に関しては弥勒信仰の影響を強調した⁽⁷⁾（矢島 一九五七）。一九五八年、岡山県倉敷市安養寺経塚群で瓦経塚として初めての発掘調査が行われ、その遺構の状態が明らかにされた⁽⁸⁾（鎌木編 一九六三）。それは「埋納に際して、経文の順序を全く無視し、十種にものばる経典を、まるでカードをくつた様な状態のまま、簡単な掘り込みの中に埋めてあった」。間壁忠彦・間壁葎子両氏は、従来の願文からの検

討ではなく埋納遺構から「弥勒の世に完全な經典を残そう」という意思よりも、むしろ、瓦経を造りあげることに大きな意義を感じていた」と解釈した。更に各地の瓦経願文の再検討を通じ、瓦経塚造営もまた極楽往生のための作善業に過ぎず、「労力をかけるだけ功德が大きいとする従来までの「業の功德」の思想を根強く残したもの」として、瓦経塚と紙本経塚の差を量的なものとする見方を提示した。安養寺瓦経願文に『往生要集』の一節が引用されていることも、浄土思想の強い影響を裏付けている〔間壁 一九六五〕。杉山洋氏も、複数の経塚を造営する例と共に、「埋納時の重量・体積は格段に多い」瓦経塚を、「当時の作善業に見られる多量性への志向」と捉えている。また、杉山氏は瓦経塚と窯業地との密接な関係、更には「窯業生産に通じた勸進僧の存在」に注目し、これまでの瓦経塚造営の意図という内的要因だけではなく、立地条件という外的要因をも重視している〔杉山 一九八五〕。

こういった瓦経塚の意義に関する研究に対して、瓦経の復原に関する研究がある。この研究の嚆矢も石田氏で、各地の瓦経片を収集して一般に瓦経は瓦経塚ごとに規格を持つことを明示すると、それらを經典と照らし合わせることで、經典の種類、瓦経一枚の文字数、行数を明らかにし、一經典の書写に費やす瓦経の枚数、更に一瓦経塚全体の瓦経の枚数を算出し、瓦経塚の規模を推定するという方法を立てた〔石田 一九五八〕。一括資料は愚か完形遺物も稀な瓦経の研究を行うには、各地に散逸した出土地不明の瓦経片の復原という基礎作業は不可欠であり、これ以後この方面からの研究が盛んに行われることになる。網干善教氏や難波田徹氏は、伯耆大日寺瓦経や小町塚瓦経を中心に、各地の博物館や大学、個人所蔵の瓦経の復原研究を行い、基礎資料の充実を図っている。

そのほかにも諸氏によって、京都〔杉山 一九八五〕や四国〔千葉 一九七九〕の瓦経といった地域単位の研究や、小町塚〔和田 一九八〇〕、極

楽寺〔安藤 一九九七〕、美作間山〔間壁 一九九三〕、筑前愛宕山〔高野 一九七四〕、筑前飯盛山〔八尋 一九八二〕といった個々の瓦経塚に関する研究もなされている。また、一九九一年に佐賀県佐賀郡大和町築山瓦経塚の発掘調査が行われ、経巻が各巻ごとに整然と平積み埋納された状況が明らかになったのは重要である〔大和町教育委員会 一九九四〕〔松本 一九九九〕。

②小町塚瓦経と菩提山瓦経

小町塚瓦経は、奥書と共に埋納された陶製光背に多くの人名その他が記されており、奥村秀雄氏や和田年弥氏が詳細な検討をしている〔奥村 一九六五〕〔和田 一九八〇〕。それによると、小町塚瓦経塚は大願主金剛仏子遵西や沙門西観を中心に、壇越度会神主常章、度会春章ほか地元の有力者である荒木田氏、佐伯氏、磯部氏の協力のもと造営された。実際に写経を行ったのは筆師僧遵西、僧定禪、僧聖賢らで、承安四年（一一七四）五月から六月（七月）の日付が確認できる。また、伊勢菩提山出土と伝えられる瓦経にも、大願法主沙門西観、金剛仏子遵西ほかほぼ同様の人名が見られ、承安四年七月と記されている。これらはいずれも「三河國渥美郡伊良湖郷」で製作されており、一九六六年、実際に愛知県渥美郡渥美町伊良湖字瓦場の瓦窯跡から二点の瓦経片が出土している。当時渥美半島は伊勢神宮の支配下にあったが、朝熊山、蓮台寺滝ノ口経塚群をはじめ、亀谷（旧世義寺址）、丁塚、豆石山経塚といった伊勢市内や周辺の多くの経塚から渥美産の陶製経筒（外容器）が出土している。また渥美半島出土の保美瓦経、亀谷、朝熊山経塚群出土遺物には小町塚・菩提山瓦経に現れる人名が見られ、朝熊山、蓮台寺滝ノ口の両経塚群からは「保元、年六月廿九日」と記された陶製経筒（外容器）が出土している。このようにこの地域の経塚は密接な関係にあり、特定の

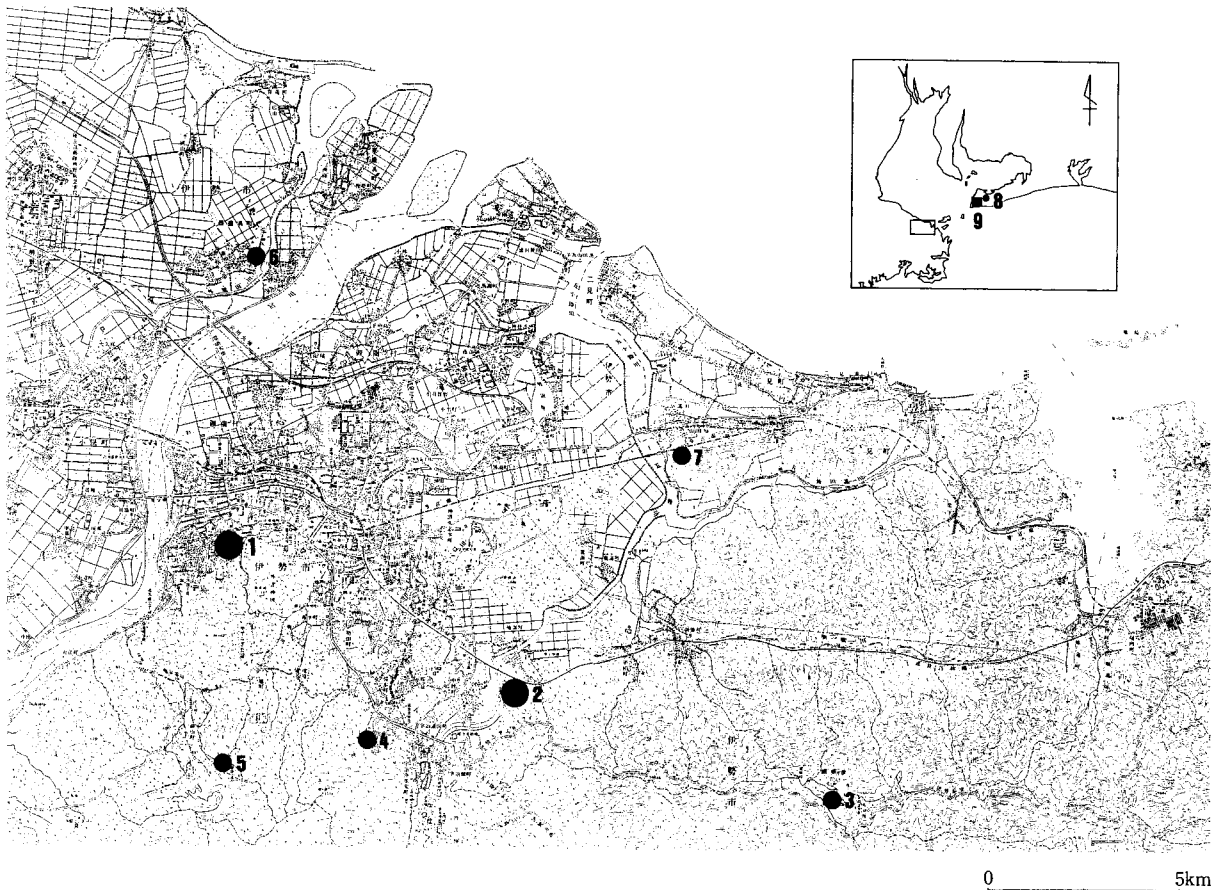


図 伊勢周辺の経塚 (1 小町塚瓦経塚、2 菩提山瓦経塚、3 朝熊山経塚群、4 蓮台寺滝ノ口経塚群、5 亀谷経塚、6 丁塚経塚、7 豆石山経塚、8 保美瓦経塚、9 伊良湖瓦窯跡)

勧進集団によって造営されたことが想定できる。そういった組織が整っていたからこそ、集中的に経塚が造られた地域とも言えよう。

小町塚瓦経塚は三重県伊勢市浦口に所在する。標高二〇mと比較的低い段丘上ではあるが、眺望は極めて良く、経塚に一般的な立地である。この地は古くから「旦過村」「天神山」などとも呼ばれており、小町塚瓦経の註記も様々に記されている。ところで、小町塚瓦経塚はしばしば菩提山瓦経塚と混同されてきた。本稿で述べるように両者の瓦経は渥美半島で同時に焼成されたと考えられ、遺物だけ取り出してみると全く区別がつかない。いずれも遺跡は既に破壊されているため確認できず、菩提山瓦経塚と小町塚瓦経塚は同一のものと考えられる向きもあった。しかし、菩提山からの出土が確かな瓦経が紹介され〔津田 一九七六〕、和田氏の詳細な検討からも小町塚とは別に瓦経塚があったことが証明された〔和田 一九九〇〕。だが、菩提山出土と伝えられる瓦経片と小町塚出土と伝えられる瓦経片が接合することもあり、個々の破片に記された註記をそのまま信用するわけにはいかない。中には「伊勢菩提山小町塚」と記されているものもある。故に、両瓦経は一緒にして復原し、その中から確実に小町塚出土、菩提山出土と判るものを抽出していく作業が必要である。

「宇野信四郎コレクション」には二冊の瓦経拓本集が含まれている。一冊は表紙に「伊勢山田小町塚瓦経□集」とあり、内表紙には「伊勢小町塚瓦経／白清題」と記す。奥書はない。もう一冊は表紙に「伊勢山田小町塚瓦経二集」とあり、内表紙には「伊勢小町塚瓦経 一二、奥書には「大正二年一月亀田考古堂子遊伊勢親探小町塚畔獲／瓦経数百片予即乞而取得其大半而拓殘餘以作／是篇可惜其物今既散逸／大正三年十月林若樹識」と記し、次のページには別筆で「昭和二年九月月／拜呈宇野先生 南條生」と書かれている。(前者を「宇野拓一」、後者を「宇野拓二」と呼ぶことにする。また個々の瓦経については拓本の順番通りに、

「宇野拓一―四」「宇野拓二―三〇」などと呼ぶ。)この二冊は当初よりセットのものか、後に同じ装丁にしたのか不明である。「宇野拓一―三〇」と「宇野拓二―一六」が同一個体の異拓なので、両者は別の来歴をもち、「宇野信四郎コレクション」に収まつて一緒になったものとも考えられる。しかし、以下の復原過程で示すように、現物資料が関西大学に所蔵されている拓本が「宇野拓一」に二点、「宇野拓二」に四点と二冊にまたがっている。このことから、両者の遺物は採集当初からひとつのまとまりを持っており、二冊の拓本集は一連のものであったと考えた方が自然であろう。すなわち、大正二年一月に亀田考古堂子が伊勢小町塚で採集した数百片の瓦経を、林若樹氏が拓本に採り、七三片(七十二片)の拓本を大正三年十月に二冊の拓本集にまとめた。その時には既に現物は散逸していたという。その後、この拓本集は南條生氏の手を経て、昭和二十六年六月に宇野信四郎氏のもとに収まった。そして更に、平成八年に歴博に寄贈されたという経緯になる。拓本に採られた遺物自体は現在散逸してしまっているが、いくつかは所蔵先の判るものもある。ところで、この拓本集に載っている遺物に関しては、来歴を読む限り、全て小町塚から出土した遺物とみなしてよからう。前述の通り小町塚出土と菩提山出土の瓦経で確実に出土地を特定できるものは少なく、この二冊の拓本集の資料的価値は高く評価できる。

歴博はほかにも数点小町塚(あるいは菩提山)瓦経を所蔵しており、この機会に紹介しておく。

以下、復原結果に基いて、法華経(妙法蓮華経)、無量義経、観普賢経(仏説観普賢菩薩行法経)、大日経(大毘盧遮那成佛神變加持経)、金剛頂経(金剛頂一切如来真実観大乘現証大教王経)、蘇悉地経(蘇悉地羯羅経)、梵字及連記瓦経の順に示す。歴博所蔵資料該当部は太字で表す。法量は最長を示す。また、拓本は全て縮尺二分の一である。

なお、小町塚・菩提山瓦経は従来の研究で基本的には両面書写、片面

一五行×一七文字という規格に沿って写経されたことが判っている。本稿ではこの規格を小町塚規格と呼ぶことにする。

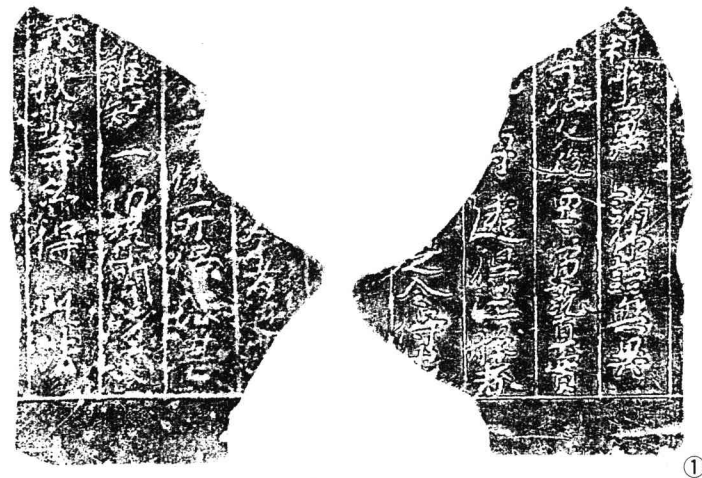
③瓦経の復原

①法華経巻第一 一〇枚目

宇野拓一―二二

- 1 一切漏已尽住是最后身如是諸人等其力所不堪
- 2 假使滿世間皆如舍利弗尽思共度量不能測仏智
- 3 正使滿十方皆如舍利弗及余諸弟子亦滿十方利
- 4 尽思共度量亦復不能知辟支仏利智無漏最後身
- 5 亦滿十方界其数如竹林斯等共一心於億無量劫
- 6 欲思仏実智莫能知少分新發意菩薩供養無數仏
- 7 了達諸義趣又能善説法如稻麻竹葦充滿十方刹
- 8 一心以妙智於恒河沙劫咸皆共思量不能知仏智
- 9 不退諸菩薩其数如恒沙一心共思求亦復不能知
- 10 又告舍利弗無漏不思議甚深微妙法我今已具得
- 11 唯我知是相十方仏亦然舍利弗当知諸仏語無異
- 12 於仏所説法当生大信力世尊法久後要当説真実
- 13 告諸声聞衆及求縁覚乘我令脱苦縛速得涅槃者
- 14 仏以方便力示以三乗教衆生処処著引之令得出
- 15 爾時大衆中有諸声聞漏尽阿羅漢阿若憍
- 1 陳如等千二百人及発声聞辟支仏心比丘
- 2 比丘尼優婆塞優婆夷各作是念今者世尊
- 3 何故慇懃称歎方便而作是言仏所得法甚

13 深難解有所言說意趣難知一切声聞辟支
12 仏所不能及仏説一解脱義我等亦得此法
11 到於涅槃而今不知是義所趣爾時舍利弗
10 知四衆心疑自亦未了而白仏言世尊何因
9 何縁慙歎称歎諸仏第一方便甚深微妙難
8 解之法我自昔来未曾從仏聞如是説今者
7 四衆咸皆有疑唯願世尊敷演斯事世尊何
6 故慙歎称歎甚深微妙難解之法爾時舍利
5 弗欲重宣此義而説偈言
4 慧日大聖尊久乃説是法自説得如是力無畏三昧

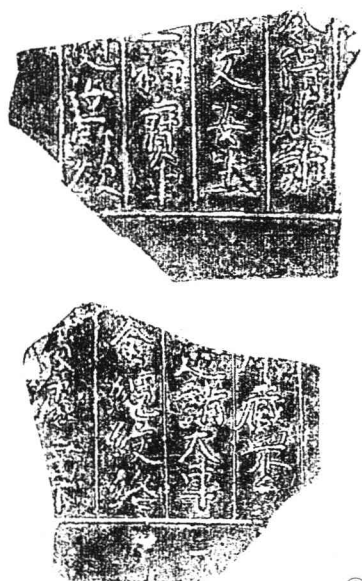


①

14 禪定解脫等不可思議法道場所得法無能發問者
15 我意難可測亦無能問者無問而自説称歎所行道
縦一二・二cm、横九・〇cm。表面一〇〜一四行目、裏面二〜五行目。
京都国立博物館（以下京博）所蔵品（——線部、「難波田一九八〇」）
と接合し、左下角（表面から見て。以下同様）が判る。小町塚規格で冒
頭より割付けると、法華經一卷一枚目となり一字のずれもなく書写さ
れている。
②法華經卷第二 一〇枚目
宇野拓一・二九
1 是時長者而作是念諸子如此益我愁惱
2 今此舍宅無一可樂而諸子等耽湏嬉戲
3 不受我教將為火害即便思惟設諸方便
4 告諸子等我有種種珍玩之具妙宝好車
5 羊車鹿車大牛之車今在門外汝等出来
6 吾為汝等造作此車隨意所樂可以遊戲
7 諸子聞説如此諸車即時奔競馳走而出
8 到於空地離諸苦難長者見子得出火宅
9 住於四衢坐師子座而自慶言我今快樂
10 此諸子等生育甚難愚小無知而入險宅
11 多諸毒虫魑魅可畏大火猛焰四面俱起
12 而此諸子貪樂嬉戲我已救之令得脱難
13 是故諸人我今快樂爾時諸子知父安坐
14 皆詣父所而白父言願賜我等三種宝車
15 如前所許諸子出来当以三車随汝所欲

1 今正是時唯垂給与長者大富庫藏衆多
2 金銀瑠璃磚礪碼礪以衆宝物造諸大車
3 莊校嚴飾周市欄楯四面懸鈴金繩絞絡
4 真珠羅網張施其上金華諸纓处处垂下
5 衆綵雜飾周市圍繞柔軟繪繡以為茵蓐
6 上妙細氈值直千億鮮白淨潔以覆其上
7 有大白牛肥壯多力形体妹好以駕宝車
8 多諸僮從而侍衛之以是妙車等賜諸子
9 諸子是時歡喜踊躍乘是宝車遊於四方
10 嬉戲快樂自在無礙告舍利弗我亦如是
11 衆聖中尊世間之父一切衆生皆是吾子
12 深著世樂無有慧心三界無安猶如火宅
13 衆苦充滿甚可怖畏常有生老病死憂患
14 如是等火熾然不息如來已離三界火宅
15 寂然閑居安处林野今此三界皆是我有

縦七・四cm、横九・三cm。表面一、二、一五行目、裏面一、四行目。左下角部分。



②

小町塚規格で割付けると、冒頭から一字のずれもなく、法華經二卷一枚目に復原できる。

③法華經卷三 三枚目

水木六〇六

1 称其大小各得生長根茎枝葉華果光色
2 一雨所及皆得鮮沢如其体相性分大小
3 所潤是一而各滋茂仏亦如是出現於世
4 譬如大雲普覆一切既出于世為諸衆生
5 分別演說諸法之実大聖世尊於諸天人
6 一切衆中而宣是言我為如來兩足之尊
7 出于世間猶如大雲充潤一切枯槁衆生
8 皆令離苦得安穩樂世間之衆及涅槃衆
9 諸天人衆一心善聽皆応到此觀無上尊
10 我為世尊無能及者安穩衆生故現於世
11 為大衆說甘露淨法其法一味解脫涅槃
12 以一妙音演暢斯義常為大乘而作因縁
13 我觀一切普皆平等無有彼此愛憎之心
14 我無貪著亦無限礙恒為一切平等說法
15 如為一人衆多亦然常演說法曾無他事



③

1 去來坐立終不疲厭充足世間如雨普潤
2 貴賤上下持戒毀戒威儀具足及不具足
3 正見邪見利根鈍根等雨法雨而無懈倦
4 一切衆生聞我法者隨力所受住於諸地
5 或処人天轉輪聖王釈梵諸王是小藥草
6 知無漏法能得涅槃起六神通及得三明
7 独処山林常行禪定得緣覺証是中藥草
8 求世尊処我当作仏行精進定是上藥草
9 又諸仏子専心仏道常行慈悲自知作仏
10 決定無疑是名小樹安住神通転不退輪
11 度無量億百千衆生如是菩薩名為大樹
12 仏平等説如一味雨隨衆生性所受不同
13 如彼草木所稟各異仏以此喻方便開示
14 種種言辭演説一法於仏智慧如海一滴
15 我雨法雨充滿世間一味之法隨力修行

縦五・三cm、横四・一cm、厚一・五cm。表面一一一二行目、裏面四
五五行目。黄灰褐色、灰黒色。

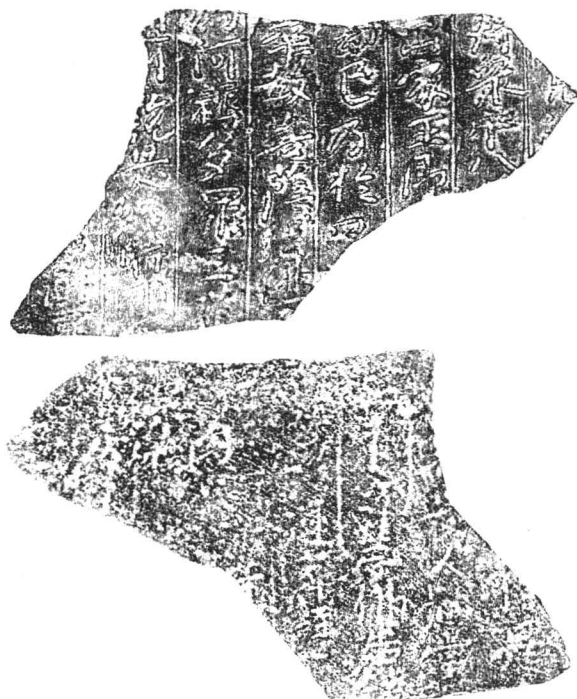
冒頭より小町塚規格で割付けられており、一字のずれもなく法華経三
卷三枚目に復原できる。

④法華経卷第三 一五枚目

宇野拓一 一一二

1 耨多羅三藐三菩提法我等聞已皆共修学
2 世尊我等志願如來知見深心所念仏自証
3 知爾時轉輪聖王所將衆中八万億人見十

4 六王子出家亦求出家王即聽許爾時彼仏
5 受沙弥請過二万劫已乃於四衆之中説是
6 大乘經名妙法蓮華教菩薩法仏所護念説
7 是經已十六沙弥為阿耨多羅三藐三菩提
8 故皆共受持諷誦通利説是經時十六菩薩
9 沙弥皆悉信受声聞衆中亦有信解其余衆
10 生千万億種皆生疑惑仏説是經於八千劫
11 未曾休廢説此經已即入静室住於禪定八
12 万四千劫是時十六菩薩沙弥知仏入室寂
13 然禪定各昇法座亦於八万四千劫為四部
14 衆広説分別妙法華經一一皆度六百万億
15 那由他恒河沙等衆生示教利喜令発阿耨



④

1 多羅三藐三菩提心大通智勝仏過八万四
2 千劫已從三昧起往詣法座安詳而坐普告
3 大衆是十六菩薩沙弥甚為希有諸根通利
4 智慧明了已曾供養無量千万億數諸仏於
5 諸仏所常修梵行受持仏智開示衆生令人
6 其中汝等皆當數親近而供養之所以者
7 何若声聞辟支仏及諸菩薩能信是十六菩
8 薩所説經法受持不毀者是人皆當得阿耨
9 多羅三藐三菩提如來之慧仏告諸比丘是
10 十六菩薩常樂説是妙法蓮華經一一菩薩
11 所化六百万億耶由佗恒河沙等衆生世世
12 所生与菩薩俱從其聞法悉皆信解以此因
13 縁得值四万億諸仏世尊于今不尽諸比丘
14 我今語汝彼仏弟子十六沙弥今皆得阿耨
15 多羅三藐三菩提於十方国土現在説法有

縦九・二cm、横一四・九cm。表面二〜九行目、裏面七〜一四行目。裏面は非常に不鮮明なため、一二〜一四行目の文字は読めない。

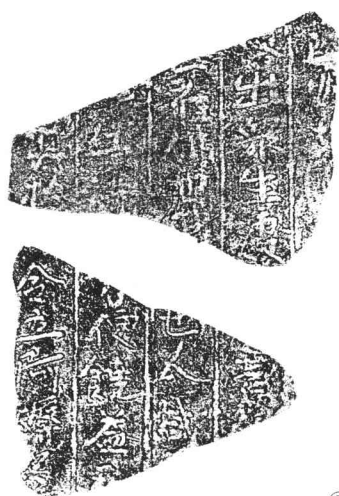
端がないため決定的ではないが、表裏のバランスから表面二〜九行目、裏面七〜一四行目と考える。一行分後ろにずれて法華經三卷一五枚目に復原できる。

ところで、伊勢市立郷土資料館所蔵品に同一個所を記した別個体が存在する。当瓦経より一行分前にずれて書かれており、小町塚規格に則っている。法華經三卷一五枚目は二点存在することになる。

⑤ 法華經卷第四 一枚目
宇野拓二一三〇

1 妙法蓮華經五百弟子受記品第八
2 爾時富樓那弥多羅尼子從仏聞是智慧方
3 便隨宜説法又聞授諸大弟子阿耨多羅三
4 藐三菩提記復聞宿世因縁之事復聞諸仏
5 有大自在神通之力得未曾有心淨踊躍即
6 從座起到於仏前頭面礼足却住一面瞻仰
7 尊顏目不暫捨而作是念世尊甚奇特所為
8 希有隨順世間若干種性以方便知見而為
9 説法拔出衆生処処貪著我等於仏功德言
10 不能宣唯仏世尊能知我等深心本願爾時
11 仏告諸比丘汝等見是富樓那弥多羅尼子
12 不我常称其於説法人中最高第一亦常歎
13 其種種功德精勤護持助宣我法能於四衆
14 示教利喜具足解釈仏之正法而大饒益同
15 梵行者自捨如來無能尽其言論之弁汝等

1 勿謂富樓那但能護持助宣我法亦於過去
2 九十億諸仏所護持助宣仏之正法於彼説



⑤

3 法人中亦最第一又於諸仏所說空法明了
4 通達得四無礙智常能審諦清淨說法無有
5 疑惑具足菩薩神通之力隨其壽命常修梵
6 行彼仏世人咸皆謂之實是聲聞而富樓那
7 以斯方便饒益无量百千衆生又化無量阿
8 僧祇人令立阿耨多羅三藐三菩提為淨仏
9 土故常作仏事教化衆生諸比丘富樓那亦
10 於七仏說法人中而得第一今於我所說法
11 人中亦為第一於賢劫中當來諸仏說法人
12 中亦復第一而皆護持助宣仏法亦於未來
13 護持助宣無量無辺諸仏之法教化饒益無
14 量衆生令立阿耨多羅三藐三菩提為淨仏
15 土故常勤精進教化衆生漸漸具足菩薩之

縦六・八 cm、横九・一 cm。表面八〇一二行目、裏面五〇八行目。東京
国立博物館（以下東博）所蔵品に、小町塚出土と伝えるこの拓本の現物
資料がある。

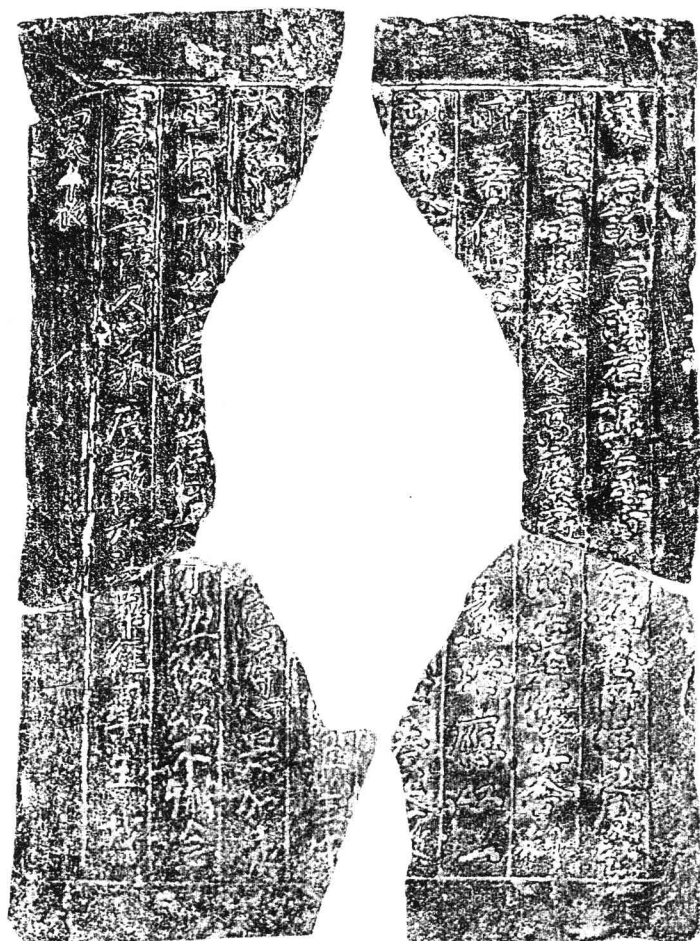
関西大学所蔵品（――線部、「網干一九八二a」）と接合する。
法華經四卷一枚目で、小町塚規格に則っている。

⑥法華經卷第四 一〇枚目
宇野拓一・六・二・一一五

1 処若說若誦若書若經卷所住之處皆
2 応起七宝塔極令高広嚴飾不須復安舍利
3 所以者何此中已有如來全身此塔應以一
4 切華香瓔珞繪蓋幢幡伎樂歌頌供養恭敬

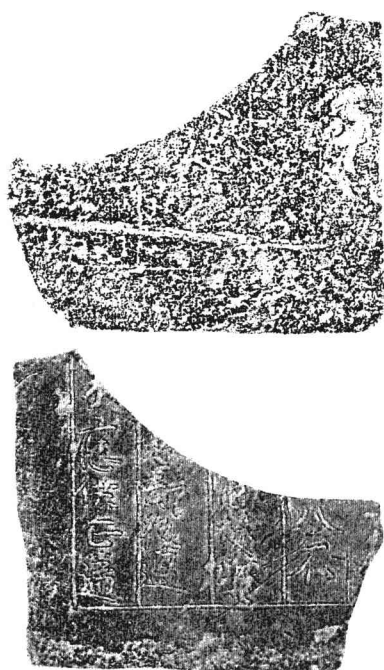
5 尊重讚歎若有人得見此塔礼拝供養當知
6 是等皆近阿耨多羅三藐三菩提藥王多有
7 人在家出家行菩薩道若不能得見聞誦誦
8 書持供養是法華經者當知是人未善行菩
9 薩道若有得聞是經典者乃能善行菩薩之
10 道其有衆生求仏道者若見若聞是法華經
11 聞已信解受持者當知是人得近阿耨多羅
12 三藐三菩提藥王譬如有入渴乏須水於彼
13 高原穿鑿求之猶見乾土知水尚遠施功不
14 已転見濕土遂漸至泥其心決定知水必近
15 菩薩亦復如是若未聞未解未能修習是法

1 華經當知是人去阿耨多羅三藐三菩提尚
2 遠若得聞解思惟修習必知得近阿耨多羅
3 三藐三菩提所以者何一切菩薩阿耨多羅
4 三藐三菩提皆屬此經此經開方便門示真
5 實相是法華經藏深固幽遠無人能到今仏
6 教化成就菩薩而為開示藥王若有菩薩聞
7 是法華經驚疑怖畏當知是為新發意菩薩
8 若声聞人間是經驚疑怖畏當知是為增上
9 慢者藥王若有善男子善女人如來滅後欲
10 為四衆說是法華經者云何應說是善男子
11 善女人入如來室著如來衣坐如來座爾乃
12 應為四衆広説斯經如來室者一切衆生中
13 大慈悲心是如來衣者柔和忍辱心是如來
14 座者一切法空是安住是中然後以不懈怠
15 心為諸菩薩及四衆広説是法華經藥王我



⑥

宇野拓二一六は縦一五・七cm、横八・六cm。表面一〇四行目、裏面一二一五行目。右上角部分。裏面欄外左上に「四卷十枚」の丁付。
宇野拓二一五は縦一〇・七cm、横九・六cm。表面一〇四行目、裏面一二一五行目。右下角部分。
京都大学所蔵品（——線部）に同一個体で別の部分がある。前二者は接合し、右端部分が全て復原できる。右端の縦の長さは二四・四cmになる。
丁付から法華經四卷一〇枚目であることが判る。割付からも小町塚規格に反していない。



⑦

⑦法華經卷第五 一枚目
宇野拓二一二

1 妙法蓮華經提婆達多品第十二
2 爾時仏告諸菩薩及天人四衆吾於過去無
3 量劫中求法華經無有懈倦於多劫中常作
4 國王發願求於無上菩提心不退轉為欲滿
5 足六波羅蜜勤行布施心無憍惜象馬七珍
6 国城妻子奴婢僕從頭目髓腦身肉手足不
7 惜軀命時世人民壽命無量為於法故捐捨
8 国位委政太子擊鼓宣令四方求法誰能為
9 我說大乘者吾當終身供給走使時有仙人
10 來白王言我有大乘名妙法蓮華經若不違
11 我當為宣說王聞仙言歡喜踊躍即隨仙人
12 供給所須採果汲水給薪設食乃至以身而
13 作牀座身心無倦于時奉事經於千歲為於
14 法故精勤給侍令無所乏爾時世尊欲重宣

15 此義而説偈言

1 我念過去劫為求大法故雖作世国王不貪五欲衆
2 椎鐘告四方誰有大法者若為我解説身當為奴僕
3 時有阿私仙來白於大王我有微妙法世間所希有
4 若能修行者吾當為汝説時王聞仙言心生大喜悅
5 即便隨仙人供給於所須採薪及果臚隨時恭敬与
6 情存妙法故身心無懈倦普為諸衆生勤求於大法
7 亦不為己身及以五欲樂故為大国王勤求獲此法
8 遂致得成仏今故為汝説
9 仏告諸比丘爾時王者則我身是時仙人者
10 今提婆達多是由提婆達多善知識故令我
11 具足六波羅蜜慈悲喜捨三十二相八十種
12 好紫磨金色十力四無所畏四摂法十八不
13 共神通道力成等正覺広度衆生皆因提婆
14 達多善知識故告諸四衆提婆達多却後過
15 無量劫當得成仏号曰天王如来応供正遍

縦八・五cm、横九・八cm。表面一〓四行目、裏面一二〓一五行目。右下角部分。表面の拓本は不鮮明なため二行目に一部読めない箇所がある。

法華經五卷一枚目で、小町塚規格に則っている。

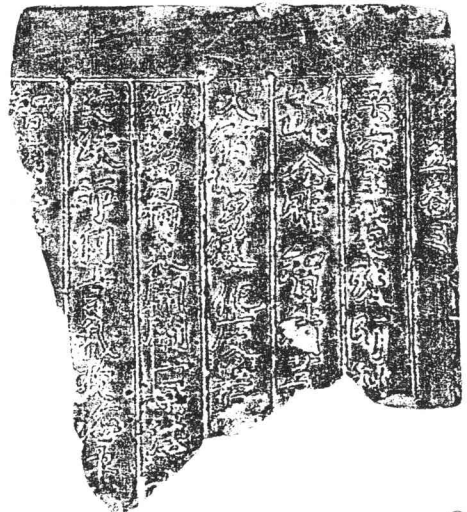
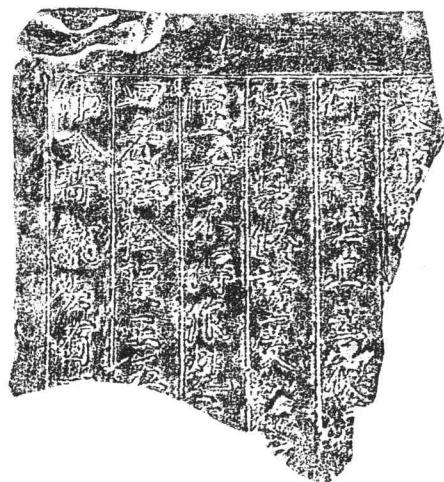
⑧ 法華經卷第五 三枚目

宇野拓一・三

1 乗空義文珠師利謂智積曰於海教化其事

2 如此爾時智積菩薩以偈讚曰

3 大智德勇健化度無量衆今此諸大会及我皆已見
4 演暢実相義開闡一乘法広導諸群生令速成菩提
5 文殊師利言我於海中唯常宣説妙法華經
6 智積菩薩問文殊師利言此經甚深微妙諸



⑧

7 經中宝世所希有頗有衆生勤如精進修行
 8 此經速得仏不文殊師利言有婆竭羅龍王
 9 女年始八歲智慧利根善知衆生諸根行業
 10 得陀羅尼諸仏所說甚深秘藏悉能受持深
 11 入禪定了達諸法於刹那頃發菩提心得
 12 退轉弁才無礙慈念衆生猶如赤子功德具
 13 足心念口演微妙広大慈悲仁讓志意和雅
 14 能至菩提智積菩薩言我見釈迦如来於無
 15 量劫難行苦行積功累德求菩薩道未曾止
 1 息觀三千大千世界乃至無有如芥子許非
 2 是菩薩捨身命處為衆生故然後乃得成菩
 3 提道不信此女於須臾頃便成正覺言論未
 4 訖時龍王女忽現於前頭面礼敬却住一面
 5 以偈讚曰
 6 深達罪福相遍照於十方微妙淨法身具相三十二
 7 以八十種好用莊嚴法身天人所戴仰龍神咸恭敬
 8 一切衆生類無不宗奉者又開成菩提唯仏当証知
 9 我聞大乘教度脫苦衆生
 10 爾時舍利弗語龍女言汝謂不久得無上道
 11 是事難信所以者何女身垢穢非是法器云
 12 何能得無上菩提仏道懸曠經無量劫勤苦
 13 積行具修諸度然後乃成又女人身猶有五
 14 障一者不得作梵天王二者帝釈三者魔王
 15 四者輪聖王五者仏身云何女身速得成
 16 仏爾時龍女有一宝珠価値三千大千世界

縦一三・四cm、横一一・七cm。表面一〇六行目、裏面一一〇六行目。右上角部分。表面欄外右上に「五卷三」の丁付がある。

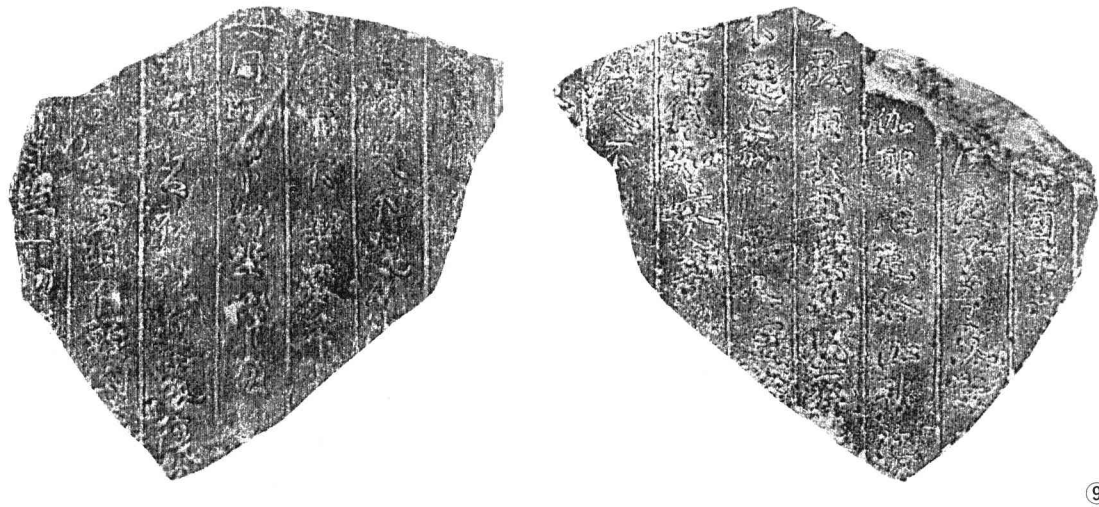
奈良県立橿原考古学研究所（以下橿考研）所蔵品（――線部、「網干一九七九a」）に同一個体の別個所があり、左下角が判る。

丁付から法華經五卷三枚目であることが判る。宇野拓一・三は經文と同定すると三一行分書写していることになるが、橿考研所蔵品から、表面は一五行で終わっている。裏面の六〇一〇行目のいずれか一行が欠落している可能性もあるが、裏面を一六行書いたとすると、小町塚規格から外れていることになる。

⑨法華經卷第五 七枚目

宇野拓二・七

1 訶薩行処若菩薩摩訶薩住忍辱地柔和善
 2 順而不卒暴心亦不驚又復於法無所行而
 3 觀諸法如実相亦不行不分別是名菩薩摩
 4 訶薩行処云何名菩薩摩訶薩親近処菩薩
 5 摩訶薩不親近国王王子大臣官長不親近
 6 諸外道梵志尼捷子等及造世俗文筆讚詠
 7 外書及路伽耶陀逆路伽耶陀者亦不親近
 8 諸有凶戲相投相撲及那羅等種種變現之
 9 戲又不親近旃陀羅及畜猪羊雞狗豕獺魚
 10 捕諸惡律儀如是人等或時來者則為說法
 11 無所怖望又不親近求声聞比丘比丘尼優
 12 婆塞優婆夷亦不問訊若於房中若經行処
 13 若在講堂中不共住止或時來者隨宜說法
 14 無所怖求文殊師利又菩薩摩訶薩不応於



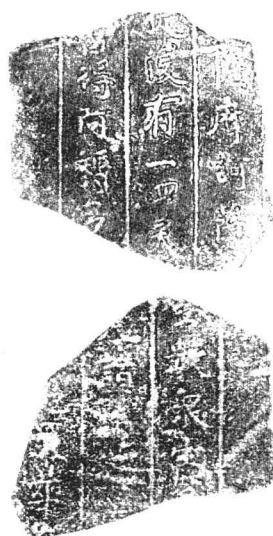
⑨

- 15 女人身取能生欲想相而為說法亦不樂見
- 1 若入他家不与小女処女寡女等共語亦復
- 2 不近五種不男之人以為親厚不独入他家
- 3 若有因縁須独入時但一心念仏若為女人
- 4 說法不露齒笑不現胸臆乃至為法猶不親
- 5 厚況復余事不樂畜年小弟子沙弥小兒亦
- 6 不樂与同師常好坐禪在於閑処修撰其心
- 7 文珠師利是名初親近処復次菩薩摩訶薩
- 8 觀一切法空如実相不顛倒不動不退不轉
- 9 如虛空無所有性一切語言道断不生不出
- 10 不起無名無相実無所有無量無辺無礙無
- 11 障但以因縁有從顛倒生故說常樂觀如是
- 12 法相是名菩薩摩訶薩第二親近処爾時世
- 13 尊欲重宣此義而說偈言
- 14 若有菩薩於後惡世無怖畏心欲說此經
- 15 応入行処及親近処常離國王及国王子

縦一二・四cm、横一四・四cm。表面五く一一行目、裏面三く九行目。
関西大学所蔵品（——線部、「網干一九八二a」）に同一個体の別個所
があり、右上角が判る。前記三枚目で一行ずれたが、それ以降小町塚規
格で割付ければ一字のずれもなく、当瓦経は法華経五卷七枚目に復原で
きる。

⑩法華経卷第六 五枚目
宇野拓一・二〇

1 遠時六百八十萬億那由他恒河沙衆生得
2 無生法忍復有千倍菩薩摩訶薩得聞持陀
3 羅尼門復有一世界微塵數菩薩摩訶薩得
4 樂說無礙弁才復有一世界微塵數菩薩摩
5 訶薩得百千萬億無量旋陀羅尼復有三千
6 大千世界微塵數菩薩摩訶薩能不退法
7 輪復有二千中國土微塵數菩薩摩訶薩能
8 轉清淨法輪復有小千國土微塵數菩薩摩
9 訶薩八生當得阿耨多羅三藐三菩提復有
10 四四天下微塵數菩薩摩訶薩四生當得阿
11 耨多羅三藐三菩提復有三四天下微塵數
12 菩薩摩訶薩三生當得阿耨多羅三藐三菩
13 提復有二四天下微塵數菩薩摩訶薩二生
14 當得阿耨多羅三藐三菩提復有一四天下
15 微塵數菩薩摩訶薩一生當得阿耨多羅三
1 貌三菩提復有八世界微塵數衆生皆發阿
2 耨多羅三藐三菩提心仏説是諸菩薩摩訶
3 薩得大法利時於虛空中雨曼陀羅華摩訶
4 曼陀羅華以散無量百千萬億寶樹下師子



⑩

5 座上諸仏並散七宝塔中師子座上釈迦牟
6 尼仏及久滅度多宝如来亦散一切諸大菩
7 薩及四部衆又雨細沫栴檀沈水香等於虛
8 空中天鼓自鳴妙声深遠又雨千種天衣垂
9 諸瓔珞真珠瓔珞摩尼珠瓔珞如意珠瓔珞
10 遍於九方衆宝香炉燒無伽香自然周至供
11 養大会一一仏上有諸菩薩執持旛蓋次第
12 而上至于梵天是諸菩薩以妙音声歌無量
13 頌讚歎諸仏爾時弥勒菩薩從座而起偏袒
14 右肩合掌向仏而説偈言
15 仏説希有法昔所未曾聞世尊有大力壽命不可量

縦七・〇cm、横七・〇cm。表面一三〇一五行目、裏面一〇三行目。左端部分。

奈良国立博物館（以下奈良博）所蔵品（——線部、「網干一九七九b」に同一個体の別個所があり、左上角が判る。

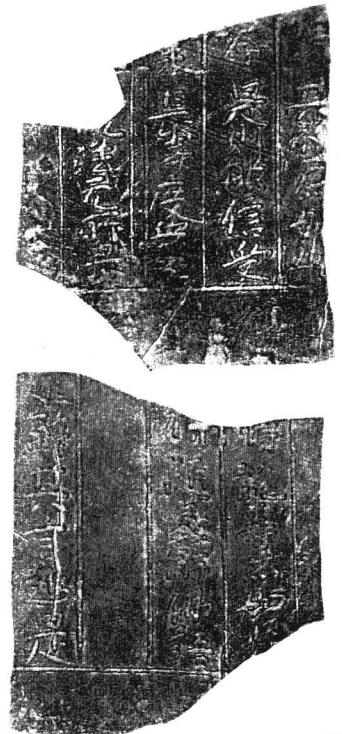
小町塚規格で冒頭から割付ければ、一字のずれもなく法華経六卷五枚目に復原できる。

⑪ 法華経卷第六 七枚目

宇野拓一 一七

1 珍異之飲食上服与臥具栴檀立精舍以園林莊嚴
2 如是等布施種種皆微妙尽此諸劫数以回向仏道
3 若復持禁戒清淨無欠漏求於無上道諸仏之所歎
4 若復行忍辱住於調柔地設衆惡来加其心不傾動
5 諸有得法者懷於增上慢為斯所輕惱如是亦能忍

6 苦復勤精進志念常堅固於無量億劫一心不懈怠
7 又於無數劫住於空閑處若坐若經行除睡常攝心
8 以是因緣故能生諸禪定八十億萬劫安住心不乱
9 持此一心福願求無上道我得一切智盡諸禪定際
10 是人於百千萬億劫數中行此諸功德如上之所說
11 有善男女等聞我說壽命乃至一念信其福過於彼
12 若人悉無有一切諸疑悔深心須臾信其福為如此
13 其有諸菩薩無量劫行道聞我說壽命是則能信受
14 如是諸人等頂受此經典願我於未來長壽度衆生
15 如今日世尊諸衆中之王道場師子吼說法无所畏
1 我等未來世一切所尊敬坐於道場時說壽亦如是
2 若有深心者清淨而質直多聞能總持隨義解仏語
3 如是諸人等於此無有疑
4 又阿逸多苦有聞仏壽命長遠解其言趣是
5 人所得功德無有限量能起如來無上之慧
6 何況広聞是經若教人聞若自持若教人持
7 若自書若教人書若以華香瓔珞幢幡繪蓋



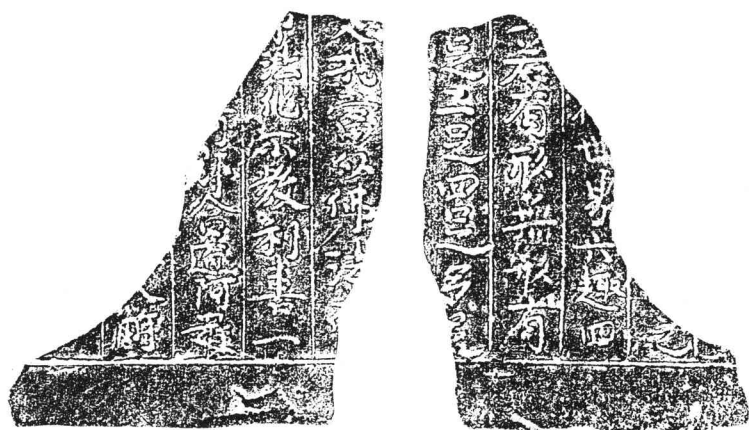
⑪

8 香油蘇燈供養經卷是人功德無量無邊能
9 生一切種智阿逸多若善男子善女人聞我
10 說壽命長遠深心信解則為見仏常在耆闍
11 崛山共大菩薩諸声聞衆圍繞說法又見此
12 娑婆世界其地瑠璃坦然平正閻浮檀金以
13 界八道宝樹行列諸台樓觀皆悉宝成其菩
14 薩衆咸處其中若有能如是觀者當知是為
15 深信解相又復如來滅後若聞是經而不毀

縱九・五cm、横八・一cm。表面一二一五行目、裏面一四行目。左
下角部分。
小町塚規格で割付けると一行後ろにずれて、法華經六卷七枚目に復原
できる。

⑫ 法華經卷第六 一〇枚目
宇野拓一 一三六

1 世尊滅度後其有聞是經若能隨喜者為得幾所福
2 爾時仏告弥勒菩薩摩訶薩阿逸多如來滅
3 後若比丘比丘尼優婆塞優婆夷及余智者
4 若長若幼聞是經隨喜已從法会出至於余
5 處若在僧坊若空閑地若城邑巷陌聚落田
6 里如其所聞為父母宗親善友知識隨力演
7 說是諸人等聞已隨喜復行轉教余人聞已
8 亦隨喜轉教如是展轉至第五十阿逸多其
9 第五十善男子善女人隨喜功德我今說之
10 汝當善聽若四百万億阿僧祇世界六趣四



⑫

- 11 生衆生卵生胎生湿生化生若有形無形有
- 12 想無想非有想非無想無足二足四足多足
- 13 如是等在衆生數者有人求福隨其所欲娛
- 14 樂之具皆給与之一衆生与滿閻浮提金
- 15 銀瑠璃磚磲碼磲珊瑚琥珀諸妙珍宝及象
- 1 馬車乘七宝所成宮殿樓閣等是大施主如
- 2 是布施滿八十年已而作是念我已施衆生
- 3 娛樂之具隨意所欲然此衆生皆已衰老年

- 4 過八十髮白面皺將死不久我当以仏法而
- 5 訓導之即集此衆生宣布法化示教利喜一
- 6 時皆得須陀洹道斯陀含道阿那含道阿羅
- 7 漢道尽諸有漏於深禪定皆得自在具八解
- 8 脱於汝意云何是大施主所得功德寧為多
- 9 不弥勒白仏言世尊是人功德甚多無量無
- 10 辺若是施主但施衆生一切樂具功德無量
- 11 何況令得阿羅漢果仏告弥勒我今分明語
- 12 汝是人以一切樂具施於四百萬億阿僧祇
- 13 世界六趣衆生又令得阿羅漢果所得功德
- 14 不如是第五十人聞法華經一偈隨喜功德
- 15 百分千分百万億分不及其一乃至算數

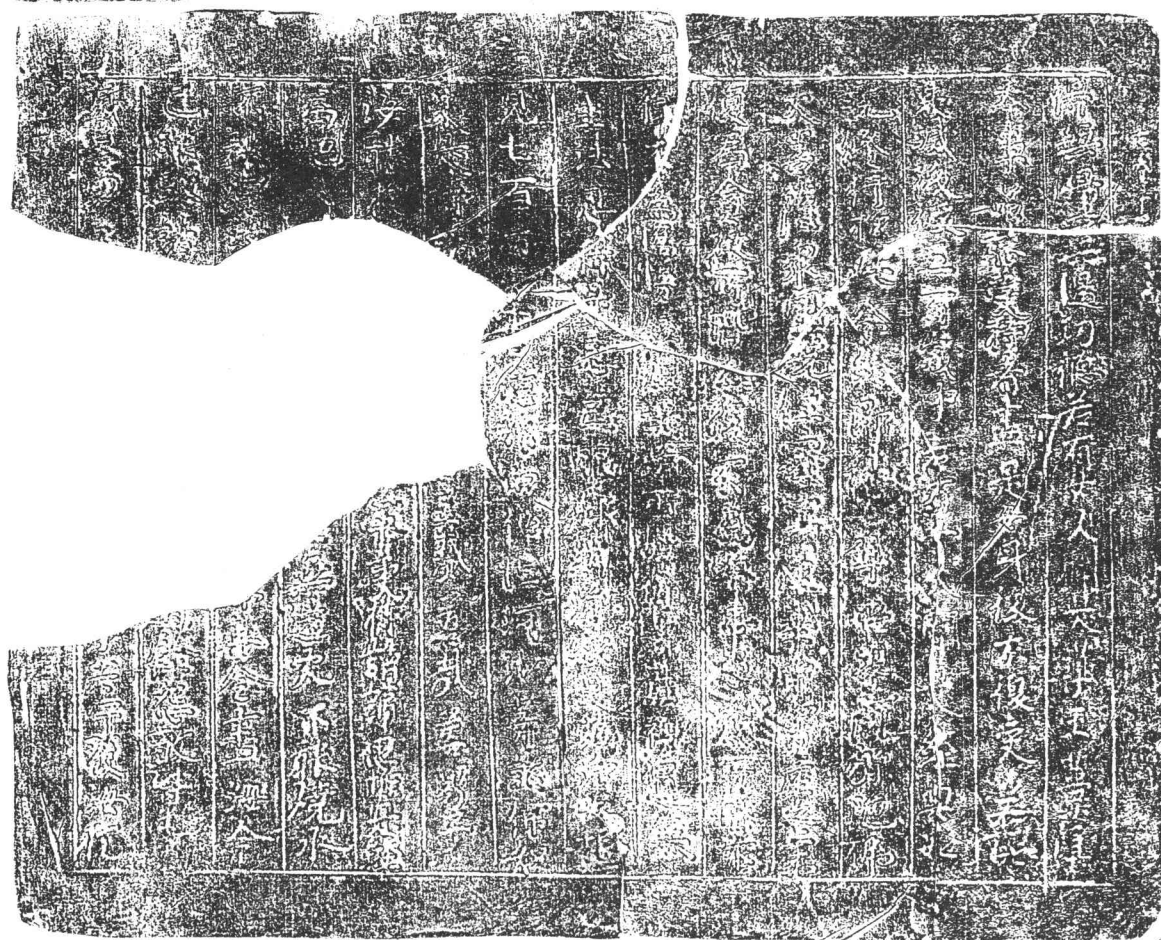
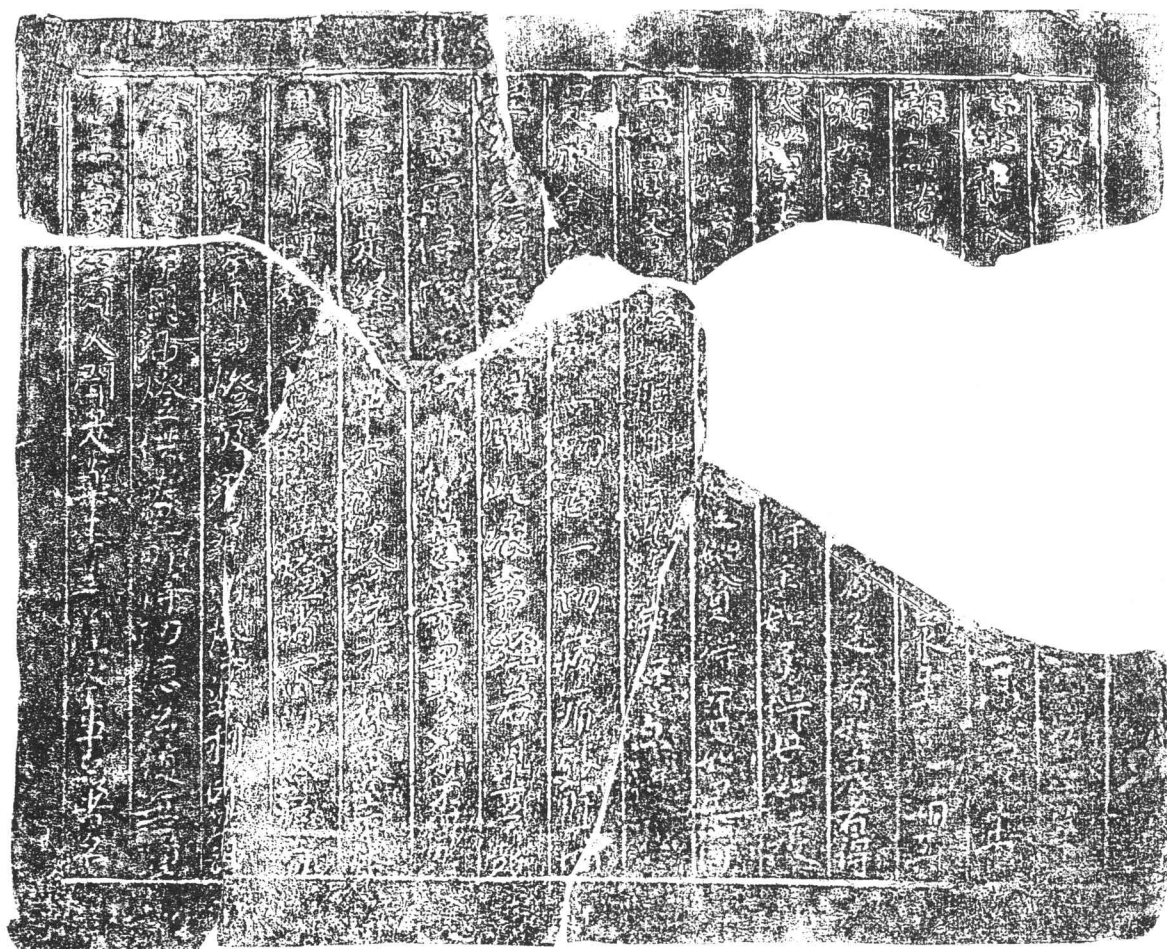
縦一・〇cm、横九・八cm。表面九〇一二行目、裏面四〇七行目。下端部分。

冒頭から小町塚規格で割付けると、一字のずれもなく法華經六卷一〇枚目に復原できる。

⑬法華經卷第七 一一枚目

宇野拓一・四三・二一一・二二六・二二七・一一二

- 1 為諸法王此經亦復如是諸經中王宿王華
- 2 此經能救一切衆生者此經能令一切衆生
- 3 離諸苦惱此經能大饒益一切衆生充滿其
- 4 願如清涼池能滿一切諸渴乏者如寒者得
- 5 火如裸者得衣如商人得主如子得母如渡
- 6 得船如病得医如暗得燈如貧得宝如民得



7 王如賈客得海如炬除暗此法華經亦復如是能令衆生離一切苦一切病痛能解一切生死之縛若人得聞此法華經若自書若教人書所得功德以仏智慧籌量多少不得其辺若書是經卷華香環珞燒香抹香塗香幡蓋衣服種種之燈蘇燈油燈諸香油燈瞻蔔油燈須曼那油燈波羅羅油燈婆利師迦油燈那婆摩利油燈供養所得功德亦復無量宿王華若有人聞是藥王菩薩本事品者亦

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

得無量無辺功德若有女人聞是藥王菩薩本事品能受持者尽是女身後不復受若如来滅後後五百歲中若有女人聞是經典如説修行於此命終即往安樂世界阿彌陀仏大菩薩衆圍繞住処生蓮華中宝座之上不復為貪欲所惱亦復不為瞋恚愚癡所惱亦復不為憍慢嫉妬諸垢所惱得菩薩神通無生法忍得是忍已眼根清淨以是清淨眼根見七百万二千億那由他恒河沙等諸仏如来是時諸仏遙共讃言善哉善哉善男子

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

汝能於釈迦牟尼仏法中受持誦誦思惟是經為他人説所得福德無量無辺火不能燒水不能漂汝之功德千仏共説不能令尽汝今已能破諸魔賊壞生死軍諸余怨敵皆悉摧滅善男子百千諸仏以神通力共守護汝於

宇野拓一 一四三は縦七・七cm、横一七・六cm。表面一、九行目、裏面

七、一五行目。右上角部分。

宇野拓二 一は一は縦一二・七cm、横一六・二cm。表面一、八行目、裏面八、一五行目。右下角部分。

宇野拓二 二二六は縦一七・九cm、横一二・七cm、厚二・〇、二・二cm。表面七、一三行目、裏面三、九行目。下端部分。

宇野拓二 二二七は縦一〇・〇cm、横一六・〇cm。表面九、一五行目、裏面一、八行目。左上角部分。裏面欄外右上に「七卷十一」と丁付。

宇野拓一 一二は縦一九・〇cm、横八・七cm。表面一二、一五行目、裏面一、四行目。左下角部分。

これら五点の拓本は接合し、縦二四・五cm、横三〇・四cmとほぼ全面が復原できる。

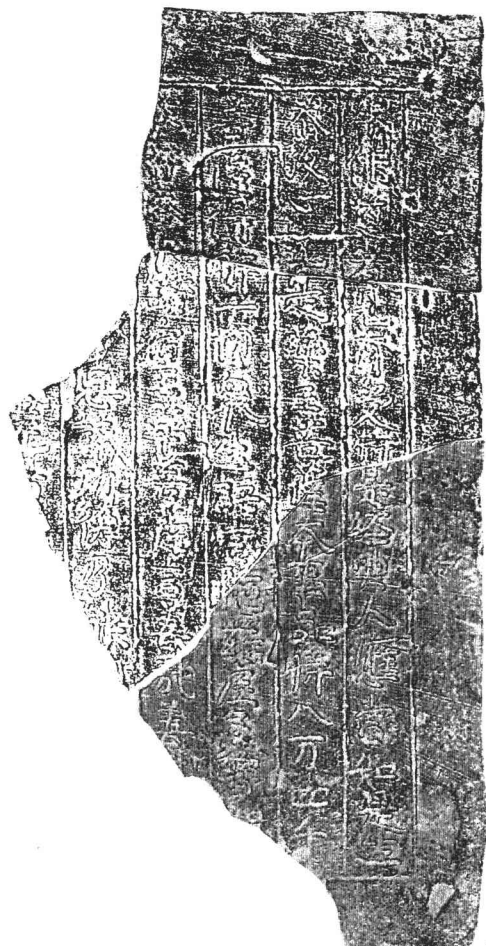
裏面五行八字目は「所」と写すべきところを「処」と記している。一〇行目が一六字しかないが、その分次行に一八字書写してずれを戻している。

丁付より法華経七巻一枚目と判るが、小町塚規格で割付けると全体に三文字分前にずれている。

⑭法華経巻第七 一二枚目

宇野拓一 一三七・二一四・二一五・二二四・二二二・一一九

1 諸声聞辟支仏乃至菩薩智慧禪定無有与
2 汝等者宿王華此菩薩成就如是功德智慧
3 之力若有人聞是藥王菩薩本事品能隨喜
4 讃善者是人現世口中常出青蓮華香身毛
5 孔中常出牛頭栴檀之香所得功德如上所
6 説是故宿王華以此藥王菩薩本事品囑累
7 於汝我滅度後後五百歲中広宣流布於閻



⑭

8 浮提無令斷絶惡魔魔民諸天龍夜叉鳩槃
 荼等得其便也宿王華汝當以神通之力守
 護是經所以者何此經則為閻浮提人病之
 良藥若人有病得聞是經病則消滅不老不
 死宿王華汝若見有受持是經者應以青蓮
 華盛滿抹香供散其上散已作是念言此人
 不久必當取草坐於道場破諸魔軍當吹法
 螺擊大法鼓度脱一切衆生老病死海是故
 15
 1 求仏道者見有受持是經典人應當如是生
 恭敬心說是藥王菩薩本事品時八万四千
 2 菩薩得解一切衆生語言陀羅尼多宝如來
 3 於宝塔中讚宿王華菩薩言善哉善哉宿王
 4 華汝成就不可思議功德乃能問釈迦牟尼
 5 仏如此之事利益无量一切衆生
 6
 7 妙法蓮華經妙音菩薩品第二十四
 8 爾時釈迦牟尼仏放大人相肉髻光明及放
 9 眉間白毫相光遍照東方百八万億那由
 10 佗恒河沙等諸仏世界過是數已有世界名
 11 浄光莊嚴其國有仏号浄華宿王智如來應
 12 供正遍知明行足善逝世間解無上士調御
 13 丈夫天人師仏世尊為無量無邊菩薩大衆
 14 恭敬圍繞而為説法釈迦牟尼仏白毫光明
 15 遍照其國爾時一切浄光莊嚴國中有一菩

字野拓一―三七は縦九・三cm、横五・六cm。表面一―二行目、裏面一
 四―一五行目。右端部分。

宇野拓二―一四は縦一〇・一cm、横九・八cm。表面三―七行目、裏面
 九―一三行目。

宇野拓二―一五は縦一二・六cm、横一〇・二cm。表面三―七行目、裏面
 九―一三行目。下端部分。

宇野拓二―二四は縦一一・五cm、横一二・六cm。表面一〇―一五行
 目、裏面一―六行目。左端部分。裏面欄外左中程に「七卷」の丁付。

宇野拓一―九は縦七・四cm、横九・〇cm。表面一二―一五行目、裏面
 一―四行目。左上角部分。

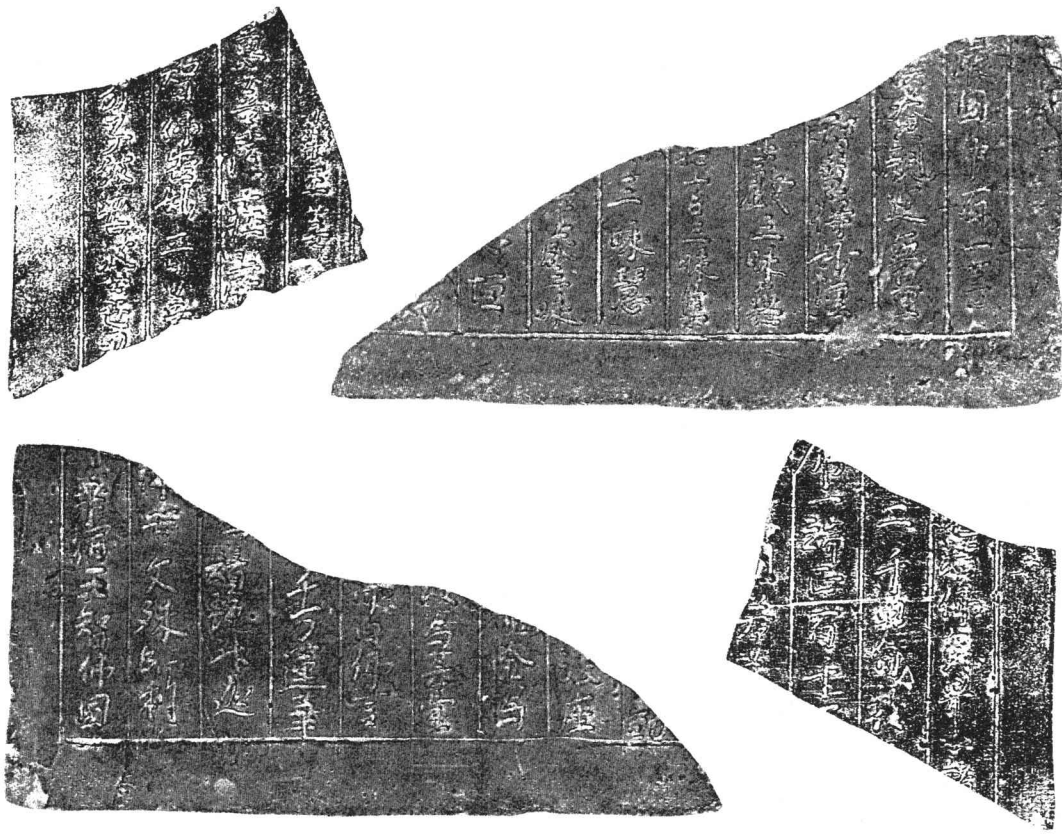
宇野拓二―一二は縦一三・四cm、横一〇・〇cm。表面一二―一五行
 目、裏面一―四行目。左下角部分。裏面欄外左中程に「十二」の丁付。
 かわら美術館所蔵品（――線部）に同一個体で別個所を記した破片が
 あり、接合する。一面がほぼ復原でき、縦二四・七cm、横三一・六cmに
 なる。

丁付から法華經七卷一二枚目であることが判る。前記一一枚目の直後
 の瓦経だが、一一、一二枚目の間で「一切世間天人之中無如汝者唯除如
 來其」の一行が欠落している。また、裏面七行目から「妙音菩薩品第二
 十四」が始まり改行するため前記瓦経以来の三字分のずれは解消される
 が、九行目が一六字しか書かれないのでまた一字分後ろにずれることに
 なる。この辺り小町塚規格の乱れが目につく。

⑮ 法華經卷第七 一三枚目

宇野拓二―一七・一―二三

- 1 遍照其國爾時一切浄光莊嚴國中有一菩
- 2 薩名曰妙音久已植衆德本供養親近無量
- 3 百千万億諸仏而悉成就甚深智慧得妙幢
- 4 相三昧法華三昧浄徳三昧宿王戲三昧無



15

- | | |
|---|--|
| <p>15 是妙音菩薩摩訶薩欲從淨華宿王智仏國</p> <p>14 宝以為其台爾時釈迦牟尼仏告文殊師利</p> <p>13 閻浮檀金為茎白銀為葉金剛為鬚甄叔迦</p> <p>12 世尊是何因緣先現此瑞有若干千萬蓮華</p> <p>11 爾時文殊師利法王子見是蓮華而白仏言</p> <p>10 茎白銀為葉金剛為鬚甄叔迦宝以為其台</p> <p>9 不遠化作八万四千衆宝蓮華閻浮檀金為</p> <p>8 搖而入三昧以三昧力於耆闍崛山去法座</p> <p>7 智慧莊嚴於是妙音菩薩不起于座身不動</p> <p>6 界皆是如來之力如來神通遊戲如來功德</p> <p>5 想妙音菩薩白其仏言世尊我今詣娑婆世</p> <p>4 故汝往莫輕彼國若仏菩薩及国土生下劣</p> <p>3 由旬汝身第一端正百千万福光明殊妙是</p> <p>2 小而汝身四万二千由旬我身六百八十万</p> <p>1 石諸山穢惡充滿仏身卑小諸菩薩衆其形亦</p> | <p>15 生下劣想善男子彼娑婆世界高下不平土</p> <p>14 時淨華宿王智仏告妙音菩薩汝莫輕彼國</p> <p>13 菩薩上行意菩薩莊嚴王菩薩衆上菩薩爾</p> <p>12 利法王子菩薩藥王菩薩勇施菩薩宿王華</p> <p>11 界礼拝親近供養釈迦牟尼仏及見文殊師</p> <p>10 白淨華宿王智仏言世尊我当往詣娑婆世</p> <p>9 河沙等諸大三昧釈迦牟尼仏光照其身即</p> <p>8 不共三昧日旋三昧得如是等百千万億恒</p> <p>7 炬三昧莊嚴王三昧淨光明三昧淨藏三昧</p> <p>6 一切功德三昧清淨三昧神通遊戲三昧慧</p> <p>5 緣三昧智印三昧解一切衆生語言三昧集</p> |
|---|--|

宇野拓二一七は縦九・八cm、横一九・五cm。表面一〇九行目、裏面七〇一五行目。右下角部分。

宇野拓二二三三は縦一〇・三cm、横九・四cm。表面一二〇一五行目、裏面一〇四行目。左端部分。裏面欄外右上に「三」の丁付。

國學院大学所蔵品（——線部、「網干一九七七」）に同一個体で別個所の部分があり、右上角が判る。表面九行目から裏面七行目の間で一字分前にずれている。表裏のバランスから裏面一行目を一八字書写と考えておく。前記一二枚目に続く個所なので、丁付は「七卷十三」と書かれていたと思われる。すなわち法華経七卷二三枚目である。

⑩ 法華経卷第七 一四枚目

宇野拓二一四二・二一二〇

1 与八万四千菩薩圍繞而來至此娑婆世界
2 供養親近礼拝於我亦欲供養聽法華經文
3 殊師利白言世尊是菩薩種何善本修何
4 功德而能有是大神通力行何三昧願為我
5 等說是三昧名字我等亦欲勤修行之行此
6 三昧乃能見是菩薩色相大小威儀進止唯
7 願世尊以神通力彼菩薩來令我得見爾時
8 釈迦牟尼告文殊師利此久滅度多宝如
9 來當為汝等而現其相時多宝告彼菩薩
10 善男子來文殊師利法王子欲見汝身于時
11 妙音菩薩於彼國没与八万四千菩薩俱共
12 發來所經諸國六種震動皆悉雨於七宝蓮
13 華百千天樂不鼓自鳴是菩薩目如廣大青
14 蓮華葉正使和合百千万其面貌端正復

15 過於此身真金色無量百千功德莊嚴威德

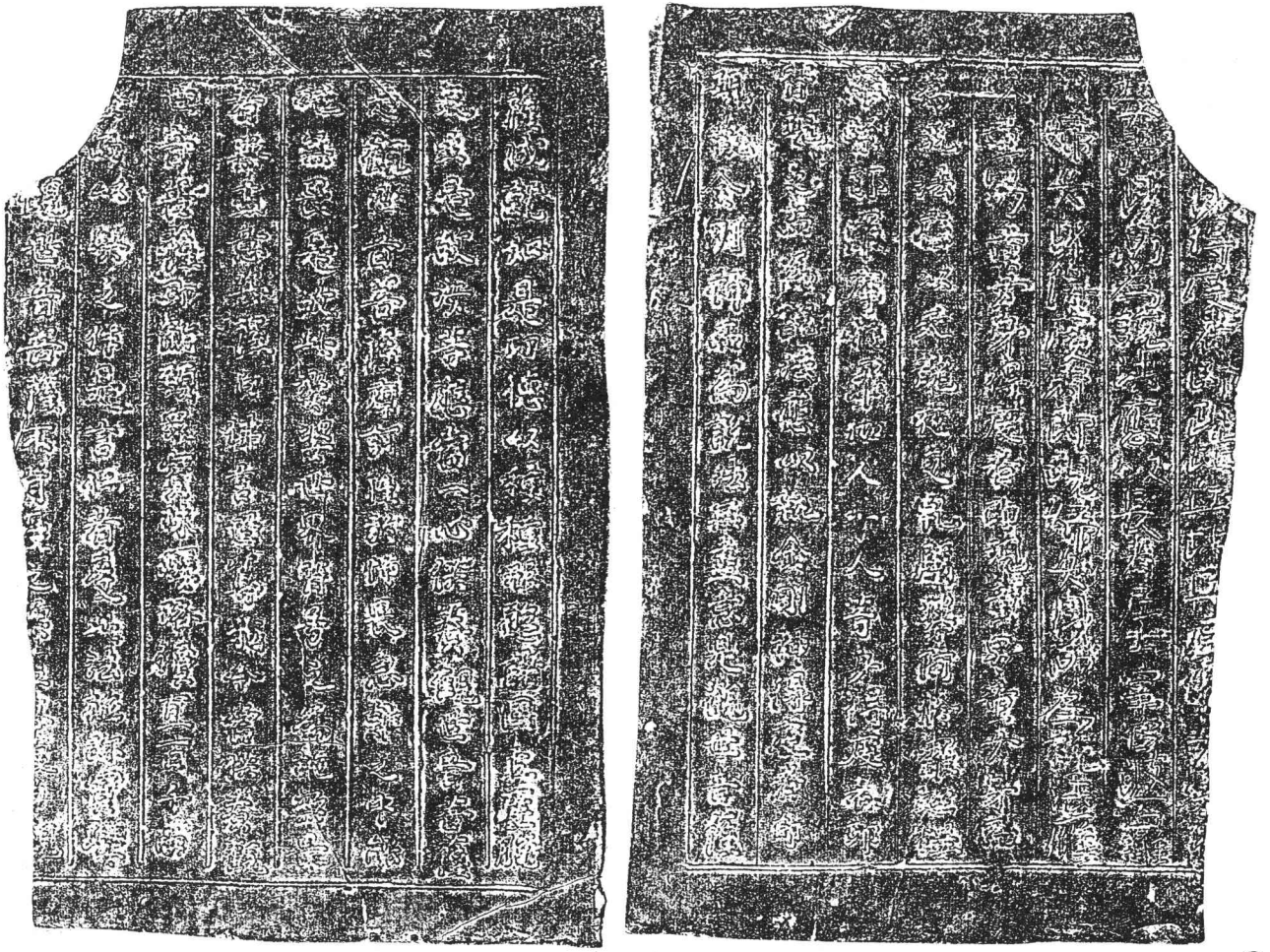
1 熾盛光明照耀諸相具足如那羅延堅固之
2 身入七宝台上昇虚空去地七多羅樹諸菩
3 薩衆恭敬圍繞而來詣此娑婆世界耆闍崛
4 山到已下七宝台以徧直百千瓔珞持至釈
5 迦牟尼所頭面礼足奉上瓔珞而白言
6 世界淨華宿王智仏問訊世尊少病少惱起
7 居輕利安樂行不四大調和不世事可忍不
8 衆生易度不無多貪欲瞋恚愚癡嫉妬慳慢
9 不無不孝父母不敬沙門邪見不善心不撰
10 五情不憚尊衆生能降伏諸魔怨不久滅度
11 多宝如來在七宝塔中來聽法不又問訊多
12 宝如來安穩少惱堪忍久住不世尊我今欲
13 見多宝仏身唯願世尊示我令見爾時釈迦
14 牟尼仏語多宝仏是妙音菩薩欲得相見時
15 多宝仏告妙音言善哉善哉汝能為供養釈

宇野拓二一四二は縦一〇・〇cm、横一四・三cm。表面一〇六行目、裏面一〇一五行目。右下角部分。

宇野拓二一二〇は縦一五・四cm、横九・〇cm。表面六〇九行目、裏面七〇一〇行目。下端部分。

宇野拓二一二九は縦一〇・〇cm、横一五・六cm。表面八〇一五行目、裏面一〇八行目。左上角部分。裏面欄外右上に「七卷十四」と丁付。
個人所蔵品（——線部、「網干一九七九c」）に同一個体で別個所の部分があり、右上角が判る。これら五点は接合し、縦二四・九cm、横三〇・八cmと、は





⑪

ほ全面が復原できる。

裏面一〇行四字目の「世」は欠落しており、一行一六字書写になっている。丁付から法華経七卷一四枚目と判る。

⑪ 法華経卷第八 三枚目

宇野拓一 一

- 1 説法応以毘沙門身得度者即現毘沙門身
- 2 而為説法応以小王身得度者即現小王身
- 3 而為説法応以長者身得度者即現長者身
- 4 而為説法応以居士身得度者即現居士身
- 5 而為説法応以宰官身得度者即現宰官身
- 6 而為説法応以婆羅門身得度者即現婆羅門身
- 7 而為説法応以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身
- 8 而為説法応以長者尼士宰官婆羅門婦女身得度者即現婦女身而為説法応以童男童女身得度者即現童男童女身而為説法応以天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之而為説法応以執金剛神得度者即現執金剛神而為説法無尽意是觀世音薩
- 15 薩成就如是功德以種種形遊諸国土度脱衆生是故汝等應当一心供養觀世音菩薩是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏

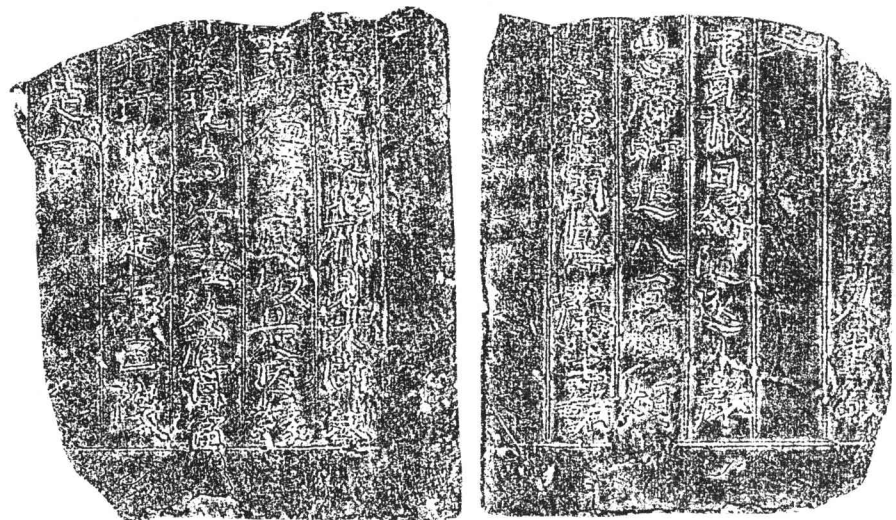
- 5 者無尽意菩薩白仏言世尊我今当供養觀
- 6 世音菩薩即解頸衆宝珠璎珞徧直百千兩
- 7 金而与之作是言仁者受此法施珍宝璎
- 8 珞時觀世音菩薩不肯受之無尽意復白觀
- 9 世音菩薩言仁者愍我等故受此璎珞爾時
- 10 仏告觀世音菩薩当愍此無尽意菩薩及四
- 11 衆天龍夜叉乾闥婆阿修羅迦樓羅緊那羅
- 12 摩睺羅伽人非人等故受是璎珞即時觀世
- 13 音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受其
- 14 璎珞分作二分一分奉釈迦牟尼仏一分奉
- 15 多宝仏塔無尽意觀世音菩薩有如是自在

縦二五・〇cm、横一六・六cm。厚一・三（一・四cm。表面八（一五行目、裏面一（八行目。左端は全て残る。小町塚瓦経にしてはやや薄い。龍谷大学所蔵拓本（——線部、「網干一九八二b」）に同一個体で別個所があり、右下角が判る。

表面九行一二字目の「居」を「尼」と、一五行一七字目の「菩」を「薩」と誤って記している。また、表面一一行四字目から筆跡が変わる。これは書き手が替わったのか同一人で調子が変わったのか不明である。しかし、それ以降の文字と表面一（三行目の文字は筆跡が同じなので、（確認できる範囲では八行二字目から）一一行四字目までは、後から修正が加えられたのかも知れない。冒頭から小町塚規格で割付ければ一字のずれもなく、法華経八卷三枚目に復原できる。

⑮ 観普賢経 八枚目
宇野拓二一一三

- 1 已復更懺悔
- 2 過七日已多宝仏塔從地涌出釈迦牟尼仏
- 3 即以右手開其塔戸見多宝仏入普現色身
- 4 三昧一一毛孔流出恒河沙微塵数光明一
- 5 一光明一一有百千万億化仏此相現時行
- 6 者歡喜讚悔遶塔滿七匝已多宝如来出大



7 音声讚言法子汝今真実能行大乘隨順普
 8 賢眼根懺悔以是因緣我至汝所為汝証明
 9 說是語已讚言善哉善哉釈迦牟尼仏能説
 10 大法雨大法雨成就濁惡諸衆生等是時行
 11 者見多宝仏塔已復至普賢菩薩所合掌敬
 12 礼白言大師教我悔過
 13 普賢復言汝於多劫中耳根因緣隨逐外声
 14 聞妙音時心生惑著聞惡声時起百八種煩
 15 惱賊害如此惡耳報得惡事恒聞惡声生諸
 1 攀緣顛倒聽故当墮惡道辺地邪見不聞法
 2 処汝於今日誦特大乘功德海蔵以是因緣
 3 故見十方仏多宝仏塔現為汝証汝応自当
 4 説已過惡懺悔諸罪是時行者聞是語已復
 5 更合掌五体投地而作是言
 6 正遍知世尊現為我証方等經典為慈悲主
 7 唯願觀我聽我所説我從多劫乃至今身耳
 8 根因緣聞声惑著如膠著草聞諸惡時起煩
 9 惱毒処処惑著無暫停時出此弊声旁我識
 10 神墜墮三途今始覺知向諸世尊發露懺悔
 11 既懺悔已見多宝仏放大光明其光金色遍
 12 照東方及十方界無量諸仏身真金色東方
 13 空中作是唱言此仏世尊号曰善徳亦有無
 14 数分身諸仏坐宝樹下師子座上結跏趺坐
 15 是諸世尊一切皆入普現色身三昧皆作是

縦一三・五cm、横一一・五cm。表面一一、一五行目、裏面一一、五行

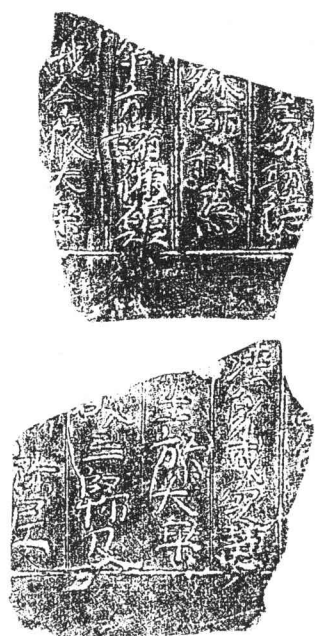
目。左下角部分。

小町塚規格で割付けると一字のずれもなく、当瓦経は観普賢經八枚目に復原できる。

①9 観普賢經 一三枚目

宇野拓一 一九

1 仏唯願釈迦牟尼仏正遍知世尊為我和上
 2 文殊師利具大悲者願以智慧授我清淨諸
 3 菩薩法弥勒菩薩勝大慈日憐愍我故亦応
 4 聽我受菩薩法十方諸仏現為我証諸大菩
 5 薩各称其名是勝大士覆護衆生助護我等
 6 今日受持方等經典乃至失命設墮地獄受
 7 無量苦終不毀謗諸仏正法以是因緣功德
 8 力故今釈迦牟尼仏為我和上文殊師利為
 9 我阿闍梨当来弥勒願授我法十方諸仏願
 10 証知我大徳諸菩薩願為我伴我今依大乘
 11 經典甚深妙義歸依仏歸依法歸依僧如是
 12 三説歸依三宝已次当自誓受六重法受六



①9

- 13 重法已次当勤修無礙梵行發曠濟心受八
- 14 重法立此誓已於空閑処焼衆名香散華供
- 15 養一切諸仏及諸菩薩大乘方等而作是言
- 1 我於今日發菩提心以此功德普度一切作
- 2 是語已復更頂礼一切諸仏及諸菩薩思方
- 3 等義一日乃至三七日若出家在家不須和
- 4 上不用諸師不白羯磨受持誦誦大乘經典
- 5 力故普賢菩薩助發行故是十方諸仏正法
- 6 眼目因由是法自然成就五分法身戒定慧
- 7 解脫解脫知見諸仏如來從此法生於大乘
- 8 經得受記莖是故智者若声聞毀破三帰及
- 9 五戒八戒比丘戒比丘尼戒沙弥戒沙弥尼
- 10 戒式又摩尼戒及諸威儀愚癡不善惡邪心
- 11 故多犯諸戒及威儀法若欲除滅令無過患
- 12 還為比丘具沙門法当勤修誦方等經典思
- 13 第一義甚深空法令此空慧与心相応当知
- 14 此人於念念頃一切罪垢永尽無余是名具
- 15 足沙門法戒具諸威儀應受人天一切供養

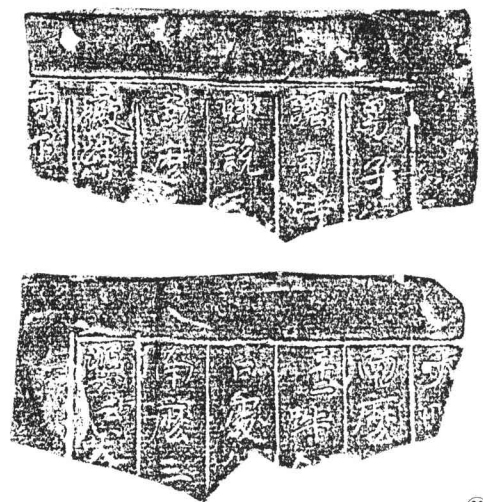
縦八・一cm、横七・九cm。表面七〇行目、裏面五九行目。下端部分。

小町塚規格で割付けると一文字のずれもなく、当瓦経は観普賢經一三枚目に復原できる。

⑳大日経卷第二 一一枚目

宇野三

- 1 男子当説如所通達法界淨除衆生界真実
- 2 語句時普賢菩薩即時住於仏境界莊嚴三
- 3 昧説无闕力真言曰
- 4 南麼三曼多勃駄喃^一三麼多^引奴揭多^二
- 5 微羅闍達摩涅槃多^三摩訶^引摩訶^四沙訶^五
- 6 時弥勒菩薩住發生普遍大慈三昧説自心
- 7 真言曰
- 8 南麼三曼多勃駄喃^一阿爾單若耶^二薩婆
- 9 薩埵^引捨耶^引努藥多^三沙訶^四
- 10 爾時虚空藏菩薩入清淨境界三昧説自心真言曰
- 11 南麼三曼多勃駄喃^一阿迦^引奢三麼多^引
- 12 努藥多^二微質怛蘭^引縛羅達羅^三沙訶^四
- 13 爾時除一切蓋障菩薩入悲力三昧説真言曰
- 14 南麼三曼多勃駄喃^一阿去^引薩埵係多^引毘
- 15 庚^二藥多^三怛藍^二怛藍^二藍藍^三沙訶^四



(20)

- 1 爾時觀世自在菩薩入於普觀三昧說自心
- 2 及眷屬真言曰
- 3 南麼三曼多勃駄喃一薩婆怛他^上薩多^上縛
- 4 盧吉多^二羯嚕儂麼也^三羅羅訖若^{短声}莎訶^五
- 5 得大勢真言曰
- 6 南麼三曼多勃駄喃一髻髻索^二莎訶^三
- 7 多羅尊真言曰
- 8 南麼三曼多勃駄喃一羯嚕奴嚩婆^二合^二吠^平
- 9 哆麗哆履^三訖^三莎訶
- 10 大毘俱胝真言曰
- 11 南麼三曼多勃駄喃一薩婆陪也怛羅^二合^二散^備
- 12 平訖薩破^二吒也^三莎訶^四
- 13 白処尊真言曰
- 14 南麼三曼多勃駄喃一怛他^引薩多微灑也^三
- 15 婆^去吠^平鉢曇摩^二摩履^平備^四莎訶^五

縦六・一cm、横一二・二cm、厚二・〇cm。表面一〇六行目、裏面一〇一五行目。右上角部分。白色く黄灰色。表面の縦罫線は上枠線と全て離れるが、裏面は全て接する。裏面の罫線は切合いから縦罫線を先に、上枠線を後に引いていることが判る。上端角は表裏面とも雑な面取りを施すが、側端には見られない。

個人所蔵品（——線部）、関西大学所蔵品（~~~~線部、「網干一九七八」に同一個体の別個所があり、三点は接合する。

通常に割付けると、両面で三一行分書写していることになる。が、両面の欄外の幅を見る限り片面が一行多いとは考えにくく、両面とも一五行と思われる。一行欠落の可能性もあるが、一段落二〇字を一〇行目一行に書ききったと判断し、復原した。京博所蔵品に一枚前の瓦経があ

り、「大日二巻十」の丁付から二巻一〇枚目と判る。当瓦経は一字のずれもなくそれに続くので、大日経二巻一一枚目に復原できる。

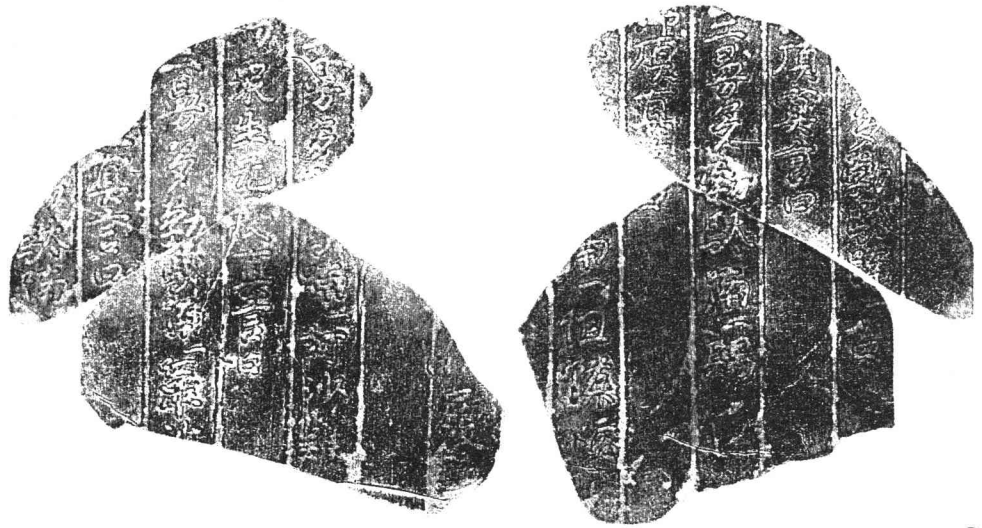
②大日経巻第二 一八枚目

宇野拓一 一二・一一・一六

- 1 南麼三曼多勃駄喃一藍
- 2 勝仏頂真言曰
- 3 南麼三曼多勃駄喃一苦
- 4 最勝仏頂真言曰
- 5 南麼三曼多勃駄喃一賜
- 6 火聚仏頂真言曰
- 7 南麼三曼多勃駄喃一怛隣^二合
- 8 除障仏頂真言曰
- 9 南麼三曼多勃駄喃一訶林^二合
- 10 世明妃真言曰
- 11 南麼三曼多勃駄喃一耽含半含閻
- 12 無能勝真言曰
- 13 南麼三曼多勃駄喃一訖
- 14 地神真言曰
- 15 南麼三曼多勃駄喃一微

- 1 髻設尼真言曰
- 2 南麼三曼多勃駄喃一枳履
- 3 鄔波髻設尼真言曰
- 4 南麼三曼多勃駄喃一備履
- 5 質多童子真言曰

- 10 南摩三曼多勃駄喃「訶娑難
- 9 除疑怪真言曰
- 8 南摩三曼多勃駄喃「係履
- 7 財慧童子真言曰
- 6 南摩三曼多勃駄喃「弭履

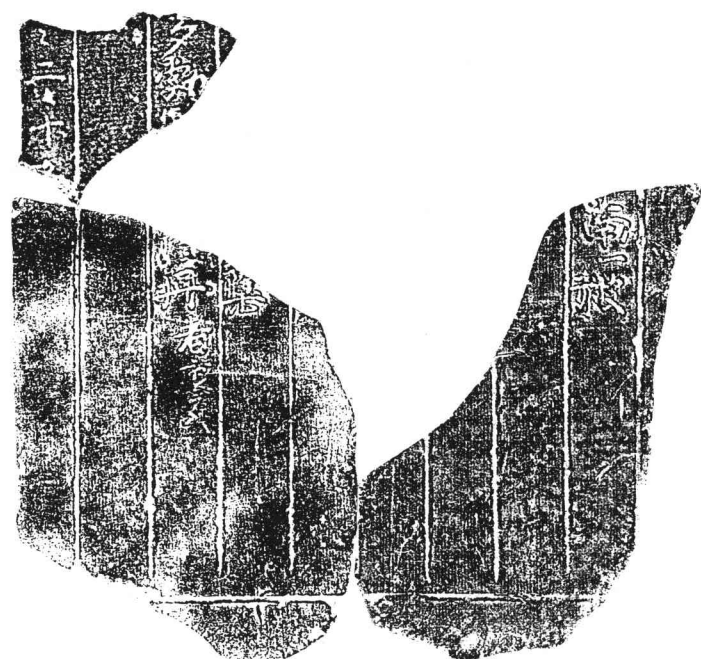


②1

- 11 施一切衆生无畏真言曰
- 12 南摩三曼多勃駄喃「羅娑難
- 13 除一切惡趣真言曰
- 14 南摩三曼多勃駄喃「特憐_合娑難
- 15 哀愍慧真言曰
- 宇野拓一「一二は、縦八・二cm、横一〇・二cm。表面二〜七行目、裏面一〜一四行目。下端部分。
- 宇野拓一「一六は、縦九・〇cm、横一一・二cm。表面三〜八行目、裏面八〜一三行目。両者は接合する。
- 京都大学所蔵品に「卷十三」の丁付を持ち一三枚目と判る瓦経がある。そこから真言部分が続くので一行の文字数、改行箇所は不定であるが、割付けていくと大日経二卷一八枚目に復原できる。
- ②2 大日経卷第二 一九枚目
水木六〇三・宇野拓一「三二・一〜四〇
- 1 南摩三曼多勃駄喃「微訶娑難
- 2 大慈生真言曰
- 3 南摩三曼多勃駄喃「詔_反勅_減
- 4 大悲纏真言曰
- 5 南摩三曼多勃駄喃「閻
- 6 除一切熱惱真言曰
- 7 南摩三曼多勃駄喃「縊
- 8 不思議慧真言曰
- 9 南摩三曼多勃駄喃「汚
- 10 地藏旗真言



- 11 (梵字)
 宝処真言曰
 12 南麼三曼多勃駄喃 難二
 13 宝手真言曰
 14 南麼三曼多勃駄喃 衫
 15 持地真言曰
 1 南麼三曼多勃駄喃 唵
 2 復次真言曰
 3 南麼三曼多勃駄喃 髯
 4 鼻聲呼



- 5 宝印手真言曰
 6 南麼三曼多勃駄喃 泛_{普含反}
 7 堅固意真言曰
 8 南麼三曼多勃駄喃 赦
 9 虚空無垢真言曰
 10 南麼三曼多勃駄喃 含
 11 虚空慧真言曰
 12 南麼三曼多勃駄喃 隣
 13 清淨慧真言曰
 14 南麼三曼多勃駄喃 薩丹_{者痕反}

15 行慧真言曰

水木六〇三は縦五・〇cm、横五・九cm、厚一・九cm。表面一〇二行目、裏面一四〇一五行目。右端部分。灰白色。裏面側端の角は面取りが施されているが、表面の方は押圧により角が落ちているのみ。裏面欄外左上に「二十□」と丁付が記されている。

宇野拓一四〇は、縦一二・三cm、横九・〇cm。表面一〇四行目、裏面一二〇五行目。右端部分。

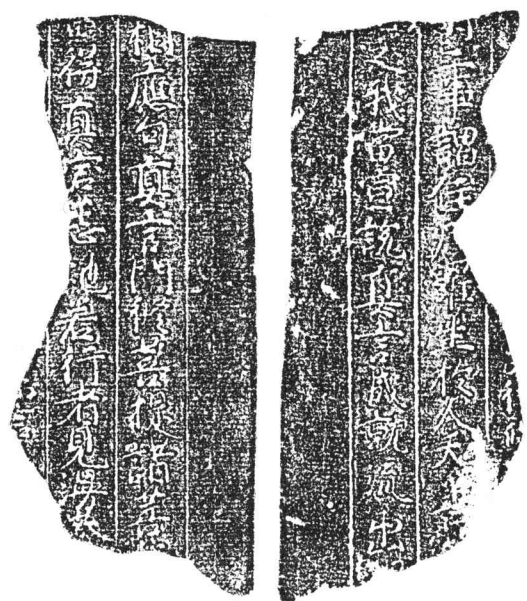
宇野拓一三二は、縦一三・三cm、横九・六cm。表面五〇九行目、裏面七〇一行目。下端部分。関西大学に現物資料が存在する⁽⁶⁾（網干一九七八）。

個人所蔵品（——線部、「網干一九七九c」・……線部）に同一個体の別個所があり、左上角部分が判る。五点は接合し、上下、左右の各辺が押さえられる。当瓦経は縦二四・七cm、横三〇・四cmに復原できる。表面一二、一三行目は經典には見られない文句で、これ以降二分後ろにずれていく。また、裏面一四行一〇字目は「葉」と書くべきところ「薩」と記されている。そこでそれを訂正するため横（一三行目空白部分）に「葉」と書いている。小町塚瓦経では経文の誤写を直すことがしばしば見られるが、これはその一例である。一四行目末は「都痕」とあるべきだが「者痕」^反となっている。前記一八枚目に続く瓦経で、大日経二卷一九枚目と判る。

②③大日経卷第三 二枚目

水木六〇一

- 1 爾時毘盧遮那世尊說是偈已觀察金剛手
- 2 等諸大衆会告執金剛言善男子各各当現



(23)

- 3 法界神力悉地流出句若諸衆生見如是法
- 4 歡喜踊躍得安樂住如是說已諸執金剛為
- 5 毘盧遮那世尊作礼如是法主依所教勅復
- 6 請仏言惟願世尊哀愍我等示現悉地流出
- 7 句何以故於尊者薄伽梵前而自宣示所通
- 8 達法非是所宜善哉世尊惟願利益安樂未
- 9 來衆生故時薄伽梵毘盧舍那告一切諸執
- 10 金剛言善哉善哉善男子如來所說法毘奈
- 11 耶称讚一法所謂有羞若有羞善男子善女
- 12 人見如是法速生二事謂不作所不応作衆
- 13 所稱讚復有二事謂所未至令至得与仏菩
- 14 薩同处復有二事謂住戸羅生於人天善哉
- 15 諦聽善思念之我当宣說真言成就流出相

1 応句諸流出相応句真言門修菩提諸菩薩
 2 速於是中當得真言悉地若行者見漫荼羅
 3 尊所印可成就真語發菩提心深信慈悲無
 4 有慳吝住於調伏能善分別從緣所生受持
 5 禁戒善住衆學具巧方便勇健知時非時好
 6 行惠捨心無怖畏勤修真言行法通達真言
 7 實義常案坐禪樂作成就秘密主譬如欲界
 8 有自在悅滿意明乃至一切欲處天子於此
 9 迷醉出衆妙雜類戲笑及現種種雜類受用
 10 遍受用授与自所變化他化自在天等而亦
 11 自受用之又善男子如摩醯首羅天有勝意
 12 生明能作三千大千世界衆生利益化一切
 13 受用遍受用授与淨居諸天亦復自受用之
 14 又如幻術真言能現種種園林人物如阿修
 15 羅真言現幻化事如世呪術損毒及寒熱等

縦一五・三cm、横六・七cm、厚一・九cm。表面一三〇一五行目、裏面一〇三行目。左端部分。灰白色く暗灰黒色。裏面側端の角を面取りするが、表面は無調整。

同一個体で別個所を記した資料が東博（——線部）と京都大学（~~~~線部）に所蔵されている。後者と当瓦経は接合する。

東博所蔵品の裏面欄外左上に「大日三卷二」の丁付があり、大日経三卷二枚目と判る。割付けからも一字のずれもなく、小町塚規格に則って書かれている。

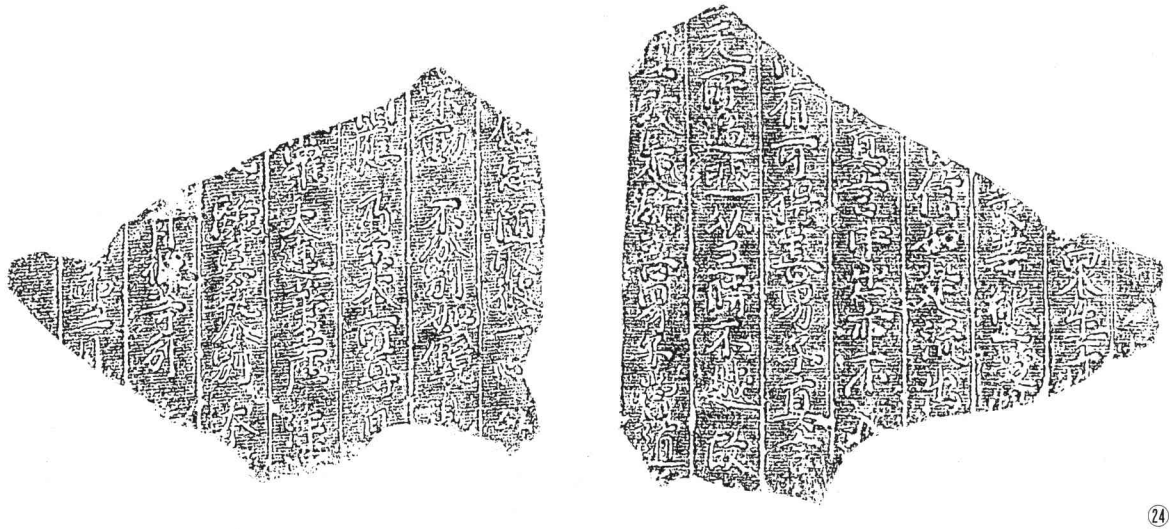
②④ 大日経卷第三 三枚目

水木拓六〇二

1 摩怛哩神真言能作衆生疾疫災厲及世間
 2 呪術損除衆毒及寒熱等能變熾火而生清
 3 涼是故善男子當信如是流出句真言威德
 4 此真言威德非從真言中出亦不入衆生不
 5 於持誦者處而有可得善男子真言加持力
 6 故法爾而生无所過越以三時不越故甚深
 7 不思議緣生理故是故善男子當隨順通達
 8 不思議法性常不斷絕真言道
 9 爾時世尊復住三世無礙力依如來加持不
 10 思議力依莊嚴清淨藏三昧即時世尊從三
 11 摩鉢底中出無尽界无尽語表依法界力无
 12 等力正等覺信解以一音声四處流出普遍
 13 一切法界与虚空等无所不至真言曰
 14 南麼薩婆怛他^引藥帝驪^毘微濕縛^合二目契弊
 15 反^毘薩婆他阿^三阿^引暗惡^四

1 正等覺心從是普遍即時一切法界諸声聞
 2 從正等覺標幟之音而互出声諸菩薩聞是已
 3 得未曾有開敷眼發微妙言音於一切智離
 4 熱者前而說頌曰

5 奇哉真言行能具广大智若遍布此者成仏両足尊
 6 是故勤精進於諸仏語心常作无間修淨心離於我
 7 爾時薄伽梵復說此法句於正等覺心而作成就者
 8 於園苑僧坊若在巖窟中或意所樂處觀彼菩提心
 9 乃至初安住不生疑慮意隨取彼一心以心置於心
 10 証於極淨句無垢安不動不分別如鏡現前甚微細
 11 若彼常觀察修習而相応乃至本所尊自身像皆現



(24)

- 12 第二正覚句於鏡漫茶羅大蓮華王座深邃住三昧
- 13 総持髮髻冠團繞無量光離妄執分別本寂如虚空
- 14 於彼中思惟作撰意念誦一月修等引持滿一洛叉
- 15 是為最初月持真言法則次於第二月奉塗香華等

縦一三・三cm、横一四・三cm、厚一・九cm。表面一〇七行目、裏面九一五五行目。右端部分。

京博（——線部、「難波田一九八〇」）、奈良博（~~~~線部、「網干一九七九」）、個人所蔵品（——線部、「網干一九八〇」）に同一個体で別個所の破片が存在し、それら三点は接合する。

表面一五行目「〽他三阿阿」のところは「〽他阿三阿」と誤記。

裏面二行目は一八字書写で一字ずれるが、五行目から偈が始まり改行があるので解消される。前記二枚目の後、一字のずれもなく続くので、大日經三卷三枚目に復原できる。

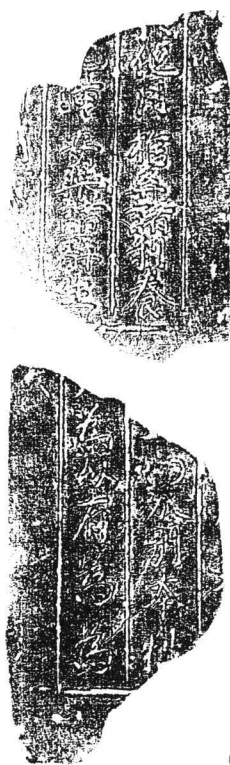
②⑤大日經卷第三 四枚目

宇野拓一 一一八

- 1 而以作饒益種種衆生類又復於他月捨棄諸利養
- 2 時彼於瑜伽思惟而自在願一切無障安樂諸群生
- 3 樂欲成如來所稱讚円果或満足一切有情衆希願
- 4 応理無障蓋而生是攀緣傍生相敢食所有苦永除
- 5 常令諸鬼界飲食皆充滿地獄中受苦種種諸楚毒
- 6 当願速除滅以我功德故及余无量門数数心思惟
- 7 発広大悲愍三種加持句想念於一切心誦持真言
- 8 以我功德力如來加持力及与法界力周遍衆生界
- 9 諸念求義利悉皆饒益之彼一切如理所念皆成就

10 於是薄伽梵即於爾時說虛空等力虛空藏
 11 轉明妃曰
 12 南麼薩婆怛他^引葉帝驃^毘微濕縛^二目契^合
 13 弊^毘薩婆他^三欠^四喞^五弩^六葉帝薩^七羅係^合
 14 門^五伽伽娜劍^六莎訶^七
 15 持此三轉隨彼所生善願皆亦成就

1 行人於滿月次入作持誦山峯牛欄中寒林或河洲
 2 四衢獨樹下忙怛哩天室一切金剛色嚴淨同金剛
 3 彼中諸障者攝伏心迷亂四方相周匝一門及通道
 4 金剛互連屬金剛結相心門二守護不可越相向
 5 擬手而上指朱目奮怒形慙慙画隅角輪羅焰光印
 6 中妙金剛座方位正相直其大蓮華八葉鬚藥敷
 7 當結金剛手金剛之慧印稽首一切仏数数堅誓願
 8 應護持是處及淨諸藥物於此夜持誦清淨無障礙
 9 或於中夜分或於日出時彼藥物當轉円光普暉焰
 10 真言者自取遊步於大空住壽大威德於生死自在
 11 行於世界頂現種種色身具德吉祥者展轉而供養
 12 真言所成物是名為悉地以分別藥物成就無分別
 13 秘密主一切世界諸現在等如來正等覺



25

14 通達方便波羅蜜彼如來知一切分別本性
 15 空以方便波羅蜜力故而於無為以有為為

縦一〇・五cm、横一〇・九cm。表面一〇三行目、裏面一四〇一五行目。右下角部分。関西大学に出土地不明の現物資料が存在する（「網干一九七六」）。

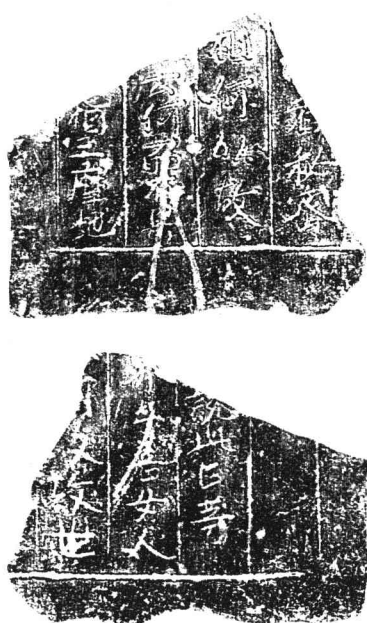
個人所蔵品（——線部）に同一個体で別個所を記した破片がある。

前記三枚目に一字のずれもなく続くので、大日經三卷四枚目に復原できる。

②6 大日經卷第三 五枚目

宇野拓二二三

1 表展轉相應而為衆生示現遍於法界令得
 2 見法安樂住發歡喜心或得長壽五欲嬉戲
 3 而自娛樂為仏世尊而作供養証如是句一
 4 切世人所不能信如來見此義利故以歡喜



26

5 心説此菩薩真言行道次第法則何以故於
6 無量劫勤求修諸苦行所不能得而真言門
7 行道諸菩薩即於此生而獲得之復次秘密
8 主真言門修菩薩行菩薩如是計都羯伽傘
9 蓋履履真陀摩尼安膳那藥盧遮那等持三
10 洛叉而作成就亦得悉地秘密主若具方便
11 善男子善女人隨所樂求而有所作彼唯心
12 自在而得成就秘密主諸樂欲因果者秘密
13 主非彼愚夫能知真言諸真言相何以故
14 說因非作者彼果則不生此因因尚空云何而有果
15 當知真言果悉離於因業乃至身証觸无相三摩地
1 真言者當得悉地從心生
2 爾時金剛手白仏言世尊惟願復説此正等
3 覺句悉地成就句諸見此法善男子善女人
4 等心得歡喜受安樂住不害法界何以故世
5 尊法界者一切如來應正等覺説名則不思
6 議界是故世尊真言門修菩薩行諸菩薩得
7 是通達法界不可分析破壞如是説已世尊
8 告執金剛秘密主言善哉善哉秘密主汝復
9 善哉能問如來如是義汝當諦聽善思念之
10 吾今演説秘密主言如是世尊願樂欲聞仏
11 告秘密主以阿字門而作成就若在僧所住
12 処若山窟中或於淨室以阿字遍布一切支
13 分時持三洛叉次於滿月尽其所有而以供
14 養乃至普賢菩薩文殊師利執金剛等或余
15 聖天現前摩頂唱言善哉行者當稽首作

縦八・一cm、横九・六cm。表面一二一五行目、裏面一四行目。左下角部分。

大阪市立博物館所蔵品（——線部、「網千一九八六」に同一個体で別個所の破片があり、右端の部分が判る。

前記瓦経のすぐ次に当たり、大日経三卷五枚目に復原できる。

②大日経卷第三 六枚目

宇野拓一 一〇

1 礼奉闕伽水即時得不忘菩提心三昧又以
2 如是身心輕安而誦習之當得隨生心清淨
3 身清淨置於耳上持之當得耳根清淨以阿
4 字門作出息三時思惟行者爾時能持寿
5 命長劫住世願羅闍等之所愛敬即以訶字
6 門作所応度者授与鉢頭摩華自持商估而
7 互相觀即生歡喜
8 爾時毘盧遮那世尊復觀一切大会告執金
9 剛秘密主言金剛手有諸如來意生作業戲
10 行舞広演品類撰持四界安住心王等同虛
11 空成就広大見非見果出生一切声聞及辟
12 支仏諸菩薩位令真言門修行諸菩薩一切
13 希願皆悉満足具種種業利益無量衆生汝
14 當諦聽善思念之吾今演説秘密主云何行
15 舞而作一切広大成壞果持真言者一切親
1 証耶爾時世尊而説偈言
2 行者如次第先作自真実如前依法住正思念如來



②7

- 3 阿字為自体并置大空点端嚴遍金色四角金剛標
- 4 於彼中思念一切処尊仏是諸正等覺說自真実相
- 5 修行不疑慮自真実相生当得為世間一切衆利衆
- 6 具広大希有住於如幻句無始時宿殖無智諸有迫
- 7 行者成等引一切皆消除若觀於彼心無上菩提心
- 8 持真言業故於淨非淨果応理常無染如蓮出淤泥
- 9 何況於自体得成仁中尊
- 10 爾時毘盧遮那世尊又復住於降伏四魔金剛戲三
- 11 昧說降伏四魔解脫六趣滿足一切智智金剛字句
- 12 南摩三曼多勃駄喃一阿^{去急}味羅訖欠
- 13 時金剛手秘密主等諸執金剛普賢等諸菩
- 14 薩及一切大衆得未曾有開敷眼稽首一切



②8

- 15 薩婆若而說偈言

縦一二・三cm、横七・七cm。表面一三〇一五行目、裏面一〇四行目。
左下角部分。

かわら美術館所蔵品（——線部）に同一個体で別個所の破片があり、
接合する。

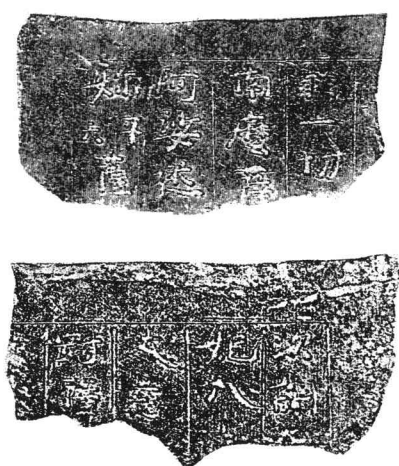
前記瓦経のすぐ次に相当し、大日經三卷六枚目に復原できる。

- ②8 大日經卷第三 八枚目

宇野拓一・二七・二一二

1 瑜祇善修者等引皆消除所住三角形悦意遍形赤
2 寂然周焰鬘三角在其心相応觀彼中羅字大空点
3 智者如瑜伽以此成衆事日曜諸眷屬及作一切火
4 撰取發怨対消枯衆支分是等所応作皆於智火輪
5 訶字第一実風輪之所生及与因業果諸種子增長
6 彼一切摧壞并以大空点今説彼色像深玄大威徳
7 示現暴怒形焰鬘普周遍住漫荼羅位智者觀眉間
8 深青半月輪吹動幢幡相面於彼中想最勝訶字門
9 住彼漫荼羅成就所応事作一切義利心現諸衆生
10 不捨於此身速得神境通遊步大空位而成身秘密
11 天耳眼根淨能開深密処住此一心壇而成衆事業
12 菩薩大名称初坐菩提場降伏魔軍衆諸因不可得
13 因無性無果如是業不生彼三無性故而得空智慧
14 大德正遍知宣説於彼色法字及空点尊勝虚空空
15 兼持慧刀印所作速成就法輪及絹索竭伽那刺遮
1 并目竭嵐等不久成斯句
2 爾時毘盧遮那世尊觀大衆会告執金剛秘
3 密主而説偈言
4 若於真言門修行諸菩薩阿字為自身内外悉同等
5 諸義利皆捨等磔石金宝遠離衆罪業及与貪瞋等
6 當得俱清淨同諸仏牟尼能作諸利益離一切諸過
7 復次於縛字行者依瑜伽解作業儀式利益衆生故
8 内身救世者一切皆如是心水湛盈滿潔白猶雪乳
9 当生決定意出於一切身悉遍諸毛孔流注極清淨
10 從此内充溢遍滿於大地以是悲愍水觀世苦衆生
11 諸有飲用者或復身所触一切皆決定得成就菩提

12 思惟在等引一切羅字門周輪生焰光寂然而普照
13 瑜祇光外転而遍一切処利世隨樂欲行者起神通
14 上身羅字門縛字臍輪中出火而降雨俱時而応現
15 地獄極寒苦羅字能消除縛字熾熾然住真言法故
宇野拓一「二七は、縦七・四cm、横八・五cm。表面七〇一〇行目、裏面六〇九行目。上端部分。関西大学に出土地不明の現物資料が存在する（網千一九七八）。
宇野拓一「二七は、縦六・五cm、横一三・八cm。表面一〇一〇一五行目、裏面一〇一六行目。左上角部分。両者は接合する。
前記六枚目から小町塚規格で割付けると、一行前にずれて、大日経三卷八枚目に復原できる。
②大日経卷第三 一二枚目
宇野拓一「七
1 以此浄法界浄除諸衆生自体如如来遠離一切過
2 如是而觀想思惟羅字門寂然光焰鬘淨月商佉色
3 第二布赤色行者当憶持思惟字明照本無大空点
4 煥炳初日輝最勝無能壞第三真言者次運布黃色
5 定意迦字門当随於法教身相猶真金正受害諸毒
6 光明遍一切金色同牟尼次当布青色超度於生死
7 思惟摩字門大寂菩提座身色如虹霓除一切怖畏
8 最後布黑色其彩甚玄妙思惟訶字門周遍生円光
9 如劫災猛焰宝冠拳手印能怖一切惡降伏諸魔軍
10 爾時世尊毘盧遮那從三昧起住於無量
11 勝定仏於定中顯示遍一切無能害力明妃



(29)

12 於一切如来境界中生其明日
13 南麼薩婆怛他引葉帝弊引也薩婆目契弊同上
14 阿娑迷三鉢羅迷四阿者麗五伽伽泥薩麼二羅
15 彌六薩婆怛羅引一弩葉帝七莎訶

1 次調彩色頂礼世尊及般若波羅蜜持此明
2 妃八遍從座而起旋繞漫荼羅入於內心以
3 大慈大悲力念諸弟子阿闍梨復以羯磨金
4 剛薩埵加持自身以縛字門及施願金剛已
5 当画大悲藏生大漫荼羅彼安祥在於內心
6 而造大日世尊坐白蓮華首戴髮髻鉢吒為
7 裙上被綃縠身相金色周身焰鬘或以如来
8 頂印或以字句謂阿字門東方一切諸仏以
9 阿字門及大空点伊舍尼方一切如来母虛
10 空眼応書伽字火天方一切諸菩薩画真陀
11 摩尼宝或置迦字夜叉方觀世自在蓮華印
12 并画一生補処菩薩眷属或作娑字焰摩方

13 越三分位置金剛慧印持金剛秘密主并眷
14 属或書縛字彼復棄三分位画一切諸執金
15 剛印或書字句所謂卽字次涅槃哩底方於大

縦五・四cm、横一〇・一cm。表面一二一五行目、裏面一四行目。
左上角部分。

京博所蔵品（——線部、「難波田一九八〇」）、個人所蔵品（~~~~線部）に同一個体で別個所の破片があり、接合する。

裏面三行七字目の「諸」が欠落しているが一行一六字書写なので、以降の割付に影響はない。前記八枚目から小町塚規格で一字のずれもなく、大日経三卷一二枚目に復原することができる。

③〇 大日経卷第三 一三枚目

宇野拓一 一三三・二一一

1 日如来下作不動尊坐於石上手持絹索慧
2 刀周匝焰鬘擬作障者或置彼印或書字句
3 所謂哈字風天方降三世尊摧大障者上有
4 光焰大勢威怒猶如焰摩其形黑色於可怖
5 中極令怖畏手執金剛或作彼印或書字句
6 所謂訶字長次於四方画四大護帝积方名無
7 畏結護者金色白衣面現少忿怒相手持檀
8 荼或作彼印或置字句所謂作縛字夜叉方
9 名壞諸怖結護者白色素衣手持羯伽并布
10 光焰能壞諸怖或画彼印或置字句所謂縛
11 字龍方名難降伏結護者亦如无憂華色被
12 朱衣面像微笑在大焰中而觀一切衆会或置



③

- 2 及一切眷属使者皆坐白蓮華上真言者如
- 3 是敷置已次当出外於第二分画釈迦種牟
- 4 尼王被袈裟衣三十二導師相為説最勝教
- 5 施一切衆生無畏故或袈裟鉢印或以字句
- 6 所謂婆字次於外漫茶羅以法界性加持自
- 7 身發菩提心彼捨三分位当三作礼心念大
- 8 日世尊如前調色於第三分帝釈方作施願
- 9 金剛童子形三昧手持青蓮華上置金剛慧
- 10 杵以諸瓔珞而自莊嚴上妙綃縠為裙極輕
- 11 細者用為上服身鬱金色頂有五髻或置
- 12 密印或置字句真言曰
- 13 南麼三曼多勃駄喃一鑊
- 14 於其右辺光網童子一切身分皆悉円満三
- 15 昧手執持宝網慧手持鉤或置彼印或書字

字野拓一―三三は、縦一三・〇cm、横七・〇cm。表面一―一三行
目、裏面三―六行目。下端部分。

字野拓二―二は、縦一七・二cm、横八・七cm。表面一―一五行目、
裏面一―四行目。右上角部分。両者は接合する。

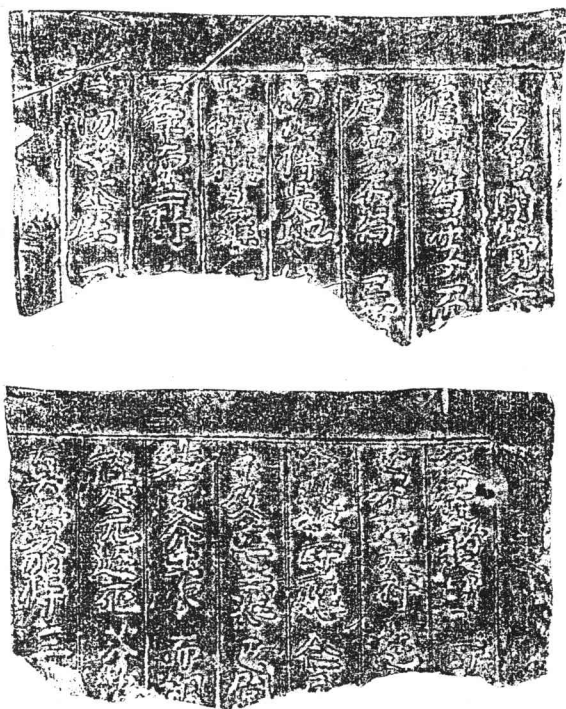
個人（――線部）、國學院大学所蔵品二点（――線部、「網干一九七
七」に同一個体で別個所の破片が存在し、前者により右上角の部分が
判る。

表面一二行八字目の「光」は誤って「大」と記されている。また、表
面一四行一〇字目の「俱」は脱字だが、この行は一六字しか書写されな
いので文字のずれは起らない。前記一三枚目から一字のずれもなく統
き、大日経三卷一三枚目に復原できる。

- 13 彼印或置字句所謂索字焰摩方名金剛無
- 14 勝結護者黑色玄衣毘胝形眉間浪文上
- 15 戴髮冠自身威光照衆生界手持檀茶能壞
- 1 大為障者或作彼印或置字句所謂吃識二字

③大日経卷第五 五枚目
宇野拓二一二

1 世間漫荼羅一切為斯作諸仏二足尊灌頂伝教者
2 説四種弟子時非時差別一者時念誦非時俱非俱
3 具有一切相仏説親弟子最初知地相即所謂心地
4 我已説作浄如前修事業若離於過患心地無所畏
5 当得成真浄離一切諸過堅住如是知見自三菩提
6 若異於此者非能清浄地若住妄分別行者浄其地
7 秘密主非浄以離菩提心故應捨分別浄除一切地
8 我広説法教所有漫荼羅是中所先事愚癡不知解
9 非名世間覚亦非一切智乃至不能捨分別諸苦因
10 应当為弟子而浄菩提心護以不動尊或用降三世



③1

11 若弟子不為妄執之所動当成最正覚無垢喻虚空
12 初加持是地依於諸仏教第二心自在唯此非余教
13 四種蘇多羅謂白黄赤黒第五所念所謂虚空
14 空中而等持印定漫荼羅第二持經置於道場地
15 一切如来座及諸仏智子悦意妙蓮華世間称吉祥

1 縁覚諸声聞所謂迦智者当知所敷座菱荷青蓮葉
2 世界諸天神梵衆以為初赤色鉢曇華彼称为座王
3 降此如所念居其地分供養有四種謂作礼合掌
4 并及慈悲等世間与華香從手發生花奉諸救世者
5 結支分生印而觀菩提心各各諸如来彼所生子等
6 以是无過花芬妙復光顯法界為樹王供養仁中尊
7 真語以加持三昧自在轉勝妙広大雲法界中出生
8 從彼雨衆花当遍諸仏前其余世天等亦当散此華
9 奉献随相応本真言性類如是塗香等亦随其所応
10 空水輪相持是謂吉祥印彼所奉花等当自心献之
11 若諸世天神知在躋位或金剛拳印若復蓮華鬘
12 而在空中献導師救世者乃至諸世天各如其次第
13 護摩有二種所謂内及外業生得解脫復有芽種生
14 以能燒業故説為内護摩外用有三位三位三中住
15 成就三業道世間勝護摩若異此作者不解護摩業

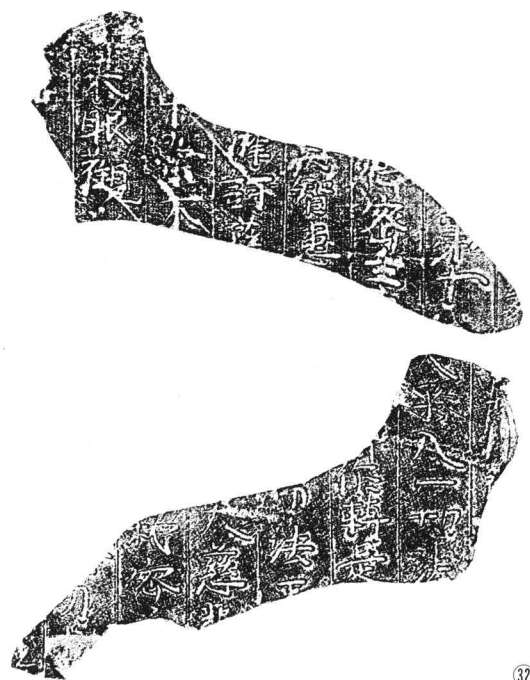
縦八・八cm、横一四・七cm。表面九一五行目、裏面一七行目。左上角部分。関西大学に出土地不明の現物資料が存在する（網一九七八）。

個人所蔵品（——線部）に同一個体で別個所を記した破片があり、接合する。

冒頭から三枚目まで真言部分が含まれるので詳細な割付は判らないが、四枚目に相当する破片が関西大学にある。当瓦経はそれに続く個所で、一字のずれもなく大日経五卷五枚目に復原できる。

③大日経卷第六 一枚目
宇野拓一 一一

- 1 大毘盧遮那仏神變加持經卷第六
- 2 受方便學處品第十八
- 3 爾時執金剛秘密主白仏言世尊願說諸菩薩摩訶薩等具智慧方便所修學句令歸依者於諸菩薩摩訶薩無有二意離疑惑心於生死流轉中常不可壞如是說已毘盧遮那世尊以如來眼觀一切法界告執金剛秘密主言諦聽金剛手今說善巧修行道若菩薩摩訶薩住於此者當於大乘而得通達秘密主菩薩持不奪生命戒所不為持不與取及欲邪行虛誑語僞惡語兩舌語無義語戒貪欲瞋恚邪見等皆不応作秘密主如是所修學句菩薩隨所修學則与正覺世尊及諸菩薩同行心如是學
- 15 爾時執金剛秘密主白仏言世尊薄伽梵於
- 1 声聞乘亦說如是十善業道世間人民及諸外道亦於十善業道常願修行世尊彼有何差別云何種種殊異如是說已仏告執金剛秘密主言善哉善哉秘密主汝復善哉能問



③2

- 5 如來如是義秘密主應當諦聽吾今演說差別道一道法門秘密主若声聞乘學處我說離慧方便教令成就聞發迦智非等行十善業道彼諸世間復離執著我故他因所轉菩薩修行大乘入一切法平等受智慧方便自他俱故諸所作轉是故秘密主菩薩於此拱智方便入一切法平等當勤修學
- 11 爾時世尊復以大慈悲眼觀諸衆生界告金剛手菩薩言秘密主彼諸菩薩盡形壽持不奪生命戒應捨刀杖離殺害意護他壽命猶如己身有余方便於諸衆生類中隨其事

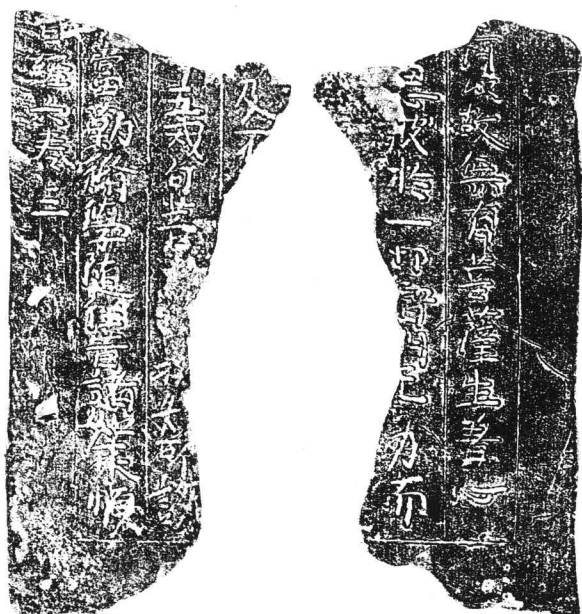
縦八・六cm、横一三・〇cm。表面一〇七行目、裏面八〇一四行目。
この次に該当する個人蔵の瓦経は一字分前にずれて始まるため、裏面

一二～一五行目に一六字書写の行があると思われる。大日経六卷一枚目に復原することができる。

③③大日経卷第六 三枚目

宇野拓一 一四

- 1 他物中不起染思何以故無有菩薩生著心
- 2 故若菩薩心有染思彼於一切智門无力而
- 3 墮一辺又秘密主菩薩應發起歡喜生如是
- 4 心我所應作令彼自然而生極為善哉數自
- 5 慶慰勿令彼諸衆生損失資財故
- 6 復次秘密主菩薩應持不瞋戒遍一切処
- 7 常修安忍不著瞋喜於怨及親其心平等而

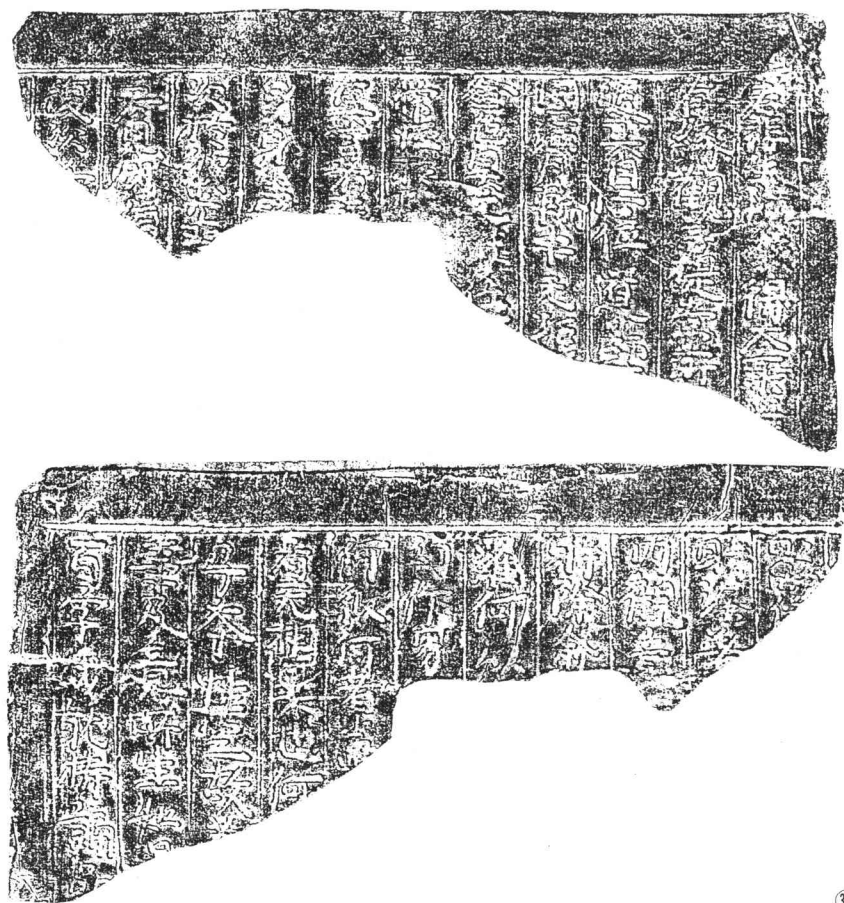


③③

- 8 轉何以故非菩提薩埵而壞惡意所以者何
- 9 以菩薩本性清淨故是故秘密主菩薩應持
- 10 不瞋恚戒
- 11 復次秘密主菩薩應持捨離邪見行於正見
- 12 怖畏他世無害無曲無諂其心端直於佛法
- 13 僧心得決定是故秘密主邪見最為極大過
- 14 失能斷菩薩一切善根是為一切諸不善法
- 15 之母是故秘密主下至戲笑亦當不起邪見

- 1 因縁
- 2 爾時執金剛秘密主白仏言世尊願說十善
- 3 道戒斷極根斷云何菩薩王位自在處於宮
- 4 殿父母妻子眷屬圍繞受天妙樂而不生過
- 5 如是說已仏告執金剛言善哉善哉秘密主
- 6 汝當諦聽善思念之吾今演說菩薩毘尼決
- 7 定善巧秘密主應知菩薩有二種云何為二
- 8 所謂在家出家秘密主彼在家菩薩受持五
- 9 戒句勢位自在以種種方便道隨順時方自
- 10 在摂受求一切智所謂具足方便示理舞伎
- 11 天祠主等種種芸処随彼方便以四摂法
- 12 摂取衆生皆使志求阿耨多羅三藐三菩提
- 13 謂持不奪生命戒及不与取虚妄語欲邪行
- 14 邪見等是名在家五戒句菩薩受持如所説
- 15 善戒應具諦信當勤修學随順往昔諸如来順

縦一五・九cm、横七・三cm。表面一～二行目、裏面一三～一五行目。右下角部分。裏面欄外左中程に「日経六卷三」の丁付。



③4

裏面一五行一二字目の「順」が脱落しており、それを補うように末尾に「順」を記している。誤写に気付きながら、書き直すことなくこういつた処置を取っているところに、書き手の姿勢が窺えよう。丁付から大日経六卷三枚目であることが判る。小町塚規格で割付けても問題は無い。

③4 大日経卷第六 六枚目
宇野拓二二八

- 1 若悲生漫荼得大乘灌頂調柔具善行常悲利他者
- 2 有縁觀菩提常所不能見彼能有知此内心之大我
- 3 隨其自心位導師所住処八葉從意生蓮華極嚴麗
- 4 円満月輪中无垢猶淨鏡於彼常安住真言救世尊
- 5 金色具光焰住三昧害毒如日難可觀諸衆生亦然
- 6 常恒於内外普周遍加持以如是慧眼了知意明鏡
- 7 真言者慧眼觀是円鏡故当見自形色寂然正覺相
- 8 身身生影像意從意所生常出生清淨種種自作業
- 9 次於彼光現円照如電焰真言者能作一切諸仏事
- 10 若見成清淨聞等亦復然如意所思念能作諸事業
- 11 復次秘密主真言門修菩薩行諸菩薩如是
- 12 自身影像生起無有殊勝過三菩提如眼耳
- 13 鼻舌身意等四大種撰持集聚彼如是自性
- 14 空唯有名字所執猶如虛空無所執著等於
- 15 影像彼如來成正覺互相緣起無有間絶若
- 1 從縁生彼即如影像生是故諸本尊即我我
- 2 即本尊互相發起身所生身尊形像生秘密
- 3 主觀是法縁通達慧通達慧縁法彼等遞為
- 4 作業無住性空秘密主云何從意生意能生
- 5 影像秘密主譬如若白若黄若赤作者作
- 6 時染著意生彼同類如是身軀秘密主又如
- 7 内觀意中漫荼羅療治熱病彼衆生熱病即
- 8 時除愈無有疑惑非漫荼羅異意非意異漫荼

- 9 羅何以故彼漫荼羅一相故秘密主又如幻者
- 10 幻作男子而彼男子又復作化秘密主於意云
- 11 何彼何者為勝時金剛手白仏言世尊此二人
- 12 者无相異也何以故世尊非実生故是二男
- 13 子本性空故等同於幻如是秘密主意生衆
- 14 事及意所生如是俱空無二無別
- 15 百字成就持誦品第二十二

縦一一・七cm、横二二・〇cm。表面一〇一行目、裏面五〇一行目。右三角部分。

裏面八〇一行目はいずれも一八字書写になっている。しかし、一四行目で「百字位成品第二十一」が終わり改行するので、四字分のずれはこの面の間に解消される。

小町塚規格で割付け、大日経六卷六枚目に位置付けられる。

③⑤金剛頂経卷上 六枚目

字野拓一〇一五・一〇三九・二〇二三

- 1 薩埵加持名金剛三摩地名一切如来鉤召
- 2 三昧耶一切如来心從自心出
- 3 縛日羅^合邏^引惹
- 4 從一切如来心纔出已則彼婆伽梵金剛手
- 5 為一切如来大鉤出已入世尊毘盧遮那心
- 6 聚為一体生金剛大鉤形住仏掌中從金剛
- 7 大鉤形出現一切世界微塵等如来身召請
- 8 一切如来等作一切仏神通遊戲妙不空王
- 9 故金剛薩埵三摩地極堅牢故聚為一体生

- 10 不空王大菩薩身住毘盧遮那仏心説此喴
- 11 陀南
- 12 奇哉不空王金剛所生鉤由遍一切仏為成就鉤召
- 13 時不空王大菩薩身從仏心下依一切如来
- 14 右月輪而住復請教令時婆伽梵入一切如
- 15 来鉤召三昧耶名金剛三摩地受一切如

- 1 来鉤召三昧耶尽無余有情界一切鉤召一
- 2 切安樂悅意故乃至一切如来集会加持最
- 3 勝悉地故則彼金剛鉤授与不空王大菩薩
- 4 双手一切如来以金剛名号金剛鉤召金剛
- 5 鉤召灌頂時金剛鉤召菩薩摩訶薩以金剛
- 6 鉤鉤召一切如来説此喴陀南

- 7 此是一切仏無上金剛智成諸仏利益最上能鉤召
- 8 爾時婆伽梵復入摩羅大菩薩三昧耶出生
- 9 薩埵加持名金剛三昧地一切如来隨染三
- 10 昧耶名一切如来心從自心出
- 11 縛日羅^合邏^引惹

- 12 從一切如来心纔出已即彼婆伽梵持金剛
- 13 為一切如来花器仗出已入世尊毘盧遮那
- 14 仏心聚為一体生大金剛箭形住仏掌中從
- 15 彼金剛箭形出一切世界微塵等如来身作

字野拓二〇二三は縦一一・九cm、横一一・二cm。表面三〇七行目、裏面八〇一四行目。

字野拓一〇一五は縦一二・八cm、横七・八cm。表面七〇一行目、裏面六〇九行目。前者と接合する。



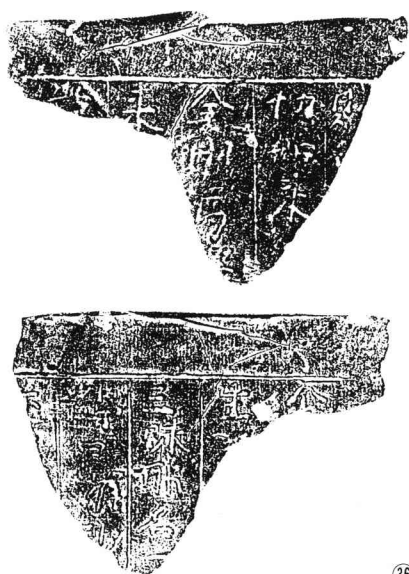
宇野拓一・三九は縦一一・〇cm、横六・六cm。表面一三〇一五行目、裏面一〇三行目。左下角部分。

表面一五行目は一六字書写で一字前にずれるが、裏面七行目が偈で改行するためそこで解消される。裏面九行九字目は「摩」だが「味」と誤写している。東博所蔵品に二枚目がある。そこから小町塚規格で割付けると、一字のずれもなく金剛頂経上巻六枚目に復原できる。

③⑥ 金剛頂経卷上 七枚目

宇野拓一・一四

- 1 一切如来随染等作一切仏神通遊戲極殺
- 2 故金剛薩埵三摩地極堅牢故聚為一体生
- 3 摩羅大菩薩身住世尊毘盧遮那仏心説此
- 4 嘸陀南
- 5 奇哉自性浄随染欲自然離欲清浄故以染而謂伏
- 6 時彼摩羅大菩薩身從世尊心下依一切如
- 7 来左月輪而住復請教令時世尊入一切如



③⑥

- 8 来随染加持名金剛三摩地受一切如来能
- 9 殺三昧耶尽無余有情界随一切安樂悦意
- 10 故乃至得一切如来摩羅業最勝悉地果故
- 11 則彼金剛箭授与摩羅大菩薩双手則一
- 12 切如来以金剛名号金剛弓金剛弓灌頂時
- 13 金剛弓菩薩摩訶薩以金剛箭殺一切如
- 14 来説此嘸陀南
- 15 此是一切仏染智無瑕穢以染害厭離能施諸安樂

- 1 爾時婆伽梵復入極喜王大菩薩三昧耶所
- 2 生薩埵加持名金剛三摩地一切如来極喜
- 3 三昧耶名一切如来心從自心出
- 4 縛日羅婆度
- 5 從一切如来心纔出已則彼婆伽梵持金剛
- 6 為一切如来善哉相入世尊毘盧遮那仏心
- 7 聚為一体生大歡喜形住仏掌中從彼歡喜
- 8 形出一切世界微塵等如来身作一切如来
- 9 善哉相作一切仏神通遊戲極喜故金剛薩
- 10 埵三摩地極堅牢故聚為一体生歡喜王大
- 11 菩薩身住世尊毘盧遮那仏心説此嘸陀南
- 12 奇哉我善哉諸一切勝智所離分別者能生究竟喜
- 13 時歡喜王大菩薩身從世尊心下依一切如
- 14 来後月輪而住復請教令時世尊入一切如
- 15 来等喜加持名金剛三摩地已受一切如来

縦七・〇cm、横一一・二cm。表面一一〇一五行目、裏面一〇五行目。左上角部分。



③7

表面一、一三行目は一六字書写でずれを生じるが、一五行目が偈のため改行があり解消する。前記六枚目の直後の個所で一字のずれもなくつながり、金剛頂経上巻七枚目に復原できる。

③7 金剛頂経巻上 一三枚目

宇野拓一 一三・一三・三五

- 1 薩埵三摩地極堅牢故聚為一体生曼殊室
- 2 利大菩薩身住世尊毘盧遮那仏心説此偈
- 3 陀南
- 4 奇哉一切仏我名微妙音由慧無色故音声而可得
- 5 時彼曼殊室利大菩薩身從世尊心下依一
- 6 切如来右月輪而住復請教令時世尊入一
- 7 切如来智慧三昧耶名金剛三摩地断一切
- 8 如来結使三昧耶尽無余有情界断一切苦

- 9 受一切安樂悦意故乃至得一切如来随順
- 10 音声慧円満成就故則彼金剛鉤・授与曼殊
- 11 室利大菩薩摩訶薩双手則一切如来以金
- 12 剛名号金剛慧金剛慧灌頂時金剛慧菩薩
- 13 摩訶薩以金剛劍揮斫説此偈陀南
- 14 此是一切仏智慧度理趣能断諸怨敵除諸罪最勝
- 15 爾時婆伽梵復入纔発心転法輪菩薩摩訶

- 1 薩三昧耶出生法加持名金剛三摩地一切
- 2 如来輪三昧耶名一切如来心從自心出
- 3 縛日羅係都
- 4 從一切如来心纔出已即彼婆伽梵持金
- 5 剛成金剛界大曼荼羅為一切如来大漫
- 6 荼羅出已入世尊毘盧遮那仏心聚為一体
- 7 生金剛輪形住仏掌中從彼金剛輪形出一
- 8 切世界微塵等如来身纔発心転法輪故
- 9 金剛薩埵三摩地極堅牢故聚為一体生
- 10 纔発心転法輪菩薩摩訶薩身住世尊毘
- 11 盧遮那仏心説此偈陀南
- 12 奇哉金剛輪我金剛勝持由纔発心故能転妙法輪
- 13 時彼纔発心転法輪大菩薩身從世尊心下
- 14 依一切如来左月輪而住復請教令時世尊
- 15 入一切如来輪名金剛三摩地一切如来大

宇野拓一 一三は縦八・八cm、横六・四cm。表面六〇八行目、裏面七〇行目。

宇野拓一 一三五は縦八・五cm、横六・八cm。表面九〇二行目、裏面

四〇七行目。

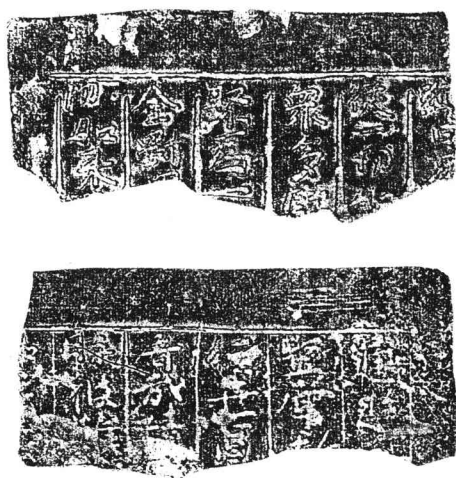
東博所蔵品（——線部）に同一個体で別個所の部分がある。これら三点は接合する。

表面一〇行一三字目「鉤」は「劍」の誤り。一行一七字で割付けると、裏面の四〇一行目の文字が瓦経に見られるようには並ばなくなる。そこで表面との整合性から推定して、六、七行目を一八字書写で割付ければ自然に並ぶ。一二行目に偈があり改行するので、ずれはここで解消される。前記七枚目から小町塚規格で割付けると一行分前にずれて、金剛頂経上巻一二枚目に復原できる。

③⑧金剛頂経卷中 二枚目

字野拓一―三一

- 1 王以一切如来灌頂授与双手則一切如来
- 2 以金剛名号金剛毘首金剛毘首灌頂時彼



③⑧

- | | |
|--|---|
| <p>13 剛甲冑被一切如来説此嘔陀南</p> <p>12 慈友灌頂時彼金剛慈友菩薩摩訶薩以金</p> <p>11 手則一切如来以金剛名号金剛慈友金剛</p> <p>10 果故則金剛甲冑授与難敵精進大菩薩双</p> <p>9 安樂悦意故乃至得一切如来金剛身成就</p> <p>8 波羅蜜三昧耶救護尽無余有情界受一切</p> <p>7 切如来堅固名金剛三摩地一切如来精進</p> <p>6 切如来右月輪而住復請教令時世尊入一</p> <p>5 時彼難敵精進大菩薩身從世尊心下依一</p> <p>4 奇哉精進甲我固堅固者由堅固無身作金剛勝身</p> <p>3 住世尊毘盧遮那仏心説此嘔陀南</p> <p>2 堅牢故聚為一体生難敵精進大菩薩身</p> <p>1 通遊戲難敵精進故金剛薩埵三摩地極</p> | <p>15 切如来守護儀軌広大事業等作一切仏神</p> <p>14 金剛甲冑形出一切世界微塵等如来身一</p> <p>13 聚為一体生大金剛甲冑形住仏掌中從彼</p> <p>12 衆多堅固甲冑出已入世尊毘盧遮那仏心</p> <p>11 從一切如来心纔出已即彼婆伽梵金剛手為</p> <p>10 縛日羅路乞沙</p> <p>9 如来守護三昧耶名一切如来心從自心出</p> <p>8 三昧耶出生羯磨加持名金剛三摩地一切</p> <p>7 爾時婆伽梵復入難敵精進大菩薩摩訶薩</p> <p>6 此是一切仏作種種勝業授与我掌中以業安於業</p> <p>5 南</p> <p>4 自心令安一切如来羯磨平等処説此嘔陀</p> <p>3 金剛毘首菩薩摩訶薩則安立羯磨金剛於</p> |
|--|---|

14 此是一切仏最勝慈甲冑堅精進大護名為大慈友
15 爾時婆伽梵復入摧一切魔大菩薩摩訶薩

縦六・〇cm、横一一・八cm。表面一〇一五行目、裏面一五行目。
左上角部分。

表面一一行目は八字。裏面一、二行目は六字。表面一一行目からの段落は裏面三行目までで、この中で帳尻を合わせているので以後の割付にずれ込みはない。小町塚規格で割付けると、金剛頂經中卷二枚目に復原できる。

③9 金剛頂經卷中 七枚目

宇野二・宇野拓二・二五・二一九

- 1 從一切如來心纔出已出一切如來法印從彼一
- 2 切如來法印則彼婆伽梵持金剛為一切世
- 3 界微塵等如來身復聚為一體為金剛
- 4 歌詠大天女依世尊觀自在王如來左辺月
- 5 輪而住說此嘔陀南
- 6 奇哉成歌詠我供諸見者由此供養故諸法如響応
- 7 爾時世尊毘盧遮那復入一切如來舞供養
- 8 所生名金剛三摩地一切如來族大天女從
- 9 自心出
- 10 縛日羅囉哩^二帝曳^三
- 11 從一切如來心纔出已出一切如來舞廣大儀
- 12 從彼出一切如來舞供養儀則彼婆伽梵持金剛
- 13 為一切世界微塵等如來身復聚為一體為
- 14 金剛舞大天女依世尊不空成就如來左辺

15 月輪而住說此嘔陀南
16 奇哉大供養作諸供養故由金剛舞儀安立仏供養

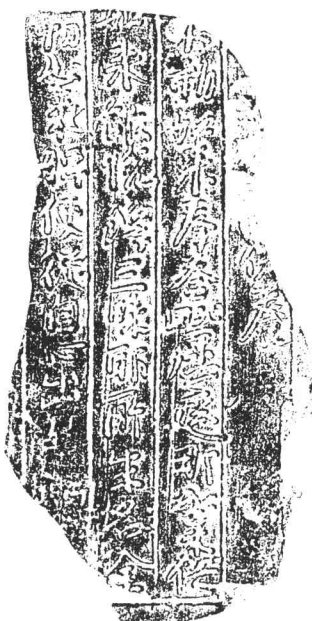
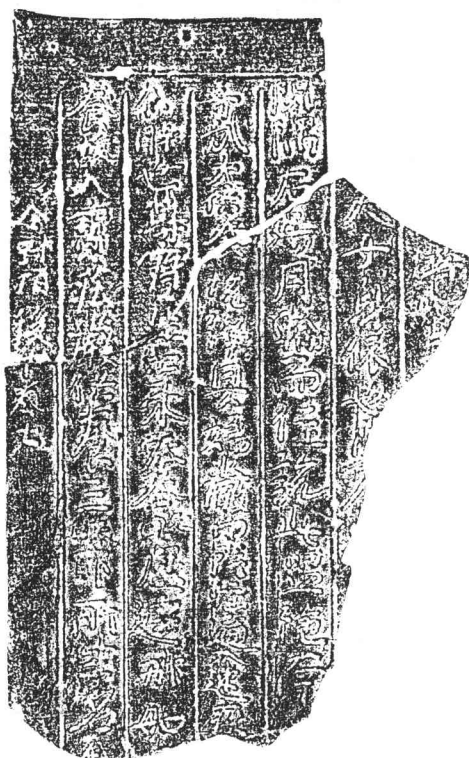
- 1 一切如來無上安樂悅意三昧耶
- 2 一切如來鬘一切如來諷詠一切如來無上
- 3 作供養業如是一切如來秘密供養
- 4 爾時世尊不動如來奉答毘盧遮那如來供
- 5 養故入一切如來能悅沢三昧耶所生名金
- 6 剛三摩地一切如來婢使從自心出

縛日羅囉哩

- 8 從一切如來心纔出已則彼婆伽梵持金
- 9 剛為種種儀燒香供養雲嚴飾舒遍一切
- 10 金剛界出已從彼燒香供養雲海出一切
- 11 世界微塵等如來身復聚為一體為金剛
- 12 燒香天女身依世尊金剛摩尼実峯樓
- 13 閼闍右辺月輪而住說此嘔陀南
- 14 奇哉大供養悅沢具端嚴由薩埵遍入速疾証菩提
- 15 爾時世尊寶生如來奉答毘盧遮那如來供
- 16 養故入寶莊嚴供養三昧耶所生名金剛三

宇野二は縦九・五cm、横九・五cm、厚二・四cm。表面一五行目、裏面一二五行目。左上角部分。灰褐色。表面の縦罫線は全て上枠線に接し、わずかに突き抜ける。切合いから縦罫線が先、上枠線が後に引かれたと判る。裏面の縦罫線と上枠線は全て離れる。上端角は大きく、側端は薄く面取りを施す。裏面欄外左上に「金剛頂後」の丁付。

宇野拓二・二五は縦一五・四cm、横一二・三cm、厚二・二cm。表面一六行目、裏面一一六行目。右端部分。前者と接合する。裏面欄外



左上に「中巻七」の丁付。

宇野拓二・九は縦一七・八cm、横八・三cm。表面一一～一四行目、裏面三～六行目。下端部分。

表面一行一〇字目の「出」は欠落し、かつ一行に一八字書写されているので、二字分ずれる。三行目が一行に一五字しか書かれず、ここで二字分のずれは解消される。一一行目は一八字、一二行目は一九字書写されており、三字分ずれるが、一五行目で改行されるのでここで解消される。一六行目まで書写され、以後一行分ずれ込む。裏面八～一二行目までの五行間は、正しく写経しておれば七九字しか記されていないことになる。表面と整合させた一一、一二行目を手がかりに、八～一一行目は一六字、一二行目は一五字書写と推定する。一三行三字目の「右」は「左」の誤写。裏面も一六行書かれており、以降の瓦経に計二行分ずれ込むことになる。丁付から金剛頂經中巻七枚目と判る。

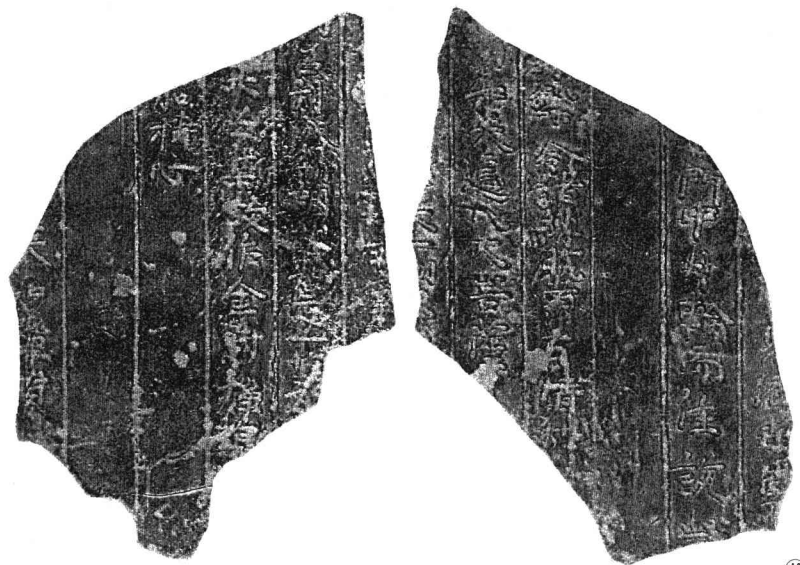
ところで、個人、豊橋市美術館所蔵品（「網干一九八〇a」）に同一個所を記した別個体が存在する。これは表裏面とも一五行で小町塚規格に則って書かれたもので、裏面欄外左下に「金剛頂經中七」と丁付も記されている。宇野二の丁付に「金剛頂後」と「後」が書かれているが、個人、豊橋市美術館所蔵品を「前」として二部書写したことを示すと思われる。

④金剛頂經卷中 一〇枚目

宇野拓二・一八

- 1 耶縛一切如来使従自心出
- 2 縛日羅薩普^二合吒
- 3 従一切如来心纔出已則彼婆伽梵持金剛
- 4 出一切如来三昧耶縛為印衆徒彼一切如来

- 5 三昧耶縛印衆出已出一切世界微塵等如来
- 6 身復聚為一体為金剛鎖大菩薩身依世尊
- 7 金剛摩尼宝峯樓閣法門中月輪而住説此
- 8 嘸陀南
- 9 奇哉一切仏大堅金剛鎖令諸縛脱者有情利故縛
- 10 爾時世尊復入一切如来遍入大菩薩三昧
- 11 耶所生名金剛三摩地一切如来一切印僮
- 12 僕従自心出



④

- 13 縛日羅伏捨
- 14 從一切如来心纔出已則彼婆伽梵持金剛
- 15 為一切如来印主出已從彼一切如来印主
- 1 出一切世界微塵等如来身復聚為一体為
- 2 金剛遍入大菩薩身依世尊金剛摩尼宝峯
- 3 樓閣羯磨門中月輪而住說此嘔陀南
- 4 奇哉一切仏我堅金剛入為一切主宰亦即為僮僕
- 5 一切如来三昧耶鉤召引入縛調伏如是一切如来教令
- 6 爾時世尊為一切如来召集故作金剛彈指
- 7 相說此一切如来召集加持心
- 8 縛日羅三摩惹
- 9 由刹那羅縛須臾頃一切如来如彈指頃相
- 10 警覺已遍一切世界雲海中一切世界微塵
- 11 等如来并菩薩集会曼荼羅集已往詣金剛
- 12 摩尼宝峯樓閣世尊毘盧遮那如来所至已
- 13 說礼一切如来足心
- 14 唵薩縛^二合怛他孽多播那滿那曩迦嚕弥
- 15 由此性成就真言隨意念誦礼一切如来已

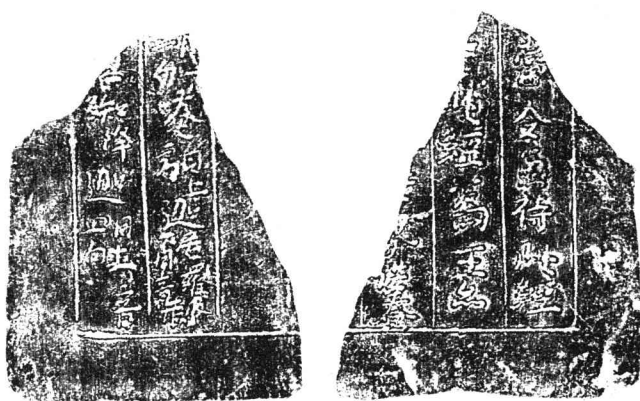
縦一四・七cm、横一〇・二cm。表面六〇一一行目、裏面四〇九行目。
関西大学に出土地不明となっている現物資料がある（「網干 一九七六」）。

表面三〇六行目の間で二字分後ろにずれている。どこで生じたのかは不明だが、取り敢えず四、五行目を一八字書写と考える。九行目に偈が入り改行されるので、このずれは解消される。裏面五行目は本来二行に渡って書かれる段落だが二二字を詰めて書いており、以後一行分ず

れ込む。前記七枚目の個人、豊橋市美術館所蔵品から小町塚規格で割付けると一字のずれもなく、金剛頂經中卷一〇枚目に復原できる。

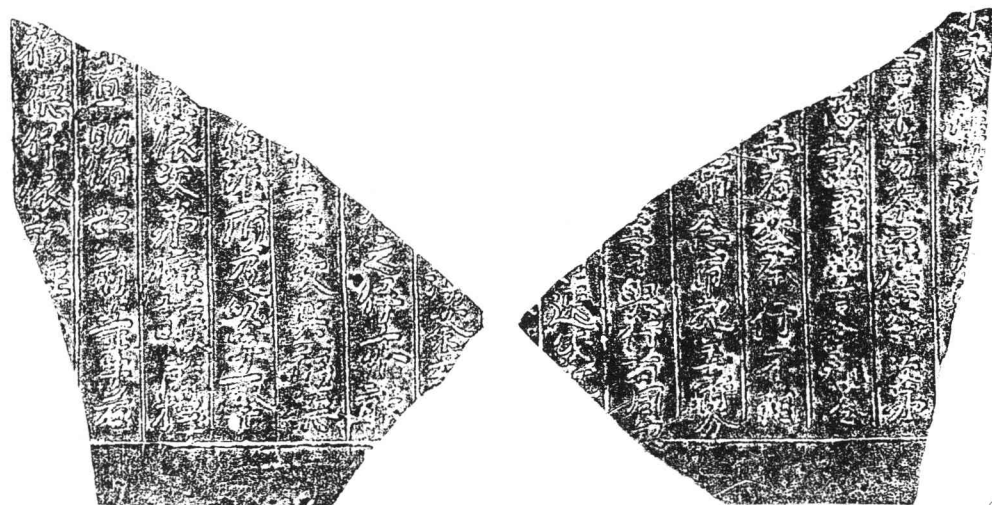
④蘇悉地經卷上 二枚目
宇野拓二・四

- 1 有持誦余真言法不成就者当令兼持此經
- 2 根本真言当速成就於三部中此經為王亦
- 3 能成弁一切等事所謂護身召請結界供養
- 4 相助決罰教授一切真言一一次第令得成
- 5 就若諸心真言中有三虎銡字者則能成弁



④1

2 說為勝於行者。無所規求。未得悉地。或



3 就以來終不捨離縱淹年歲無証悉地終不
4 壞於捨離退心假令有大苦及余難事逼惱
5 身心亦不応捨具如是德説為勝伴若有如
6 前種種德行堪能成就最上勝事縱無前德

42

7 但明真言成就法則并須善解諸漫荼羅智
8 慧高明復加福德勝持誦者如是之伴亦能
9 成就最上勝事為欲成就最上事故其福德
10 伴半月半月与持誦者而作灌頂及以護摩
11 隨時所弁香花燃燈諸余依次第擁護簡扱
12 隨所有為並須助作非直助修如前等事若
13 誦持者有所虧失其福德伴依於經法以理
14 教誨勿法事有闕乃至事事廣為開釈諸行
15 因縁具如是者最為勝伴行者毎日持誦之

縦一三・〇cm、横一二・七cm。表面三〇九行目、裏面七〇一三行目。
下端部分。

表面八行目は一八字書写で、以後一字分ずれる。真言部分が多く割付
が定かでないが、前記二枚目から小町塚規格で割付けると蘇悉地経上卷
七枚目に復原できる。

④③ 蘇悉地経卷上 一四枚目
宇野拓一 一二六

1 所聞經典諦思文義常須転読真言法品当
2 須供養真言法経依経善画妙漫荼羅応須
3 自入発之初定諦信比丘入之比丘尼優婆
4 塞優婆夷随次入之並皆堅固発菩提心決
5 定心正見心入曼荼羅了応当授与結手印
6 法及持真言次第法則応正広為宣説真言
7 法則白月八日或十四日十五日及以月尽
8 日或十一月十五日如是之日倍加供養依

人持誦其物于時東方有是難現謂大雨雷

宇野拓一・二五は縦八・六cm、横八・四cm。裏面は罫のみ。関西大学に出土地不明の現物資料が存在する（「網干一九七八」）。

宇野拓一・二四は縦六・三cm、横一二・三cm。裏面は梵字一字しか見られず、ほかは罫のみ。前者と接合する。

東博（——線部）に同一個体で別個所の瓦経が存在する。裏面には梵字が記されている。

当瓦経は変則的であり、蘇悉地経中巻一五枚目とする理由は後述する。

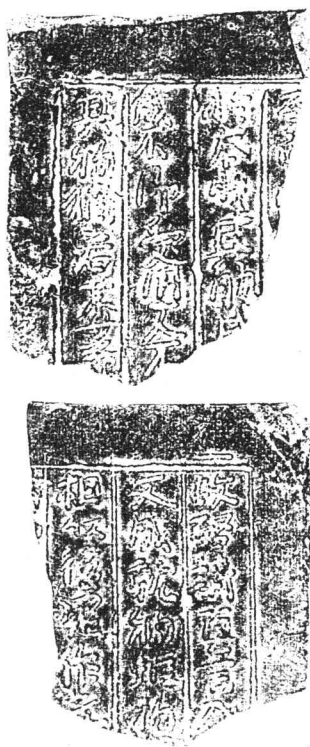
④⑤ 蘇悉地経卷中 一六枚目

宇野拓一・二八



④④

- 1 即非成就其三種相謂煖氣煙光如是三相
 - 2 応次第現若上成就即具三相若中成就具
 - 3 前二相若下成就唯現初相或若持誦虔誠
 - 4 於初夜時三相次第現者即以部母明禁住
 - 5 其光或以明王心禁住其相及以持誦牛黃
 - 6 塗灑或以手按或用蘇灑或以散花或散白
 - 7 芥子或但灑水禁住其相便即受用亦果其
 - 8 願或若初夜或即便禁住但作念誦至其本
 - 9 時方可受用其中成就准此応知於其初夜
 - 10 下悉地成於其中夜獲中成就於明相動時
 - 11 獲上成就其中成就中夜成者如法禁已縱
 - 12 至明曉受用亦得其下成就准此応知各
 - 13 於本時其助成者若不受用亦不為吉其物縱
 - 14 成不即受用又不禁住至其平曉亦不受用
 - 15 其物猶若萎花亦如穢食無所堪用以念誦
- 2 故啓請真言入其物中時既過已其驗亦失
- 1 又成就物雖初相現然不成就當時若禁其



④⑤

3 相以後還作光顯等法及諸節日供養灌頂
4 便作成就經於三年若不成者當知此物不
5 可得成上成就法限至三年若中成就至第
6 六月若下成就不限其時損成就法亦復如
7 是

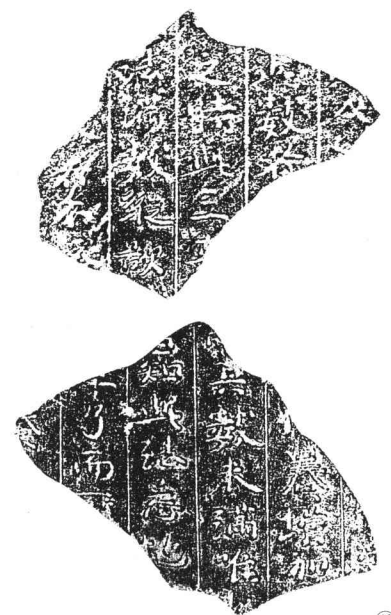
8 蘇悉地羯羅經被偷成物却徵法品第十六
9 我今當說被偷之物却徵之法其物成已或
10 作成就之時其物被偷偷物之時或見其形
11 或但失物不見偷者于時不損日宿亦不斷
12 食發起瞋怒現前速應作此漫荼羅法用燒
13 屍灰三角而作唯開西門於外門前置其本
14 尊內院東角置蘇悉地羯羅明王右置金剛
15 忿怒左置大怒右置金剛拳左置金剛鉤右

縱九・七cm、横八・〇cm。表面一二一五行目、裏面一三行目。左上角部分。

表面一二行目が一六字だが、一三行目に一八字書いて解消している。前述の蘇悉地經中卷一八枚目から逆算して割付けると、蘇悉地經中卷一六枚目に復原できる。

④6 蘇悉地經卷下 一四枚目
字野拓一三八

1 時替換內衣日別一洗其衣乾燥聽以薰灑
2 獻尊鉢器三時洗挑既除萎花統置新者三
3 時常誦大乘般若等經及作制多塗漫荼羅
4 先誦承事真言既了請祈未得於中不得廢



④6

5 闕一時二時乃至一嚮應當念誦不得間斷若
6 魔障著病癯身心則不精誠便當放逸身心
7 疲勞違於時節不依法則或時不浴作持念
8 誦及以護摩不應作數撰心用行依法念誦
9 其此數者應記為數作護摩時念誦之時請
10 召之時此三事中有真言遍數一一皆須
11 依法滿數縱欲數滿欠一未了而有障起更
12 從頭數若不依法作皆不成若有依法作漫
13 荼羅時或日月蝕時於此二時加法念誦其
14 福增高不久成就無有疑也若於八大靈塔
15 或於過去諸仏行菩薩行處最為勝上或於
1 正月十五日時亦為勝時或於師主處受真
2 言先經承事便當念持不久速成或於夢中
3 見真言主而指授者依彼法則亦速成就彼
4 念誦人供養增加處所尊勝或當時分更加
5 精誠其數未滿唯此勝故真言主悅而賜成

6 就当知此法悉地雖速不久当壞以是義故
7 先承事了而所得者說為堅固先承事時
8 廣供養於日月蝕於八日十四日十五日復
9 加獻供諸神仙衆如余部說前等日加諸善
10 事業齋戒等事是日復加獻供本明真言主
11 瓶盛香水挿垂花枝或取闕伽器用甘露軍
12 荼利真言而真言之自灌其頂能除魔障
13 或於其日獻諸飲食塗漫荼羅及以護摩
14 燃燈等供並須加之或有法中但說持誦自然
15 驗見者前所張像舍利塔等忽然揺動或光

縱七・七cm、横九・五cm。表面八〃一二行目、裏面四〃八行目。裏面
欄外左上に「蘇三卷十四」と丁付。

東博所藏品（——線部）に同一個体で別個所を記した瓦経があり、右
上角の部分が判る。

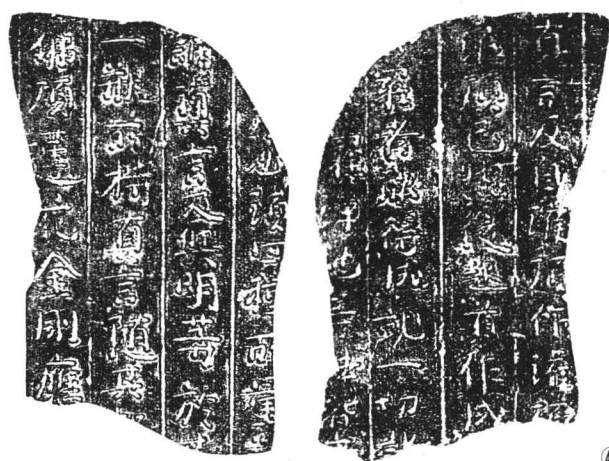
表面五行目は一八字書写で、以後一字分ずれる。裏面一二、一三行目
は一六字、一四行目は一八字書写で、ずれはここで解消される。丁付か
ら蘇悉地経下卷一四枚目と判る。

④7 蘇悉地経卷下 二七枚目

字野拓一〃四一

1 可依之応観念誦功力及観同伴多少应当
2 具備如本尊恩眷境界許多任可成就悉地
3 之法有上中下諸物数量亦復如是
4 蘇悉地羯羅經灌頂壇品第三十三
5 復次広說成就諸物秘密妙法令速悉地若

6 欲起首成就法者先應備弁諸悉地具以護
7 摩法加威本尊真言及自灌頂作灌頂漫荼
8 羅如法供養作灌頂已然後起首作成就法
9 若作大灌頂漫荼羅者能得成就一切諸事
10 如前所說明王漫荼羅淨地等法皆應如是
11 其漫荼羅頓方四角安置四門其量八肘或
12 七或五唯開西門界道五色如法画飾如其
13 台量次外減半次外准然於此西面四肘之
14 外復作一漫荼羅其量五肘或四或三唯開
15 東門或如根本大漫荼羅灌頂處所減半而
16 作風漫荼羅地勢皆北下卸說為吉祥但



④7

- 1 漫荼羅地勢北下卸者説為最勝或用一種
- 2 彩色画之於四角外作三肘拔折羅於中台
- 3 内如法画作八葉蓮華諸漫荼羅亦応如是
- 4 蓮華葉外周匝画作吉祥妙印於四門中画
- 5 拔折羅復於諸角安吉祥祇瓶於外灌頂漫荼
- 6 羅亦如是作凡欲灌頂必須四種所量瓶処
- 7 並衛界角随所持誦真言及与明等於其台
- 8 内画本尊印并置一瓶所持真言随其部類
- 9 画本尊主印所謂仏頂蓮華金剛応知此法
- 10 最為秘密所持真言不識名号及部不貫者
- 11 応安一瓶名弁諸事或安成就義利之瓶或
- 12 安一瓶名諸真言次外東面画仏頂印右辺
- 13 部母印左辺部心印次右鑠底印次左牙印次
- 14 右阿難次左須菩提諸余真言及明等印左
- 15 右安置乃至兩角次於北面画観自在菩薩

縦一一・八cm、横七・九cm。表面七〇行目、裏面六九行目。

個人所蔵品（——線部）と接合する。

裏面六行一五字目の「量」は「置」の誤写。表面一三行目から裏面五行目の間に一六字分余計に記されている。約一行分の欠落とも考えられるが、表面に一六行記されているとして復原した。裏面一三行目も一八字書写と考えられ、当瓦経で都合一七字分前にずれる。京都大学所蔵品に直前の瓦経があり、「蘇三卷廿六」と丁付が記されている。これから蘇悉地経下卷二七枚目に復原できる。

④⑧ 蘇悉地経卷下 二九枚目

宇野拓二一八

- 1 置句吒鬻利随彼所樂而当奉献如法供養
 - 2 諸真言已及護摩已前之安瓶随所為者誦
 - 3 彼真言而用加被於本尊前所安之瓶还用
 - 4 彼真言而被加之其台内瓶応用明王真言
 - 5 而作加被当門為軍荼利所安置瓶亦須用
 - 6 (彼真言加被於台漫荼羅東面兩角所安置)
 - 7 瓶東北角者以部心真言東南角者用部母
 - 8 真言西北角者用能弁諸事言西南角者
 - 9 用一切真言如是加被此上瓶已及供養已次
 - 10 応右邊如前説灌頂法此亦如是安置吉祥
 - 11 瓶所謂穀実菓草花果香樹枝葉花鬘及
 - 12 宝置於瓶内新帛絵綵用纏其頸諸灌頂法
- 皆応如是即令同伴灌行者頂其同伴者皆



- 13 須持誦如法清淨或求阿闍梨配与灌頂
 - 14 為欲除遣諸作障故先用軍荼利瓶而用
 - 15 灌頂第四応用所持真言瓶而用灌頂其共二瓶
 - 1 随意而用如是畢已応以牛黄塗香薰香芥
 - 2 子線釧衣服皆応受用作灌頂已復為息諸
 - 3 障故応作護摩已便即發遣或於淨処但
 - 4 一彩色作小漫茶羅極令方正其量二肘安
 - 5 置三部大印西面焚印如前安置淨瓶如
 - 6 法灌頂能離諸障本尊歛喜不久速成此秘
 - 7 密最勝悉地
 - 8 蘇悉地羯羅經光物品第卅四
 - 9 復次如法灌頂畢已応作護摩經三七日或
 - 10 一七或日經一月或隨其成就相応或於本
 - 11 法所説毎月三時用蘇蜜酪和以胡麻応作
 - 12 護摩或依本法祀乳粥或祀酪飯所成就物
 - 13 每日三時以香薰之以香水灑以真言加被
 - 14 觀視其物以吉祥環貫置指上楊按其物以
 - 15 牛黄水或白芥子灑散物上及於節日加諸
- 縦八・〇cm、横一四・五cm。表面九一五行目、裏面一七行目。左下角部分。
- 同一個体で別個所を記した破片が常楽寺美術館所蔵品（——線部、[難波田一九八一b]、かわら美術館所蔵品（~~~~線部、[網千一九七九c]）にある。これら三点は接合し、ほぼ全体が判る。
- 表面四行五、六字目の「加被」は「被加」と逆に記される。五、六行目の間には本来「彼真言加被於台漫茶羅東面両角所安置」の一行が入る

が脱落している。それに途中で気がついたのか、五、六行目の間の野線欄外上に「一」と挿入記号を記し、欄外右に脱落した経文を書いている。そのため以後一行分ずれを生じる。七行二一文字目の「真」は「事」と誤写。裏面五行八字目の「槃」は「焚」と誤記。一〇行三、四字目の「日或」は「或日」と逆転して記している。一一行五字目の「日」は「月」と誤写。非常に誤写の目立つ資料である。表面七、一〇、一三、一四行目、裏面三、五行目は一六字書写、表面八行目は一八字書写、表面一五行目は一九字書写で三字分後ろにずれるが、裏面八行目から「光物品第卅四」が始まり改行するので、そこで解消される。前記二七枚目から小町塚規格で割付けると、二字分後ろにずれ込んで、蘇悉地経下巻二九枚目に復原できる。

④9 蘇悉地経卷下 三〇枚目

宇野拓一・八・二一六・二一〇

- 1 供具奉獻彼物若白月成者取十五日若黒
- 2 月成者取十四日如斯作法光顯其物皆用
- 3 部母真言復重加諸花香花鬘等物供養以
- 4 香塗手置茅草環按所成物畢夜持誦於夜
- 5 三時誦百八遍如斯光顯成就之物從始至
- 6 終皆心如是若為具此法速得成就
- 7 仏部光顯真言曰
- 8 唵同上諦若蜜尾備悉睺婆去駄野
- 9 三虎鉢鉢鉢四
- 10 蓮華部光顯真言曰
- 11 唵同上挹奴比并挹同比同跛野二摩
- 12 訶室利曳三莎縛合二訶四



13 金剛部光顯真言曰
 14 唵^{同上}入縛羅人縛羅野^二畔度哩^三莎合^二縛^三
 15 訶^四

1 於三部法皆用赤羯羅微羅花以真言持誦
 2 散灑其物或用忙落底（花或用白芥子首末）
 3 中間皆心如是散霑其物或有驚界及見異
 4 相亦如是散臨欲成就亦如是散便成光顯
 5 若欲成就蘇等之物真言香水用灑其物便
 6 成光顯以如是法而光顯物縱不成者不心
 7 間斷或作漫荼羅以為光顯如前淨地用五
 8 種色作漫荼羅其量四肘而開一門內院東
 9 面先置輪印東北角置鉢印東南角置袈裟
 10 印次於北面置蓮華印於西北角置灘拏格
 11 印於東北角置軍持瓶印次於南面置拔折
 12 羅印於東南角置藥那格印於西南角置羯
 13 羅賒瓶印於西面置金剛鉤印金剛拏印於
 14 西南角置計利吉羅印於西北角置遜婆印
 15 復於東面置輪右邊置仏眼部母印又於北

宇野拓一―八は縦七・〇cm、横七・三cm。表面一―三行目、裏面一―三
 一―五行目。右端部分。

宇野拓二―六は縦一六・三cm、横一三・七cm。表面五―一―五行目、裏
 面五―一―五行目。出土地不明とされる現物資料が関西大学に所蔵されて
 いる（網千一九七六）。前者と接合する。

宇野拓二―一〇は縦一四・二cm、横一一・五cm。表面一〇―一―五行
 目、裏面一―五行目。左下角部分。これも現物資料は関西大学に所蔵さ

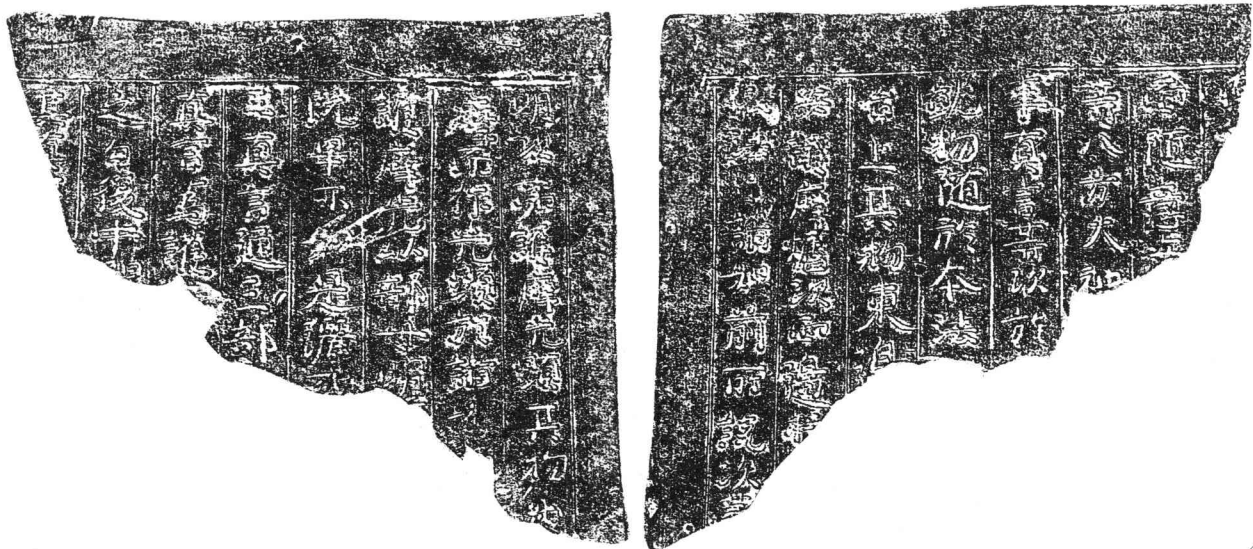
れている（網千一九七八）。

表面六行六、七字目「若具」の間に「為」を余分に記しているが、改
 行するのでずれは起きない。八行目「惹塞」は「若蜜」と、「睇」は
 「睇」と誤写。一四行目「畔」は脱字。「縛合^二」は「合^二縛」と逆転し
 て書いている。裏面二行九字目「底」の後に「花或用白芥子首末」と続
 く部分が欠落して空白になっている。前記二九枚目に続き誤写が目立
 つ。二九枚目の直後に当たり、蘇悉地経下卷三〇枚目に復原できる。

⑤蘇悉地経卷下 三一枚目

宇野拓一―五

1 蓮華印右辺置半拏羅縛思寧部母印次於
 2 南面置拔折羅印右辺置忙奔計部母印次
 3 於曼荼羅門外如前所說置能摧諸難軍荼
 4 利印依前供養復於北面置六臂印馬頭印多
 5 羅印戰捺羅印及於当部所有眷属次第
 6 安置其形皆白復於東面置如来鏤底印帝
 7 殊羅施印無能勝明王印無能勝妃印復於
 8 南面於当部内所有眷属次第安之然於西
 9 面隨意安置三部諸印次於外院置俱尾羅
 10 等八方大神於其空處任置三部内成弁諸
 11 事真言(主)等次於中台置所持部主印所成
 12 就物隨於本法所說置於其中安其部主中
 13 台上其物東辺置真言本所持印其物西辺
 14 安護摩炬次於西辺持誦人坐各各以本真言
 15 依法召請如前所說次第供養畢以三部母



(50)

- 1 明次第護摩光顯其物然後以本真言護
- 2 摩而作光顯於諸光顯法中護摩為最凡初
- 3 護摩先以部母明持誦香水灑淨其物護摩
- 4 既畢亦如是灑或用忙莽計心明或用四字明
- 5 王真言通三部護摩而作光顯隨其所用
- 6 真言為護摩者初且誦其真言次誦求請
- 7 之句復中間誦其真言復誦求請之句後亦誦
- 8 其真言還安求請句如是真言之中三處上中
- 9 下分安置求請之句最後安其虎訕泮吒莎去
- 10 訶去字所謂闇縛二合羅闇縛引二合羅也合放
- 11 悉地成姿去駄也合備去馳威備去跋耶合威羅
- 12 備去跋跢合去二南諸威帝闇也潤帝闇也合潤澤
- 13 拔駄也合增忙尾覽摩莫延阿去尾除入羅乞
- 14 沙持護散作備輕甜合瑞俱上嚕最訕泮吒莎去
- 15 訶去

縦一四・一cm、横一五・九cm。表面八〜一五行目、裏面一〜八行目。
左上角部分。

個人所蔵品（——線部）に同一個体で別個所を記した破片があり、接合する。それによって上端は全て復原できる。

表面三行二字目の「漫」は「曼」と記されている。一一行四字目の「主」は欠落して、一六字書写になっている。裏面一四行一字目の下は「護持」のところが「持」になり、また、「散備」の間に余分に「作」が記されている。表面四、一四、裏面四、七、八行目は八字、表面五、裏面一、五、六行目は一六字書写。裏面一五行目に改行があるので、一字分のずれが一行分のずれに拡大する。当瓦経も引続き誤写や規格の乱れが目につく。前記三〇枚目の次に当たり、蘇悉地経下卷三一枚目に復

原でさる。

⑤ 蘇悉地経卷下 三二枚目

宇野拓二一九

- 1 以如是等求請之句光顯其物前後中間種
- 2 種重說亦無所妨護摩畢已次應持誦白羯
- 3 羅尾羅花散其物上而作光顯或持誦赤羯
- 4 羅尾羅花或用白芥子或用蘇摩那花而作
- 5 光顯先用塗香塗手以按其物次以諸花持
- 6 誦而散白芥子次燒香薰之次後持誦香水
- 7 而灑應知如是次第初中後夜三時以本藏
- 8 主真言持誦香水真言而灑次誦本持真言
- 9 而灑畢已如前護摩念誦乃至日出具此法
- 10 者速得成就如是光顯諸物及光已身決定
- 11 速得成就於物其物縱少亦獲大驗具此法
- 12 者其物增多及得清淨是故應作光顯之法
- 13 此名一切成就秘密之法於諸節日應作如
- 14 是光顯之法余日隨時而作光顯念誦遍數
- 15 滿已欲作成就法時先應初夜具作光顯之



⑤1

裏面奥書

縦一〇・〇cm、横六・六cm。表面六行八行目、裏面は奥書。奥書は「雲□木田方安同／□入道田入道□／長久□」と記されている。結縁者の名前と考えられる。

前記三一枚目の次に相当し、蘇悉地経下卷三二枚目に復原できる。

⑤2 梵字と連記

宇野拓二一三四

縦五・二cm、横三・七cm。拓本は表面だけ。

小町塚瓦経には、表面に梵字とを連記し、裏面は罽線のもの（網千一九八八）、罽線もないもの（難波田一九八一a）「難波田一九八〇」がこれまでに報告されている。この破片もそのひとつと考えられる。



⑤2

④ 小町塚・菩提山瓦経の内訳

歴博所蔵の小町塚瓦経資料は以上である。管見の及ぶ限りの小町塚・

菩提山瓦経を集成し（巻末表2参照）、経巻ごとに検討を加える。

●法華経

一卷

五枚分確認できる。六、一二、一八枚目は几帳面な文字だが、八、一〇枚目は乱雑な文字で書いている。一二枚目までは小町塚規格に忠実に記されており、一七枚目裏面で書き終わるはずであるが、最終枚は表面に経文、裏面に梵字交じりの奥書が記されており、片面分ずれている。一二、一七枚目に片面瓦経があると考えられる。全部で一八枚からなる。

二巻

五枚分確認できる。二、七、一〇枚目はやや乱れた文字、一七、一八枚目は小さめの文字で一字一字丁寧に記している。巻の半ばで書き手が変わったとも考えられる。いずれも小町塚規格に則っており、全部で二〇枚からなる。

三巻

九枚分確認できる。一五枚目が二点確認できるので、二セット存在したことが判る。一五枚目の字野拓一―一二をa、伊勢市立郷土資料館所蔵品をbとすると、一五枚目aだけが一行分後ろにずれて書かれている。筆跡は、一、八、一五枚目aはやや大きめの乱雑な文字で、「无」を使用。二、三、七、一五b、一七、一九枚目は小さめの文字で一字一字丁寧に書き、「無」を使う。一セットは一九枚からなる。一九枚目裏面は野線しか確認できない。

四巻

七枚分確認できる。いずれも小町塚規格に忠実に記されている。一、三、六、八、一〇、一七枚目は太く奔放な印象の文字で、「无」を使用。一四枚目は小さめの丁寧な文字で、「無」を使用している。全部で

一七枚からなる。一七枚目裏面は宝篋印陀羅尼経六枚目裏面が記されている。⁽⁸⁾

五巻

八枚分確認できる。三枚目裏面が一六行書写と考えられ、以降一行分ずつ後ろにずれる。一六枚目に同一個所の重複があり、二セット存在したことが判る。筆跡の区別は難しいが、一、二、三、七、一二、一六枚目a（中山欽文氏所蔵）は「世」を使用し、丁付は表面欄外右に記す。これに対して一六b（浦口町連合会、射和文庫所蔵）、一七枚目は「世」を使い、一例だけではあるが丁付は裏面欄外左中程に記す。前者は先に述べた通り三枚目裏面以降一行分後ろにずれ込むが、後者は小町塚規格に忠実に記されている。一セットの枚数は一八枚である。

六巻

八枚分確認できる。三枚目表面に、一行飛ばしたことに気が付いたためか、一〇―一行目の野線を消してそこに三行分の経文を記している。そのためこれ以降一行分後ろへずれが生じる。しかし、そのずれを受け継いでいるものと、冒頭から小町塚規格で正しく書写されているものとがある。五、九、一〇、一八枚目は後者で、やや小さめの文字で達筆に書かれ、「無」を使用する。三枚目のずれを受け継ぐのが七、一、一五枚目で、大きめの文字で奔放に記され、「无」を使用する。同一個所の重複はないが、六巻も二セット存在したと考えるのが妥当であろう。一セットは一八枚からなる。一八枚目は表面途中から奥書が記されている。

七巻

一〇枚分確認できる。八枚目までは小町塚規格に則って記されているが、九―一〇枚目の間で一行一六字書写などがあったと考えられ、一枚目冒頭では三字分前にずれている。また表面から裏面へ移る際一行欠落して、一二枚目は二通りのずれを受け継いでいる。裏面七行目から

「妙音菩薩品第二十四」が始まるため三字分のずれはここで解消されるが、九行目が一六字書写で、また一字分前にずれが生じる。ところで、裏面一五行目と二三枚目表面一行目が重複するが、一字分前へのずれは継続している。すなわち、一二枚目は一行分後ろへと一字分前への二通りのずれを残して終わっているが、一三枚目は一字分前への一通りのずれだけもっていることになる。⁽⁹⁾一三枚目裏面七行目では一字分のずれも解消されており、一一―一四枚目はうまくつながっている。一六枚目表面は一行分後ろへずれており、一五枚目か一六枚目表面でずれが生じている。筆跡は一二枚目だけやや趣が違いますが、ほかは小さめで縦長の文字で書かれている。また、四、七、一一、一二、一六枚目は「世」、一三、一四枚目は「世」を一一、一三、一四、一六枚目は「無」、四、一二枚目は「無」「无」の両方を使用している。丁付は八枚目は表面欄外右、一一、一三、一四枚目は裏面欄外右、一二枚目は表面欄外左に記されている。全部で一六枚からなる。

八巻

四枚分確認できる。いずれも小町塚規格に忠実に記されている。一一枚目に同一個所の重複がある。東博所蔵の一一枚目aは小さめの文字で丁寧に記されており、三、五枚目と共通する。これに対し京博所蔵の一一枚目bは大ぶりでやや乱雑な文字で書かれており、二セット存在したと判断できる。一セットは一四枚からなる。

重複箇所から二セットの存在が確認できるのは三、五、八巻だけであるが、ずれを手がかりに、筆跡、文字遣いを加味すると、六巻も二セット存在した可能性を指摘できる。特定の巻だけを二部書写することは考えられないので、法華経は二部作られたと判断できる。多少の誤写、規格の乱れはあるが、全体的には小町塚規格に忠実に記されている。丁付は「六巻十八」のように巻数と枚数を簡単に記すものがほとんどで、ほかには「四巻一〇枚」というのが一点あるのみである。丁付の位置は裏

面欄外左が五点、裏面欄外右が三点、表面欄外左が二点、表面欄外右が六点とばらばらである。五巻は表面欄外右のグループと裏面欄外左のグループで二セットに分けられるが、一セットと考えられる七巻は四通り全て見られる。法華経一部八巻は一四〇枚で構成される。

●無量義経

四枚分確認できる。五、七枚目は小町塚規格に忠実に記されているが、一一枚目は二行分、一三枚目は一行分前にずれている。いずれも大きめのやや乱雑な文字で書かれている。丁付は見られない。一六枚からなると考えられる。

法華経が二部作られたことから、開経である無量義経も二部作られた可能性が考えられるが、資料が存在しないため今のところ一部としておく。

●観普賢経

八枚分確認できる。三枚目冒頭で二字分前にずれているが、三行目に改行があり解消される。ほかは小町塚規格に則って記されている。いずれも大きめの文字で乱雑に書かれている。丁付は七巻にのみ見られ、裏面欄外右に「普賢七」と記されている。全部で一四枚からなる。

無量義経同様、法華経の結経である観普賢経も二部作られたことが予想されるが、一セット分しか資料が存在せず、開経も一部と考えたので、今のところは一部のみと考えておく。⁽¹⁰⁾

●大日経

一卷

七枚分確認できる。一枚目が三一行書写か一行後ろへずれて終わっている。四枚目は同一個所が重複しており二セットあったことは確実である

が、いずれもずれを受け継いでいる。一〇―一四枚目の間に真言が入り割付が不確定になるが、一四枚目から小町塚規格で割付けると一七枚目は正しく当てはまる。しかし一八枚目は三分前につれて始まっている。筆跡はいずれも小さめの文字で一字一字丁寧に書かれているが、一、四b（神戸市立博物館所蔵、かわら美術館所蔵）、一〇、一四、一七枚目はやや硬い感じがするのに対し、四a（京都大学所蔵）、五、一八枚目はやや速度のある達筆な印象を受ける。一枚目に「無」、四枚目bに「无」が見られるので文字の選択と筆跡の結果は異なるが、いずれも決定的な判断材料にならないのは今まで見てきた通りである。一セットは一八枚からなり、一八枚目は裏面に奥書が記されている。

二巻

一六枚分確認できる。一枚目表面最後が一七行目に当たり、更にもう一行分の空欄が設けられている。裏面は何行書かれているか判らない。三枚目は小町塚規格から三分後ろにつれて始まり、四枚目にうまくつながる。五枚目は小町塚規格から一行分後ろにつれているa（かわら美術館所蔵）と、四枚目にうまくつながるb（東博所蔵拓本）とがある。aにつながる六枚目の表面一、二行目はbの裏面一四、一五行目と重複しており、二セット存在したことが判る。以後、真言が多く割付が定かでないが、九↓一〇a↓一一枚目、一八↓一九↓二〇↓二一枚目の接統はうまくいっている。特に一九枚目一二、一三行目には本来ない経文が記されており二分後ろにつれるが、以降もそれを受け継いでいる。一〇枚目も同一個所が重複して記されている。京博所蔵のaは九、一一枚目とうまくつながるが、射和文庫所蔵のbは八行分後ろにつれている。筆跡はいずれも小さめの文字で書かれており区別が困難であるが、一、四、五b、一〇b、一五枚目はやや硬い感じがするのに対し、それ以外は伸び伸びとした文字で達筆に書かれている。一セットは二一枚からなり、二一枚目は表面途中から奥書が記されている。

三巻

一一枚分確認できる。一枚目に同一個所の重複が見られ、二セット存在したことが判る。六枚目までは小町塚規格に則って記されているが、八枚目表面が一行分前へずれて終っている。以降、一二―一四枚目はそのずれを継承している。筆跡の区別は困難であるが、流れるような文字の四―六枚目、硬い感じの八、一二、一三枚目はそれぞれ同一人の手によると判断できる。五、一三枚目では「无」、六、八枚目では「無」、四枚目では「無」「无」の両方を使用しており、筆跡とは合致しない。一セットは一四枚からなる。

四巻

一一枚分確認できる。一、二枚目に同一個所の重複が見られ、二セット存在したことが判る。東博所蔵の二枚目aは偈部分を見られ、一行分後ろへずれる。ただし、五枚目までの間は真言が多く割付が定かでないで、ずれが継続するかどうかは判らない。四巻はほとんどが真言なので割付が困難であるが、一枚目と二枚目の間で四行分前へずれておりうまくつながらない。京都大学所蔵の一枚目bが縦長の文字で丁寧に記されている以外は、いずれもやや乱雑な感じで区別し難い。ところで、二枚目に相当する瓦経は三点あり、完形の東博所蔵品と破片の個人所蔵品が同一個所を記しており別個体である。もう一点は小町塚瓦経を焼成したことが明らかな渥美半島伊良湖瓦窯出土品である。瓦窯出土品である以上これは失敗作であり、埋納地出土の個人所蔵品とは別個体となる。瓦経を焼成しそこなった場合、もう一度作り直して全てそろえるようにするのか、その瓦経は欠番のまま埋納するのかは、経塚造営の態度のあり方を反映しており大きな問題である。当初から三セット作ったのか、二セット作って失敗分を補充したのか判らないが、今のところいずれの経巻も三セット分は見つかっていないので、後者と考える間違いなからう。一セットは一六枚からなる。

五卷

七枚分確認できる。真言が少し入るが、八枚目までは小町塚規格に忠実に記されている。九枚目裏面は野線が記されているだけで、経文は片面のみである。一四枚目は片面分前にずれていることから、九枚目の片面瓦経からうまくつながることが判る。二、四枚目は「無」を、三、五枚目は「无」を使用している。全部で一六枚からなる。

六卷

一〇枚分確認できる。一、三枚目はほぼ小町塚規格に則って書写されているが、六枚目は七分分も前にずれている。一、一三枚目は小町塚規格から六行分前にずれており、六枚目とのつながりを想定できる。一四枚目に相当する瓦経片が京都大学に二点、奈良博、個人、東博にそれぞれ一点所蔵されている。これらは異なる割付で同一箇所を書写しており、筆跡も異なるものが含まれ、二枚の瓦経に復原できる。すなわち京都大学の一点と奈良博所蔵品によるa、個人、東博、京都大学所蔵のもの一点によるbである。それぞれ小町塚規格で冒頭より割付けると、aは六行分前に、bは一行分前にずれている。ところで、bの個人、東博所蔵品は接合し右上角を含む一、一〇行目が判り、裏面は梵字を含む奥書で埋められている。一方、京都大学所蔵品は左端の部分で、表面は後ろの二行、裏面は始めの三行が判る。表面後ろから二行目は左側野線が見えず二行分の文字が記されている。この辺りで野線を消して本来の行数以上書き記している可能性がある。というのも、真言が含まれるが、少なくともこの一四枚目bの表面には一七行分の経文が記されていたことになるからである。最終面である裏面も最後の行まで一杯に書かれていることから、経文を詰め込んで書写したものと考えられる。筆跡は判断のつきかねるものもあるが、二、三、六、一二、一三、一四枚目aは乱雑、一四枚目bは比較的丁寧に書かれている。六、一三枚目は「无」、三枚目は「無」「无」の両方を用いている。割付から、六、一

一三、一四枚目aによる一セット、一四枚目bによる一セットを想定できよう。一セットは全部で一八枚からなる。

七卷

六枚分確認できる。四枚目は三分分後ろにずれて始まり、五枚目にも受け継がれる。真言が度々見られるため割付は不確かだが、一、一二枚目はうまくつながっている。いずれも乱雑な文字で書かれており、区別はつかない。全部で二四枚からなる。

大日経は一、二、三、四、六の各巻で重複箇所などから二セット分確認でき、二部存在したことは明らかである。一面に書かれる行数が小町塚規格の一五行から逸脱しているものが多く、片面瓦経も一点存在する。そのためずれが生じ、セットによって割付が大きく異なっている。丁付は「大日経七巻九」「大日一卷十四」「大日経六十三」「大日二と廿一」のように「経」「巻」を入れるものとそうでないものがある。二、三巻は「経」を入れず、六巻は「経」を入れるなど少しは規則性も捉えられるが、例えば同じセットと考えた六巻三枚目と一三枚目には、それぞれ「日経六巻三」「大日経六十三」のように「巻」のあるものとなないものが存在し、必ずしも規則性を見つけることはできない。丁付の位置は二巻二枚目を除き、全て裏面欄外左である。二巻二枚目は表面欄外左に記されているが、これは表面で二巻が終了しているためと思われる、原則として大日経の丁付は裏面欄外左に記す。ところで、一卷一枚目、三巻一枚目bの丁付は「大日経後一卷一」「大日後三巻一」と「後」の文字が入っている。これまで見てきた通り大日経は二部作られたため、それぞれのセットを区別するのに一方に「後」を付けたものと思われる。大日経一部七巻は一二七枚からなる。

●金剛頂経

上巻

六枚分確認できる。一枚目冒頭は経巻名を入れるため、二行目から書き出すのがこれまで見てきた通例であるが、金剛頂経では訳者も入れるのか、三行分取られていると思われる。それを前提に小町塚規格で割付けると、二、六、七枚目は忠実に記されているが、九枚目は二行分前に一二、一三枚目は一行分前にずれている。いずれも小さな文字で一字一字丁寧に書いており、区別は困難である。六枚目は「世」「世」両方を、九枚目は「世」、一二枚目は「世」を使っている。全部で一五枚からなる。

中巻

八枚分確認できる。一枚目は上巻同様三行目から経文が始まると考えられる。小町塚規格で割付けると一、二枚目は正しく書写されているが、六枚目は三行分後ろにずれている。七枚目は同一個所を記した破片があり二セット存在することが判る。すなわち個人、豊橋市立美術館所蔵品からなるaと、宇野コレクション瓦経と宇野拓二点からなるbである。前者は三行分後ろにずれて始まり、三一行分記されて、都合二行分後ろにずれて終わっている。後者は五行分後ろにずれて始まっている。

九、一〇、一二枚目も二行分後ろにずれており、六↓七a↓九↓一〇↓一二枚目はうまくつながる。筆跡は一二枚目表面のみ達筆で雰囲気が違うが、ほかはいずれもやや乱雑な文字で区別はつかない。一、二、七枚目a、bはいずれも「世」を用いている。一セットは一三枚からなる。

下巻

一〇枚分確認できる。一枚目はやはり三行目から経文を書き始めていると考えられる。真言が多いため割付が不確かであるが、連続して残っている四↓(六a)↓九枚目の六枚分はうまくつながっている。六枚目は同一個所の重複があり、割付も異なり、bは六行分くらい後ろにずれている。一三枚目も異なった割付で同一個所の重複が見られ、東博所蔵の二点からなるaと、個人所蔵のbに分かれる。後者は前者より八行分

も後ろにずれている。前者の方が九枚目からの割付に合致しやすい。いずれも小さな文字で書かれており、区別は困難であるが、二セット存在することは確かである。一セットは一三枚からなる。

中、下巻で二セット分確認されており、二部作られたことが判る。大日経同様一面の行数が小町塚規格に従っていないものが多く、ずれが頻繁に生じている。そのためセットが異なると割付が変わってきている。丁付が見られるものは少ないが、「金頂経」「金剛頂後中巻七」「金剛頂経下六」「金剛頂経下巻十三」などと様々である。全て裏面欄外左に記されている。また、大日経同様「金剛頂後中巻七」「後」(下巻一三枚目)と「後」を記すものが二点ある。別のセットに「金剛頂経中七」「金剛頂経下巻十三」というものが見られ、やはり二部のセットを区別するために付されたと考えられる。金剛頂経一部三巻は四一枚からなる。

●蘇悉地経

上巻

一三枚分確認できる。一枚目は三一行分記され一行分後ろにずれ、二、三枚目はそれを引き継いでいる。五、七、九枚目もそれにつながると思われるが、九から一〇枚目にかけてもう一行分後ろにずれている。一〇から一一枚目にかかる時一行分前にずれている。ところで、一枚目の残っている個所は一行一五字または一六字書写がほとんどで、小町塚規格が無視されている。一一から一四枚目の間は真言が多いので不確かだが、一枚と片面分の経文が間に入ると思われる。以降一八、一九枚目はほぼ問題なく続くが、一九枚目もほとんどが一行一七字書写を無視している。文字はいずれもやや小さめで乱雑に書かれており、区別は困難である。五枚目に「无」、一九枚目に「無」が使われている。基本的には小町塚規格に則っているものの、一行の字数など乱れが目につく巻

である。全部で二九枚からなる。

中巻

一二枚分確認できる。二枚目は小町塚規格に則っている。四枚目は一行分後ろにずれて始まり、三一行書写で更に一行分後ろにずれる。暫く資料がないが、一二枚目はもう一行分ずれており、一五枚目冒頭は更に一行、合計四行分後ろにずれて始まっている。ところで、かわら美術館所蔵の一五枚目と思われる瓦経は右上角が残っており、両面の行数が判る資料であるが、合計四二行分にわたっている。実際に一二行も多く書かれているとは考えられず、何らかの原因で、途中の経文が脱落していると思われる。宇野拓二点と東博所蔵品からなる一枚に、この一五枚目の途中の経文が記されており、裏面は野線と若干の梵字のみという片面瓦経が存在する。一〇行分しか判らず、両端も残っていないので割付も不明である。この瓦経がかわら美術館所蔵品の脱落個所を補っているのではなからうか。異例のケースであるが、一五枚目はこの二枚の瓦経からなっていると考えることにする。小町塚規格から一六行も後ろにずれてしまっていることになる。一六枚目は異なった割付で同一個所の重複が見られる。前述の一五枚目につながる宇野拓のaと、小町塚規格から五行分後ろにずれている檀考研、個人所蔵品二点からなるbである。両者の間には一一行分のずれがあり、セットを考えるには都合がいい。一八枚目も同一個所の重複があり、割付は異なる。東博、個人所蔵品からなるaは一六枚目aから二枚後、かわら美術館所蔵のbは一六枚目bから二枚後につながる。aには「蕪悉中十八」の丁付があり、一六行もずれているながらも一八枚目であることが確認できる。一九枚目は小町塚規格から九行分後ろにずれている。真言が入るが、二一枚目は一八枚目aの割付の方が合致しやすい。丁付には「蕪悉中廿一」と書かれている。二二枚目はこれとは明らかに異なる割付で、一八枚目bの流れに乗っている。二三枚目は二一枚目の二枚後に位置付けられる。二、四、一二、

一五a、一六、一八a、二一枚目が太く大振りの文字で、一六b、一八b、二二枚目が細く縦長の小さめの文字で書かれている。四枚目は「无」、二一枚目は「無」が使われており、筆跡とは合わない。丁付は一八a、二一、二三に見られるが、いずれも蘇悉地経の「蘇」が「蕪」になっている。一五↓一六a↓一八a↓二一↓二三枚目が一セット、一六b↓一八b↓二二枚目が一セットである。一セットは前者は二三枚、後者は二四枚からなるが、前者は一五枚目を二枚で構成しているため、いずれも二四枚からなると言える。

下巻

二〇枚分確認できる。二枚目は一行分、四枚目は更に二行分後ろにずれている。七枚目と九枚目の間は片面分、九枚目と一一枚目の間は片面と二行分の経文しかない。一三枚目は三一行分記されているが、一四枚目はそのずれを引き継いでうまくつながっている。一四枚目には「蘇三卷十四」の丁付が記されており、片面瓦経がそれぞれ一枚分としてカウントされていることが判る。一八枚目から二三枚目の間には真言がないので割付けてみると、二行分後ろにずれている。二三枚目に相当する個所は、奈良博所蔵品と國學院大学所蔵品で重複が見られる。それ以前にずれが度々あるにも関わらず割付は同じである。二四枚目はうまくつながる。二五枚目に相当する個所も重複が見られる。常楽寺美術館所蔵品は二四枚目にうまくつながるが、個人、京博所蔵品からなる一枚は一行分前にずれている。ところで、後者のセットには「蕪後下之」「廿四」と丁付が記されている。八枚目、一〇枚目に片面瓦経を想定したが、通常通り両面に書写されていれば一枚分少なくてすんでいるわけである。この丁付は正にそれを示すもので、個人、京博所蔵品からなる瓦経は二四枚目であることが判る。大阪市立博物館所蔵の二四枚目をa、個人、京博所蔵品をbとする。更に二枚分さかのぼって、二三枚目とした奈良博所蔵品あるいは國學院大学所蔵品のいずれかも二二枚目になる。二

六、二七枚目は常楽寺美術館所蔵の二五枚目にうまくつながるが、二七枚目は三一行分記されており、一行分後ろにずれる。二九～三一枚目はこのずれを受け継いでいる。また二六、二九、三一枚目にはそれぞれ「蘇三卷廿六」、「蘇三卷廿九」、「蘇三卷卅一」の丁付があり、片面瓦経二枚分が数えられている。二、七、九、一一、一二、一四、一八、二三、二四a、二六、二七、二九、三〇、三一枚目は一字一字丁寧に書いているのに対し、二二、二四枚目は速度のある筆使いでやや乱雑に書かれており、明らかに筆跡が異なる。また、丁付に記される蘇悉地経の「蘇」は一四、二六、二九、三一枚目では「蘇」と書かれるが、二三、二四枚目には「蘇」が用いられている。また前者の丁付は「蘇三卷十四」⁽¹⁾「蘇三卷廿六」⁽²⁾「蘇三卷廿九」⁽³⁾「蘇三卷卅一」と、いずれも同じパターンで裏面欄外左上に記されている。七↓九↓一一↓一二↓一三↓一四↓一八↓二三↓二四a↓二五↓二六↓二七↓二九↓三〇↓三一枚目が一セット、二二↓二四枚目bが一セットである。一セットは前者は三二枚、後者は三一枚からなり、最終枚裏面は奥書である。

中、下巻で二セット分確認でき、二部書写されたことが明らかである。全体に誤写が多く、一行の字数も原則の一七字に従っていないものが多い。行数のずれは更に顕著で、片面瓦経も四枚あり、下巻一〇枚目以降のようにセットが異なると枚数番号まで違ってくるものも見られる。丁付は「蘇悉地経上十九」「蘇悉地中十八」「蘇三卷十四」「蘇後下之廿四」と四通りのタイプがあるが、下巻の一セットのように全て同じパターンで通しているものもある。「蘇」「蘇」の異体字が同じセットの中で両方見られることもない。丁付はいずれも裏面欄外左に書かれている。また、先の二經典同様、「蘇後下之廿四」と「後」を記すものがあり、二部の丁付を書き分けているものがあることが判る。蘇悉地経一部三卷は八五枚、或いは八四枚である。

以上のように、大日経、金剛頂経、蘇悉地経の秘密三経は二部ずつ作

られ、丁付に「後」が見られること、原則として裏面欄外左に丁付が記されることなどが共通している。

●理趣経（大衆金剛不空真実三摩耶経般若波羅蜜多理趣品）

六枚分確認できる。三枚目表面が一行分前にずれているが、以降はそのずれを継承している。全て小さな文字で一字ずつ丁寧に記されており、同じ筆跡と考えられる。二、四枚目は「无」、六枚目は「無」を用いている。丁付が記されるのは「理趣一」「理五」の二点で、いずれも裏面欄外左である。全部で七枚からなる。

●金剛界礼懺文

三枚分確認できる。『大正新修大藏经』（以下大正藏）八七八「金剛頂経金剛界大持明会毘盧遮那如来自受用身内証智眷属法身真名仏最上乘秘密三摩地礼讚文」に類似するが合わないところがある。⁽¹⁾そこで、金剛界礼懺文が全て明らかになっている極楽寺瓦経をテキストに復原すると見事に合致する。両者は同じテキストから写していることが判り、当時流布していた經典の一端が知られる。一枚目表面は正しく記されているが、裏面は一行一七字以上もしくは一面一六行書写により、一行分後ろにずれて終っている。三、四枚目はそのずれを引き継いでいる。筆跡は全て同じである。丁付は「金剛礼讚一」の一点のみで、裏面欄外左に記されている。全部で四枚からなり、四枚目裏面には奥書が記されている。

●般若心経

三枚分確認できる。東博、個人、京博所蔵のaは小町塚規格に則っており、裏面途中から奥書が記される。射和文庫所蔵のbは規格に反して片面に経文を全て書ききっており、裏面は奥書が記されている。『伊勢参宮名所図絵』所載の図は片面のみで裏面は判らない。いずれにせよ一

セット一枚である。

●宝篋印陀羅尼経

宝篋印陀羅尼経は大正蔵一〇二二B「一切如来心秘密全身舍利宝篋印陀羅尼経」をテキストに復原できる。奈良国立文化財研究所蔵拓本集『文所古瓦篋』に「勢州行基菩薩経文瓦」と注記されたものがある。この拓本は片面しか判らないが、小町塚規格で割付けると三枚目裏面に当たり、全部で八枚からなる。しかし前述の通り、法華経四卷一七枚目裏面に宝篋印陀羅尼経六枚目裏面に相当する個所が記されており、通例の瓦経のように表裏に経文を書き継いだものは確認できていない。資料の増加を待つて考えることにする。

經典の記された瓦経で現在確認されているのは以上である。宝篋印陀羅尼経を除くと、法華経二部、無量義経一部、観普賢経一部、大日経二部、金剛頂経二部、蘇悉地経二部、理趣経一部、金剛界礼懺文一部、般若心経三部で、合計八二九枚になる。

ほかに、梵字を連記した破片、種子曼荼羅（胎藏界・金剛界・法華）、願文のみの瓦経などが数点確認でき、宝篋印陀羅尼経も含め、あと十数枚は増えると思われる。

⑤作善業としての瓦経

歴博所蔵『伊勢山田小町塚瓦経集』などから新資料を加え、管見の及ぶ小町塚・菩提山瓦経を整理した結果、ほとんどの經典が二部ずつ書かれていることが判った。瓦経製作は紙本経の写経に比べ、格段の労力を要する。そのため般若心経や阿弥陀経のような短い經典を除き同じ經典を数部作る例は少なく、大日寺瓦経に法華経が二部見られるくらいであ

る。ところが、小町塚・菩提山瓦経では、法華経のほか秘密三経も全て二部作られている（表1¹³）。これは明らかに二箇所に埋納することを想定して作られており、小町塚と菩提山にそれぞれ一部ずつ納められたと考えられる。その為、秘密三経の丁付に「後」と記し、焼成後、二部の經典を区別できるように配慮していたことも窺える。

はじめに記した通り、『伊勢山田小町塚瓦経集』に掲載されている資料（宇野拓）は、いずれも小町塚出土品とみなせる。そこから、二部存在する瓦経を二セットに分け、宇野拓が含まれているセットを小町塚瓦経、そうでない方を菩提山瓦経と分類できると考えた。その結果は次の通りである（太字は宇野拓）。

表1 各地の瓦経塚

瓦 経 塚	旧国	紀年	法	義	観	大	頂	蘇	理	心	阿	他
小町塚・菩提山	伊勢	1174	②	○	○	②	②	②	○	③		○
亀塚	山城		○								○	
盆山	山城		○	○	○					○	○	
最福寺	山城	1127	○									○
男山	山城		○				○					
極楽寺	播磨	1144	○						○	○	○	○
大日寺	伯耆	1071	②	○	○	○	○	○	○	○	②	○
間山	美作		○	○								○
安養寺第1	備中		○							○		
安養寺第3	備中	1086	○							⑥	○	○
犬伏	阿波	1109	○	○	○							
苅崎	筑前									○		○
愛宕山	筑前		○	○	○							
飯盛山	筑前	1114	○	○	○					○	○	○
築山	肥前	1144	○	○	○					○	○	○

- 法華經三 A 一、八、一五 a
B 二、三、七、一五 b、一七、一九
- 法華經五 A 一、二、三、七、一二、一六 a
B 二六 b、一七
- 法華經六 A 五、九、一〇、一八
B 七、一一、一五
- 法華經七 A 一一、一二、一三、一四
A 三、五、一一 a
B 一一 b
- 無量義經 A 五、七、一一
觀普賢經 A 一、三、四、六、七、八、九、一三
大日經一 ・ 四 a、五、一八
・ 一、四 b、一〇、一四、一七
- 大日經二 A 五 a、六、九、一〇 a、一一、一三、一八、一九、
二〇、二一
B 一、三、四、五 b、一〇 b、一五
- 大日經三 A 八、一二、一三、一四
大日經六 A 二、三、六、一一、一二、一三、一四 a
B 一四 b
- 金剛頂經中・六、七 a、九、一〇、一二
・ 七 b
- 金剛頂經下 A 四、五、六 a、七、八、九、一三 a
B 六 b、一三 b
- 蘇悉地經中 A 一五、一六 a、一八 a、二二、二三
B 一六 b、一八 b、二二
- 蘇悉地經下 A 七、九、一一、一二、一三、一四、一八、二三、
二四 a、二五、二六、二七、二九、三〇、三一

B 二二、二四 b

理趣經 ・ 一、二、三、四、五、六

金剛界礼懺・一、三、四、五

A が小町塚瓦経セット、B が菩提山瓦経セットである。⁽¹⁾法華經六卷、金剛頂經中巻には二セットにまたがって宇野拓が見られる。このことから、同時焼成された二セット分の瓦経は、埋納の際、若干の混乱が生じ、菩提山に埋納されるべき瓦経が小町塚に紛れ込んでしまったと考えられる。裏を返せば、小町塚瓦経セットと菩提山瓦経セットが同時に作られていたことの証しでもある。法華經六巻は宇野拓が二点あるセットをAとした。無量義経は観普賢経と共に法華経の開結経をなす。出土地の手がかりはないが、観普賢経に宇野拓が含まれるため、無量義経も小町塚瓦経セットと判断できる。金剛頂經下巻六枚目bは菩提山から出土したことが判る貴重な資料であり〔津田一九七六〕、それを含むセットをBとした。金剛頂經中巻はどちらのセットにも一点ずつ宇野拓が入っているため、どちらが小町塚瓦経セットかは判断できない。大日經一卷、理趣経、金剛界礼懺文もいずれとも決定付ける資料はない。今後確実に小町塚出土、或いは菩提山出土と判る資料が増えるのを待って判断したい。また、丁付に「後」の記されている、金剛頂經中巻七枚目b、下巻一三枚目b、蘇悉地經下巻二四枚目bはいずれも菩提山瓦経セットに含まれる。大日經一卷一枚目、三巻一枚目bは小町塚か菩提山か不明のものだが、「後」が菩提山埋納のための印であったとすれば、両者も菩提山瓦経と判断できよう。ただ、単にセットを識別するただけに付されたかも知れず、今回は可能性を指摘するに止める。

以上、小町塚・菩提山瓦経の復原結果から、同一の製作組織（勸進集団）が二箇所に埋納する瓦経約八五〇枚を作成、一度に焼成し、埋納する際多少入り混じってしまった過程を捉えることができた。これだけ膨

大な瓦経を作るからには、杉山氏の言うように勧進集団が窯業生産地と密接な関係を保っていなければならない。小町塚・菩提山瓦経は焼き損じた瓦経を作り直すなど、一枚も欠けることなく作り上げることに注意が払われている。しかし、誤字脱字が多く、一面に記す文字数も乱れがちである。また、埋納に際して両者の瓦経が混ざっており、杜撰な一端が窺える。瓦経塚造営という非常な労力を要する事業は、極楽往生のために功德を積むという作善業にはうってつけであったろう。しかしそれは、作り上げること自体に意義があつた。経巻の不朽という瓦経ならではの保存目的は失われ、埋納の際には全巻そろっている必要すらなかったのである。

瓦経塚は経塚の中でも早い時期に見られ、紀年銘のあるものでは延久三年（一〇七一）の大日寺瓦経塚から承安四年（一一七四）の小町塚・菩提山瓦経塚までの約百年間に渡る。経塚は様々な信仰を背景に生み出されたものであるが、一般的に、初期のものには弥勒信仰の影響が比較的良好に見られ、それが次第に阿弥陀信仰に収斂していくと考えられる。五六億七千万年後の弥勒如来の下生まで経典を残そうという弥勒信仰が薄れ、極楽往生のための作善業としての意味が強調されるわけである。瓦経は紙本経とは違い「不朽」を意図して作られており、まさに弥勒信仰を象徴する経塚遺物であつた。しかし本稿で詳細に見てきたように、小町塚・菩提山瓦経は、経典の保存に対する意図が薄く、作ることに意義を見出している。すなわち作善業として作られているのである。

永久六年（一一一八）豊前べら山、ハリヤ等三ヶ所に埋経した良禪、保安元年（一一二〇）山城鞍馬寺、天治二年（一一二五）紀伊粉河寺に埋経した清原信俊、保延六年（一一四〇）豊前求菩提山上宮に五部埋経した隆鑒、康治元年（一一四二）肥前脊振山に一二部埋経した増忍らのように、複数の経塚を造るケースがある。これは功德を多く積むという量的作善業の表れである。杉山氏が指摘しているように、瓦経を作るに

は紙本経とは比較にならない労力を要し、量的作善業としての側面が窺える。しかもそれを二セツト作るとなると、その功德の大きさは計り知れないものがあつたであろう。

しかし本来瓦経塚は経典を実際に地下に保存するという点で、紙本経塚とは質的に異なる経塚であつた。ところがその意識が薄れ、紙本経塚と同じ目的で造営されるようになると、その存在意義は失われる。そのため、小町塚・菩提山瓦経塚を最後に紀年銘を有する瓦経塚は見られなくなるのであろう。

小町塚・菩提山瓦経については、奥書などから様々な背景が推定できるため、これまで多くの研究が行われてきた。その成果が華やかなためか、経文の同定作業から瓦経を復原していくという基礎研究からの声は小さい。しかし、今回新たな資料を加え、長年蓄積されてきた基礎研究の成果を整理してみると、銘文からだけでは判らない多くの結果が得られた。各地に散逸した瓦経の復原という基礎研究の重要性を再認識すると共に、これまで地道に復原作業を続けてこられた諸先生方に敬意を表したい。

本稿を草するに当たって、次の方々から御助言、御協力を頂いた。末筆ながら記して感謝の意を表したい。ありがとうございました。

天野卓哉 新居協子 大野真規 小野山節 加藤隆昭 阪口英毅 関隆 竹田憲治 時枝務 難波洋三 根鈴輝雄 古川毅 松田光 松本隆品 宮小路賀宏 宮川禎一 森下章司 山中一郎 山本哲也 山本博利

参考文献

- 網干善教 一九七六「関西大学考古学資料「瓦経」片の復原」『柴田実先生古希記念日本文化史論叢』
- 網干善教 一九七七「國學院大学蔵「瓦経」片の復原研究」『國學院雑誌』七八・九
- 網干善教 一九七八「関西大学考古学資料「瓦経」片の復原（その二）」『関西大学

史泉」五二

- 網干善教 一九七九 a 「瓦経」資料解説『檀原考古学研究所紀要 考古学論攷』三
網干善教 一九七九 b 「奈良国立博物館蔵を主とする瓦経の復原」『南都仏教』四二
網干善教 一九七九 c 「瓦経の復原とその考察」『鷹陵史学』六
網干善教 一九八〇 a 「瓦経片の復原試考」『関西大学 史泉』五四
網干善教 一九八〇 b 「宝海天神社蔵の瓦経復原考」『仏教の歴史と文化』
網干善教 一九八二 「東大寺伊良湖瓦窯跡出土の瓦経の復原」『南部仏教』四七
網干善教 一九八二 a 「瓦経片の復原研究」『肝陵 二十周年記念論集』
網干善教 一九八二 b 「伊勢小町塚出土の瓦経について」(一)『小野勝年博士頌寿記
念 東方学論集』
網干善教 一九八六 「大阪長尾コレクションの瓦経について」『関西大学 文学論
集』創立百周年記念号
網干善教 一九八八 「瓦経の復原的研究」『京藤忠先生頌寿記念 考古学叢考』
安藤孝一 一九九七 「播磨極楽寺瓦経塚の研究」『東京国立博物館紀要』三二
石田茂作 一九二七 「経塚」『考古学講座』二〇
石田茂作 一九五八 「瓦経の研究」『瀬戸内考古』二一 (『仏教考古学講座』三一
九七七に再録)
伊勢市立郷土資料館 一九九一 「伊勢の経塚」
大脇正一 一九二〇 「伊勢出土金剛頂経瓦経に就て」『考古学雑誌』一一一三
奥村秀雄 一九六五 「伊勢地方における埋経」『MUSEUM』一六七
奥村秀雄 一九六八 「伊勢小町塚出土の瓦経」『考古学雑誌』五三二
鎌木義昌編 一九六三 「安養寺瓦経の研究」
京都国立博物館 一九八一 「瓦経」
黒田慶一 一九九八 「第二章 名所旧跡と瓦類 第一節 出土地不明」『甲陽学院所蔵
旧「宇津保文庫」考古資料目録』瓦編
杉山洋 一九八五 「京都の瓦経」『仏教芸術』一六二
高野孤鹿 一九七四 「筑前愛宕山瓦経の研究」
田熊信之・天野茂編 一九九四 「宇野信四郎蒐集—古瓦集成」
千葉幸伸 一九七九 「四国の瓦経」『瀬戸内海歴史民俗資料館年報』四
津田守一 一九七六 「菩提山出土の瓦経について」『伊勢郷土史草』一一
豊橋市美術館 二〇〇〇 「東観音寺展」
中村善則 一九九八 「瓦経資料について」『神戸市立博物館研究紀要』一四
名古屋博物館 一九九二 「瓦礫舎」名古屋博物館調査研究報告J
難波田徹 一九七九 「瓦経片の復原的研究」『MUSEUM』三五二
難波田徹 一九八〇 「瓦経十七片について」『学叢』四

- 難波田徹 一九八一 a 「瓦経の規格性」『MUSEUM』三六六
難波田徹 一九八一 b 「瓦経片の復原的考察」『立命館史学』二
奈良国立博物館 一九八五 「経塚遺宝」
姫路市教育委員会 一九九九 「播磨極楽寺瓦経」
間壁忠彦・間壁霞子 一九六五 「願文より見た瓦経塚造営の意趣」『岡山史学』一五
間壁忠彦 一九九三 「美作間山瓦経」『古文文化談叢』三〇一上
松本隆昌 一九九九 「重要文化財 肥前築山瓦経塚の研究報告」『仏教芸術』二四四
三重県立博物館 一九八六 「三重県立博物館資料目録」二 考古
矢島恭介 一九五七 「播磨極楽寺の瓦経資料」『古代』二五、二六合併号
八尋和泉 一九八二 「筑前飯盛山瓦経(前篇)」『九州歴史資料館研究論集』八
和田千吉 一九〇一 「播磨の瓦経及願文考」『考古界』一一、一二
和田年弥 一九九〇 「伊勢小町塚瓦経の復原研究」『國學院雑誌』九一—九

註

- (1) 遺物を指す場合は瓦経、瓦経を埋納した遺跡を指す場合は瓦経塚と呼ぶ。
(2) 紙に書いた経典(紙本経)を埋納する一般的な経塚を紙本経塚と呼ぶ。
(3) 大日経三巻六枚目の、かわら美術館所蔵「菩提山出土」瓦経と歴博所蔵「小町
塚出土」瓦経拓本は接合する。
(4) 蘇悉地経下巻二三枚目の、奈良国立博物館所蔵瓦経は「伊勢菩提山小町塚出
土」と伝わっている。
(5) 宇野コレクション、水木コレクションの瓦経は資料番号を付けて、「宇野二」
などと呼ぶ。小町塚瓦経以外も含まれているため、欠番が出ることになる。
(6) 関西大学の所蔵品は出土地不明とされており小町塚瓦経の可能性を示唆するに
止まっていたが、この拓本の存在により小町塚瓦経であることが確定した。^{②⑤②⑧}
③④④④④④の例も同様である。
(7) 「無」という文字は「无」「無」「世」については「世」「世」両方の異体字が
用いられている。書き手の区別に使えるかと思いい判断材料のひとつにしてみた。
しかし、同じ面に両方が見られるケースもあり、同一人物が両方使っているよう
である。参考までにこれらの文字遣いも記しておく。
(8) 飽くまでも小町塚規格に忠実に記されているならば、である。
(9) これは二セットの瓦経がいずれも短い間に一字分前にずれた、または誤ったテ
キストから二セットの瓦経が作られた、と考えるよりは、枚が変わる際に杜撰な
写経によって重複したと考えた方が自然であろう。或いは一枚目で生じたずれ
をここで意図的に解消したことも考えられる。
(10) 開結二経を記さず法華経だけを埋納する例は多い。ほぼ全容の判る極楽寺、安

養寺第一、同第三瓦経塚はその例で、大日寺瓦経塚も法華経は二部あるが無量義経と観普賢経は一部ずつしかない。

(11) 網干善教氏は大正蔵八七六「金剛頂経瑜伽修習毘盧遮那三摩地法」で復原しているが、これも合わないところが多い「網干一九七九c」。

(12) 東京国立博物館所蔵「播磨国極楽寺経塚出土瓦経拓本」を参照した。

(13) 表2の「法」は法華経、「義」は無量義経、「観」は観普賢経、「大」は大日経、「頂」は金剛頂経、「蘇」は蘇悉地経、「理」は理趣経、「心」は般若心経、「阿」は阿弥陀経を指す。また複数部存在するものは②のように示した。

(14) このセットは、製作時点において有効だったものである。埋納の際には混乱が生じているため、菩提山瓦経が小町塚に埋納されたりする。しかし小町塚から出土した瓦経は小町塚瓦経と呼ぶべきであろう。用語の混乱を避けるため、本来菩提山に埋納すべく意図したものを菩提山瓦経セット、小町塚のものを小町塚瓦経セットと呼んでおく。

(国立歴史民俗博物館考古研究部)

(二〇〇〇年五月二日受理、二〇〇一年六月二日審査終了)

表2 小町塚・菩提山瓦経片リスト

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
法	1	6	10字野拓1-22	浦口町連合会	十二	裏左中	伊勢市教委 1991 K37	
		8		伊勢市立郷土資料館				
				歴博(拓本)				
				京博			難波田 1980 ①	
		12		神戸市博			中村 1998 (1)	
	2		10字野拓1-29	京博	二卷	裏左上	難波田 1979 (1)	
				南勢町民俗資料館			網干 1988 一	
		18					京博 1981	
		2		文化庁			網干 1981 一	
		7		京博			難波田 1980 ②	
	3	10		歴博(拓本)	四卷十枚	裏左上		
		17		國學院大			網干 1977 ①	
		18		京博			難波田 1980 ③	
		1		國學院大			網干 1977 ②	
		2		三重県博			三重県立博物館 1986	
	4	3	水木606	個人	五卷二	表右中		
		7		歴博				
		8		個人				
		15a		京都大				
		15b		歴博(拓本)				
	5	17	宇野拓1-6 宇野拓2-15	伊勢市立郷土資料館	五卷三	表右上		
		19		京都大				
		1		皇学館大考古研			伊勢市教委 1991 B43	
		3		関西大			網干 1982a ①	
		6		東博				
	6	8	宇野拓2-7	京都大	五卷十一	表右中		
		10		関西大			網干 1982a ②	
		14		樺考研			網干 1979a 一①	
		17		個人				
		17		個人				
	7	1	宇野拓2-21	歴博(拓本)	五卷十六	表右上		
		2		京博				
		3		京博				
		5		奈良博				
		7		京博				
	8	12	宇野拓1-36	歴博(拓本)	六卷九	表右上		
		16a		樺考研				
		16b		関西大				
		17		歴博(拓本)				
		17		かわら美術館				
	9	3	宇野拓1-20	個人	五卷十二の誤り	裏左中		
		5		中山欽文氏				
		7		浦口町連合会				
		9		射和文庫				
		10		奈良博				
	10	3	宇野拓1-17	京博	五卷	裏左中	津田 1976 1	
		5		京博			伊勢市教委 1991 K35	
		7		奈良博			津田 1976 3(Ⅱ)	
		9		歴博(拓本)			網干 1979b ①⑨	
		11		歴博(拓本)			難波田 1979 (2)	
	11	3	宇野拓1-36	京博	六卷九	表右上	網干 1979b ②⑩	
		5		奈良博				
		7		歴博(拓本)				
		9		歴博(拓本)				
		11		個人				

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
義 観 大	7	15		個人	六卷十八	表左下	網干 1979a 一③	表面途中から奥書
		18		檀考研			奈良博 1985	
		2		個人				
		3		東博				
		4		名古屋市博	七卷八	表右中	京博 1981	『いせ小町塚之古瓦』
		7		龍谷大(拓本)			網干 1982b 一①	
		8		東博				
		11	宇野拓1-43	歴博(拓本)				
			宇野拓2-11	歴博(拓本)	七卷十一	裏右上		
			宇野拓2-26	歴博(拓本)				
			宇野拓2-27	歴博(拓本)				
			宇野拓1-2	歴博(拓本)				
		12	宇野拓1-37	歴博(拓本)	七卷	表左中		
			宇野拓2-14	歴博(拓本)				
			宇野拓2-5	歴博(拓本)				
			かわら美術館					
			宇野拓2-24	歴博(拓本)	十二	表左中		
			宇野拓1-9	歴博(拓本)				
			宇野拓2-22	歴博(拓本)				
		13		國學院大			網干1977 ⑦	
			宇野拓2-17	歴博(拓本)	三	裏右上		
			宇野拓1-23	歴博(拓本)				
		14		水野孝文氏			網干 1979c ⑨	神谷儀八氏旧蔵
			かわら美術館				網干 1979c ⑩	
			宇野拓1-42	歴博(拓本)	七卷十四	裏右上		
			宇野拓2-20	歴博(拓本)				
			宇野拓2-29	歴博(拓本)				
	8	16		京都大		八卷十一		『いせ小町塚之古瓦』
		3		龍谷大(拓本)			網干 1982b 一②	
			宇野拓1-1	歴博(拓本)				
		5		個人				
		11a		東博	普賢七	裏右中		
		11b		京博			難波田 1981a (7)	
		5		個人			難波田 1981b (5)	
		7		常楽寺美術館			伊勢市教委 K36	
		11		浦口町連合会	大日経後一卷一	裏左中	伊勢市教委 K34	
		13		浦口町連合会				
	大	1		東博			網干 1979b 21	
		3		個人				
		4		京都大	大日一卷十四	裏左中		井村栄一氏旧蔵 三村清三郎氏拓本帖
		6		奈良博				
		7		京都大				
		8	宇野拓2-13	歴博(拓本)				
		9		檀考研	大日経後一卷一	裏左中	網干 1979a 一④	
		13	宇野拓1-19	歴博(拓本)				
		1		個人				
		4a		京都大				
		4b		神戸市博			中村1998 (5)	
			かわら美術館					
		5		京都大				
		10		個人				
		14		喜田川忠之氏		裏左中	和田 1990 A	井村栄一氏旧蔵 三村清三郎氏拓本帖
			浦口町連合会				和田 1990 A	
			喜田川忠之氏(拓本)				和田 1990 A	
			個人				和田 1990 A	
		17		個人				

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
2		18		個人				裏面奥書
		1		個人				
		3		京都大			名古屋市博 1992	『古瓦搦影張込帖』
		4		東博(拓本)				法金剛院蔵『古瓦譜』
		5a		奈文研(拓本)				
		5b		かわら美術館			名古屋市博 1992	『古瓦搦影張込帖』
		6		東博(拓本)				
		9		個人	大日□六	裏左中		
				京博	大日	裏左中	難波田 1980 ④	
				個人				
				個人				
		10a		京博	大日二卷十	裏左中	難波田 1980 ⑤	
		10b		射和文庫			津田 1976 3(Ⅲ)	
		11	宇野3	歴博				
				個人			網干 1978 ③	
		13		関西大	卷十三	裏左中	網干 1988 三	
				京都大				
				関西大				
				個人			伊勢市教委 1991 K40	
		15		大手前女子学園				
		18	宇野拓1-12	歴博(拓本)				
			宇野拓1-16	歴博(拓本)				
		19	水木603	歴博	ゝ二十□	裏左上		
			宇野拓1-40	歴博(拓本)			網干 1978 ④	
			宇野拓1-32	関西大			網干 1979c ③	
				水野孝文氏				
				個人				
		20		京博			難波田 1981a (5)	
		21		個人				裏面奥書
				不明			和田 1990 D	裏面奥書
				個人	大ゝ二ゝ廿一	表左上	和田 1990 D	両面奥書
		1a		喜田川忠之氏(拓本)				
		1b		京都大	大日後三卷一	裏左上		
		2		東博	大日三卷二	裏左上		
				京都大				
		3	水木601	歴博			難波田 1980 ⑥	
			水木602	歴博			網干 1979b 26	
				京博			網干 1980 一②	
				奈良博			網干 1976 (一)	
		4	宇野拓1-18	神谷達也氏				
				関西大				
				個人				
		5		大阪市博	大日三	裏左上	網干 1986 (3)	
			宇野拓2-3	歴博(拓本)				
		6		かわら美術館				
			宇野拓1-10	歴博(拓本)				
		8	宇野拓1-27	関西大			網干 1978 (二)	
			宇野拓2-2	歴博(拓本)				
		12		京博			難波田 1980 ⑦	
			宇野拓1-7	歴博(拓本)				
				個人				
		13		個人				
				國學院大			網干 1977 ⑧	
				國學院大			網干 1977 ⑨	
			宇野拓1-33	歴博(拓本)				
			宇野拓2-1	歴博(拓本)				
		14		喜田川忠之氏(拓本)			和田 1990 F	三村清三郎氏拓本帖

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
頂	上	4	1a	喜田川忠之氏 瀧島聡一郎氏 東博 喜田川忠之氏 喜田川忠之氏	大日経四巻二過去僧定禪 卷八	裏左中 裏左上	和田 1990 F 和田 1990 E 和田 1990 E 和田 1990 E	[いせ小町塚之古瓦]
		1b	京都大	東博			奈良国立博物館 1985	
		1a	東博	個人			網干 1981 2	
		2b	文化庁	個人			網干 1979a 一⑤	
		2c	個人	東博			網干 1982b 二	
		5	個人	龍谷大(拓本)				
		8	東博	個人				
			榎考研	個人				
		10	東博	個人				
		11	龍谷大(拓本)	個人				
		12	個人	個人				
		14	個人	個人				
		5	2	個人	大日経 日経六巻三	裏左中 裏左中	網干 1982a ④	
		3	個人	個人			網干 1978 (二)	
		4	関西大	個人				
			5 宇野拓2-12	京都大				
			8	京都大				
			9	京都大				
			14	東観音寺			豊橋市美術博物館 2000	
		6	1 宇野拓1-11	歴博(拓本)				
			2	個人				
			3 宇野拓1-4	歴博(拓本)				
			6 宇野拓2-28	奈良博	大日経六 大日経六十三	裏左中 裏左下	網干 1979b 28	
			11	京都大				
			12	京都大				
			13	個人				
			14a	京都大				
				奈良博			網干 1979b 27	
			14b	個人				
				東博				
				京都大				
		7	4	個人	日経七巻五 大日経七巻九 大日七巻十四 金頂経	裏左上 裏左上 裏左上 裏左上		
			5	東博				
				個人				
			9	國學院大			網干 1977 ⑩	
			11	京都大				
			12	関西大			網干 1982a ⑤	
				個人				
			14	個人				
			2	東博				
			6 宇野拓2-23	歴博(拓本)				
			宇野拓1-15	歴博(拓本)				
			宇野拓1-39	歴博(拓本)				
			7 宇野拓1-14	歴博(拓本)				
			9	個人				
				知立市教育委員会				
			12	大脇正一			大脇 1920	
			13	東博				
			宇野拓1-13	歴博(拓本)				
			宇野拓1-35	歴博(拓本)				

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
蘇	中	1		京都大				
		2	宇野拓1-31	歴博(拓本)				
		6		京都大				
		7a		個人				
				豊橋市美術博物館	金剛頂経中七	裏左下	網干 1980a 二	
		7b	宇野2	歴博	金剛頂後	裏左上		
			宇野拓2-25	歴博(拓本)	中巻七	裏左上		
			宇野拓2-9	歴博(拓本)				
		9		個人				
		10	宇野拓2-18	関西大			網干 1976 (三)	
		12		京都大				
	下	2		個人				
				東博				
		4		個人				
				知立市教育委員会				
		5		檀考研			網干 1979a 一⑥	
		6a		個人				
				京都大	金剛頂経下六	裏左中		
				奈良博			網干 1979b 34	
		6b		熊谷貞雄氏			津田 1976 5	
		7		個人				
		8		関西大			網干 1982a ⑥	
				京都大				
		9		個人	下九	裏左中		
		13a		東博	金剛頂経下巻十三	裏左上		
				東博				
		13b		個人	後	裏左上		裏面奥書
	上	1		東博				
		2	宇野拓2-4	歴博(拓本)				
		3		國學院大			網干 1977 ⑬	
		5		個人	上五	裏左中		
		7	宇野拓1-30	歴博(拓本)				
		9		京博			難波田 1980 ⑧	
		10		神谷儀八氏			網干 1979c ④	
				京都大				
				京都大				
		11		個人				
		14	宇野拓1-26	歴博(拓本)				12、13いずれか片面
		18		個人	□上十八	裏左中		
				伊良湖小学校			網干 1988 五	
		19		京都大	蘊悉地経上十九	裏左上		
				個人				
				個人				
		22		かわら美術館				
		23		個人				
		2		個人				
		4		個人				
		12		個人				
		15		かわら美術館				
		15	宇野拓1-25	関西大			網干 1978 ⑤	裏面罫線のみ
			宇野拓1-24	歴博(拓本)				裏面梵字
				東博				裏面梵字
		16a	宇野拓1-28	歴博(拓本)				
		16b		檀考研			網干 1979a ⑦	
				個人				
				個人				
		18a		東博	蘊悉中十八	裏左上		

経	巻	枚	資料番号	所 蔵	丁 付	個所	文 献	備 考
理	下	18a		個人				
		19		かわら美術館				
		21		京都大				
				個人	蕪悉中廿一	裏左上		
				個人				
		22		個人				
		23		東博	蕪悉地経中	裏左中		
				喜田川忠之氏(拓本)	廿三僧隆□	裏左中	和田 1990 H	三村清三郎氏拓本帖
				喜多川忠之氏			和田 1990 H	
		2		龍谷大(拓本)			網干 1982b 三	『いせ小町塚之古瓦』
		4		個人				
		7		個人				
		9		京博			難波田 1980 ⑨	8は片面
		11		東博				10は片面
				甲陽学院			黒田 1998	
		12		伊勢市立郷土資料館				
		13		國學院大			網干 1977 ⑫	
		14		東博	蘇三卷十四	裏左上		
			宇野拓1-38	歴博(拓本)				
		18		神戸市博			中村 1998 (6)	
		22		國學院大	蕪	裏左中	網干 1977 ⑪	
		23		奈良博			網干 1979b 41	
		24a		大阪市博			網干 1979a 9	
		24b		個人	廿四	裏左上		
				京博	蕪後下之	裏左上	難波田 1980 ⑩	
		25		常楽寺美術館			難波田 1981b 6	
		26		京都大	蘇三卷廿六	裏左上		
		27		個人				
			宇野拓1-41	歴博(拓本)				
		29		常楽寺美術館			難波田 1981b (7)	
				かわら美術館	蘇三卷廿九	裏左上	網干 1979c ⑤	神谷儀八氏旧蔵
			宇野拓2-8	歴博(拓本)				
		30	宇野拓1-8	歴博(拓本)				
			宇野拓2-6	関西大			網干 1976 四	
			宇野拓2-10	関西大			網干 1978 ⑥	
		31		個人	蘇三卷卅一	裏左上		
			宇野拓1-5	歴博(拓本)				
		32	宇野拓2-19	歴博(拓本)				裏面奥書
礼		1		服部和彦氏	理趣一	裏左上	網干 1979c ①	
		2		個人				
		3		個人				
		4		小山正文氏			網干 1979c ②	
		5		東博	理五	裏左上		
		6		名古屋市博			名古屋市博 1992	『瓦礫舎古瓦譜』
		1		個人	金剛礼讃一	裏左上		
				個人			網干 1980 ①	
		3		神谷達也氏			難波田 1980 ⑪	
				京博				
心				京都大				
		4		京博			難波田 1980 ⑫	裏面奥書
		1a		東博				裏面奥書
				個人				裏面奥書
				京博			難波田 1980 ⑬	
		1b		射和文庫	僧聖賢	表左下	津田 1976 3(I)	裏面奥書
		1c		不明			伊勢市教委 1991	『伊勢参宮名所図絵』

Gakyo, for the Aim to be Reborn in Paradise: by the Restoration of Gakyo Buried at Ise-Komachizuka and Ise-Bodaisan

MURAKI Jiro

Kyozuka, or sutra mounds, used to be made under the influences of various factors such as the faiths in *miroku* (Maitreya), and *amida* (Amitabha). As the time passed by, this became converged to the Amida faith that one would pray for the peaceful life after peaceful death by making a sutra mound as an act of doing merit.

Besides common sutras inscribed on paper, there used to be Gakyozuka (roof-tile sutra mounds), where clay plates engraved with sutras and then baked were buried. Compared to paper sutras that decay, the roof-tile sutras were believed to be “permanent” and therefore could remain existent until the Maitreya was born down into this world. This is why roof-tile sutras have been regarded as the symbol of sutra mounds according to the Maitreya faith.

For the Ise-Komachizuka sutra mound and the Bodaisan sutra mound, there was a confusion of the archaeological remains as those roof-tiles were produced at the same time and then buried into each of the mounds. However, there is a fragment of a roof-tile sutra in the collection of rubbings owned by the National Museum of Japanese History and is identified as excavated from Komachizuka. By analyzing the piece, it has proved that the remains in both mounds were mixed from the very beginning of the burial. This means that the largest emphasis was placed on the production itself, rather than the process of burial and preservation. Based upon this fact, this paper clarifies the point why roof-tile sutras were no longer made from that time on, by demonstrating that the sutra mounds in Komachizuka and Bodaisan, where the most recent roof-tile sutras engraved with the year were found, reflect little influence of the Maitreya faith, and that they were rather a product of the Amida faith as an act of doing merit just as paper sutra mounds in those days.